

Ⅱ. 評定尺度調査の分析結果

【評定尺度調査の分析にあたって】

今回用いた評定尺度は、「あてはまる」「ややあてはまる」「あまりあてはまらない」「あてはまらない」の4段階評価である。本報告書においては、データの理解のしやすさや分析のしやすさを考慮し、便宜的に4段階のカテゴリーに4～1の点数を振り、その平均値を算出することによって、データの代表値とした。ただし評定尺度の各カテゴリーに振られた「数字」を「数値」として加減乗除の演算をすることは、厳密に言えば統計処理として適切でない。3が2よりもあてはまる程度が大きいことは言えても、4と3の間と3と2の間が等距離(つまり1の間隔)だという保証はどこにもないからである。しかし4つのカテゴリーごとの相対度数(パーセント)を見て、そこから何らかの傾向を把握することは必ずしも容易ではないため、平均値を回答の傾向を推察するための目安の1つとして用いていくことにしたい。

また、ここでの平均値は何らかの単位を持つものではないので、データ同士の相対比較でしかその傾向をつかみにくいという性格を持っている。仮にある項目の平均値が、他の項目より低かったとしても、大部分の回答者がその項目に対して肯定的な評価をしていれば、その項目の評価は低いと簡単に断言できるものではないからである。つまり絶対的な評価が把握しにくいと言える。そこで、「あてはまる」もしくは「ややあてはまる」と回答した対象者の割合を同時に提示した。これによって、その評価項目に対して肯定的な評価をしている学生がどれくらいの割合で存在するかを推測する目安となろう。

さらに回答者の属性ごとの回答者数を提示しておく。本来ならば、グラフ等のデータごとに回答者数を示すべきであるが、データの構造上、全てのデータに回答者数を掲載すると非常に煩雑になるため、ここに一括して掲載することにした(次頁表2-1)。以下、本章においては、常に次頁の回答者数を念頭においてデータを見る必要がある。特に回答者数の少ない層は誤差も大きく出る可能性があるため、注意が必要である。たとえば、学部の職業別「農業等」、大学院の年齢階層別「20～29歳」等の場合である。なお、大学院の年齢階層別「19歳以下」、学部および大学院の職業別「農業等」「他大学の学生」は極端に回答者数が少ないため、本報告書の分析からはずした。

表 2 - 1 回答者数一覧

表 2 - 1 回答者数一覧

【学部】				【大学院】			
全体		(単位：人)		全体		(単位：人)	
メディア		年齢階層		メディア		年齢階層	
テレビ科目 (TV)	3,126	19歳以下	35	テレビ科目 (TV)	182	20～29歳	11
ラジオ科目 (R)	1,994	20～29歳	553	ラジオ科目 (R)	364	30～39歳	82
職業		30～39歳	866	職業		40～49歳	155
公務員等	412	40～49歳	1,139	公務員等	59	50～59歳	160
教員	184	50～59歳	850	教員	132	60～69歳	95
会社員	943	60～69歳	1,161	会社員	123	70歳以上	41
個人営業・自営業	320	70歳以上	452	個人営業・自営業	38	プログラム	
農業等	37	コース		看護師等	20	生活健康科学	21
看護師等	640	基礎科目	771	家事専業	33	人間発達科学	174
家事専業	387	共通科目：人文系	424	パート・アルバイト	42	臨床心理学	91
パート・アルバイト	506	共通科目：社会系	555	無職	59	社会経営科学	107
他大学等の学生	55	共通科目：自然系	176	その他	34	文化情報学	153
無職	1,174	共通科目：外国語	310				
その他	337	生活と福祉	176				
		心理と教育	594				
		社会と産業	1,144				
		人間と文化	756				
		総合科目	86				
		夏季集中科目	128				

※職業及び年齢には無回答があるため、職業及び年齢階層の回答者数をそれぞれ合計しても、全体の回答者数とは一致しない。

Ⅱ－1. 学部の分析結果

Ⅱ－1－1. 項目平均から見た全体的傾向

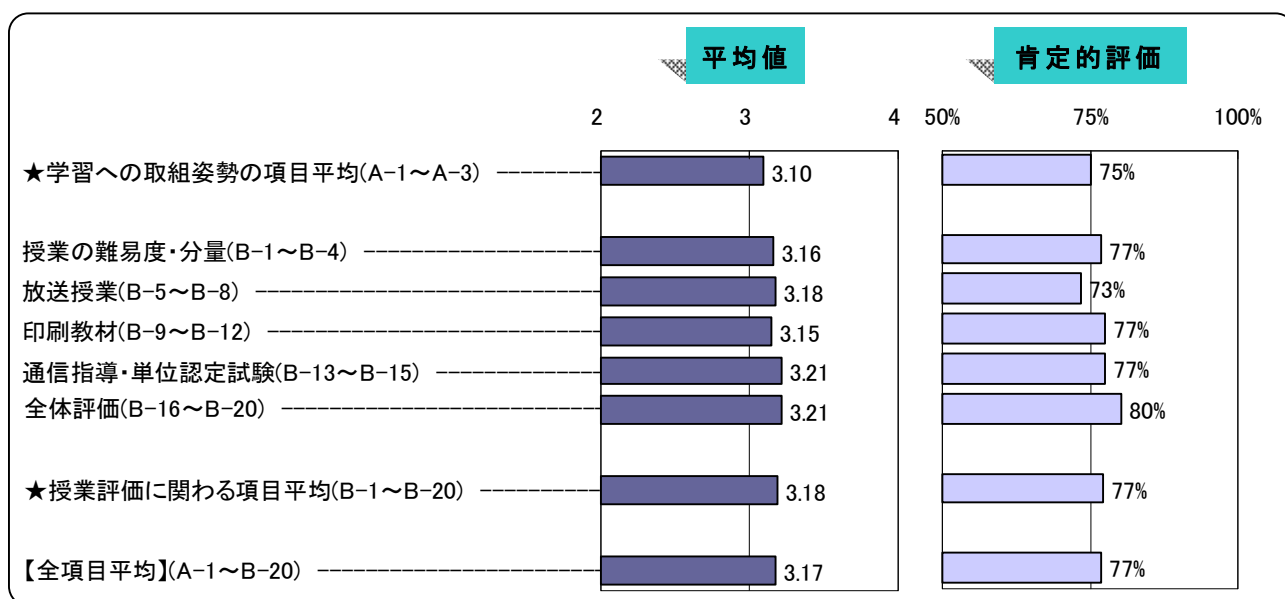
学部の回答者全体について、評価項目の内容ごとにその平均を算出したのが図2－1である。まずこれによって評価の全体的傾向を把握しておくこととする。

今回の調査における項目平均は、いずれもまずまずの高さの評価と言える。

『学習への取組姿勢の項目平均』は平均値 3.10、肯定的評価（「あてはまる」＋「ややあてはまる」）75%、同様に『授業評価に関わる項目平均』も平均値 3.18、肯定的評価 77%とまずまずの高い値を示している。比較的熱心に学習に取り組んだと同時に、授業に対する評価も比較的高いということが言える。

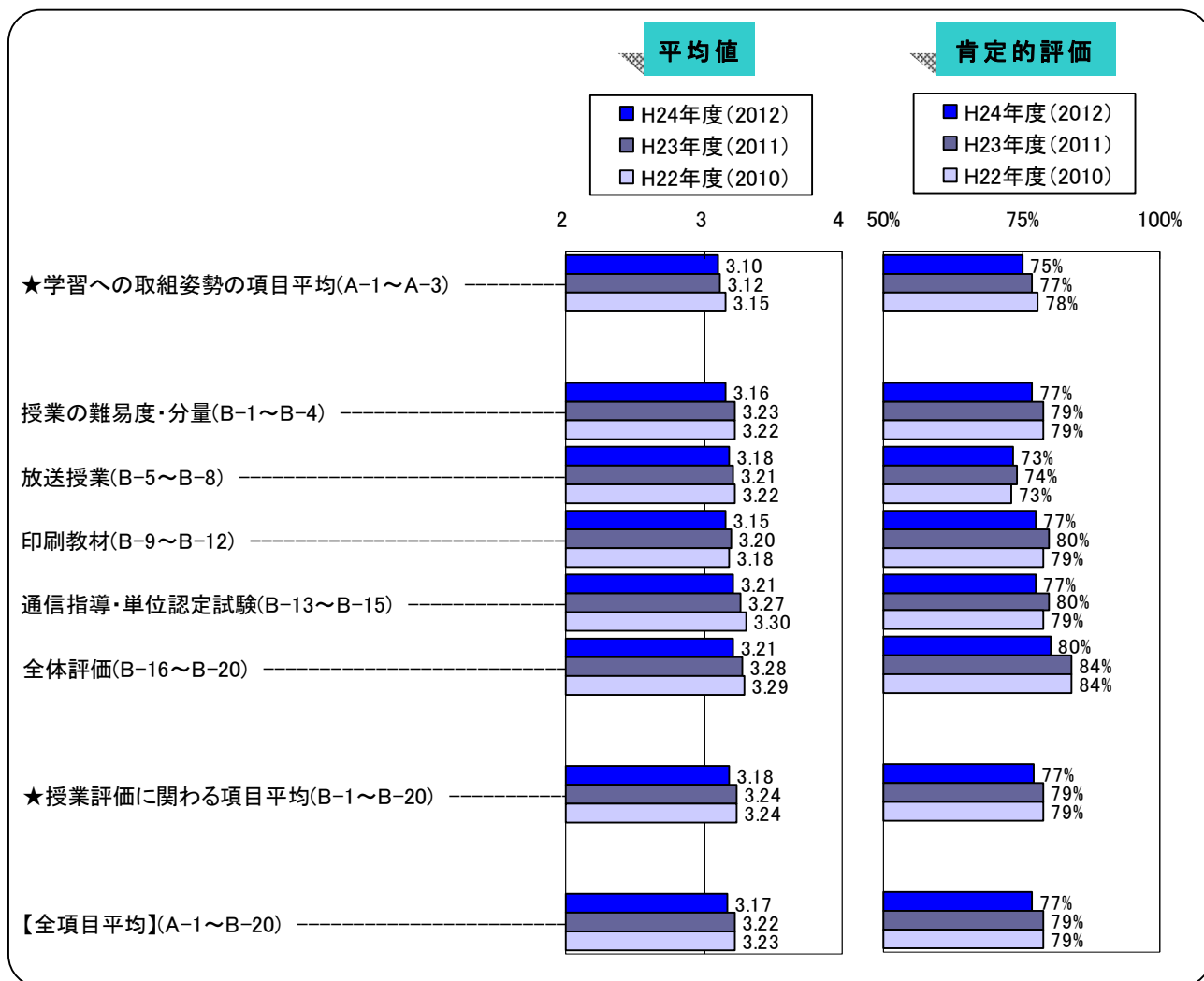
『授業評価に関わる項目平均』をさらに内容ごとにみると、『全体評価』は肯定的評価をしている人が 80%と高い。『放送授業』は肯定的評価をしている人が、他の項目平均よりやや少ない 73%となっている。

図2－1 【学部】項目平均による全体的傾向



評価項目平均を科目の開設年度で比較してみると（図2-2）、2012年度新規開設科目は、2011年度新規開設科目に比べ、『学習への取組姿勢の項目平均』をはじめ、全体的にやや下がっている。

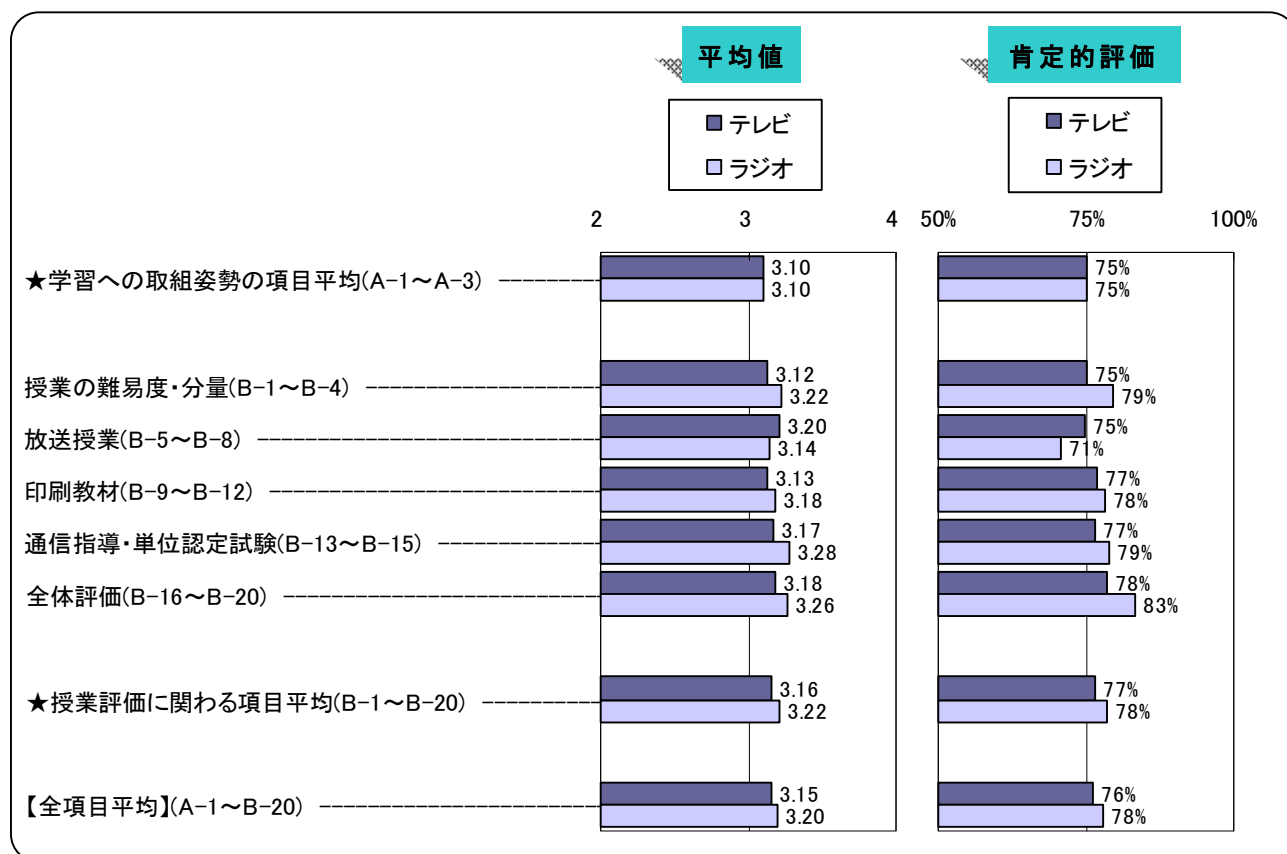
図2-2 【学部】項目平均による全体的傾向（開設年度比較）



メディア別に 2012 年度新規開設科目の評価項目の平均を見ると（図 2-3）、『学習への取組姿勢の項目平均』は、ほぼ同じ値であり、『放送授業』の項目以外はラジオ科目がテレビ科目を上回っている。

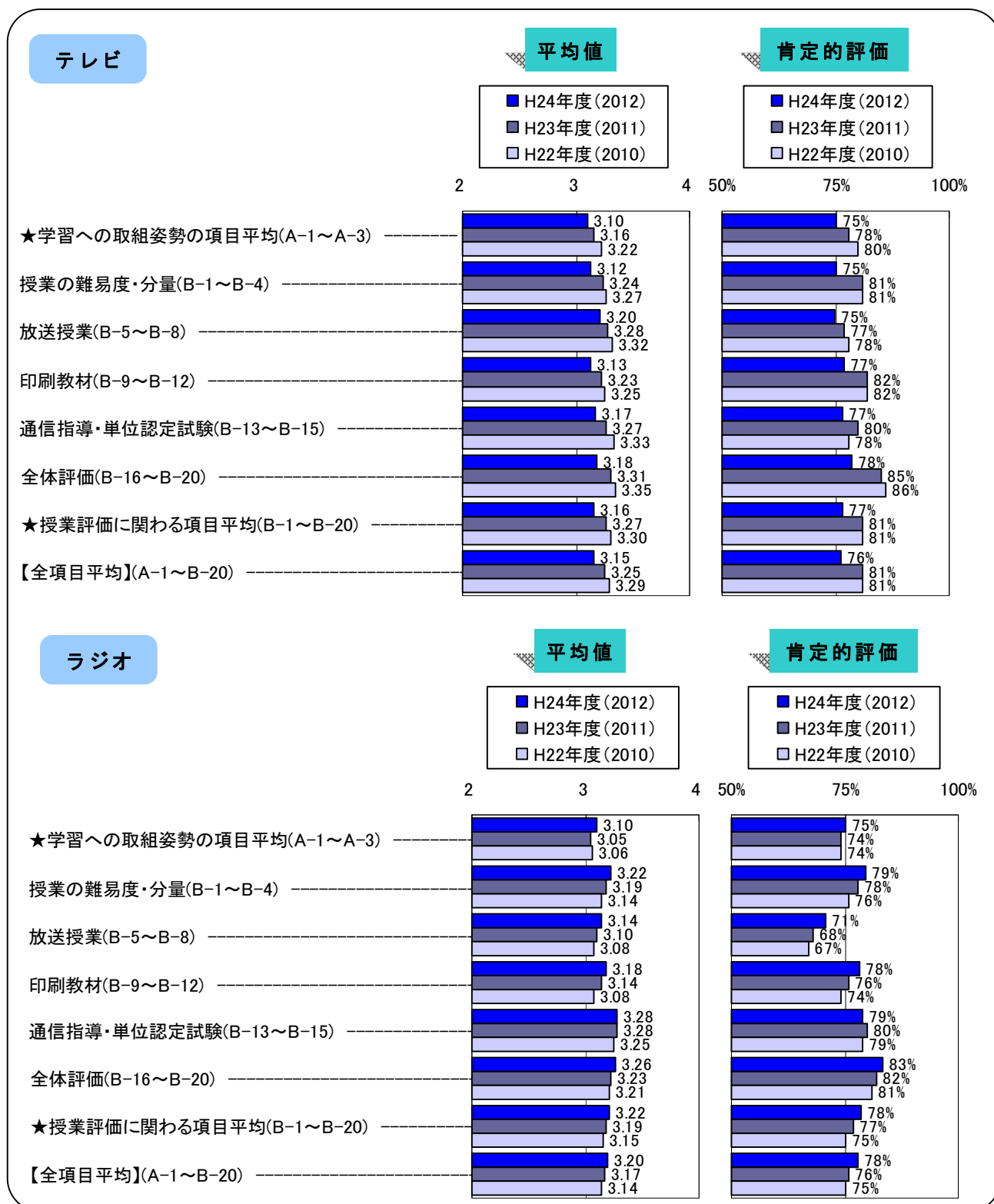
肯定的評価については、平均値の内容と同じ傾向にある。

図 2-3 【学部】項目平均によるメディア別全体的傾向



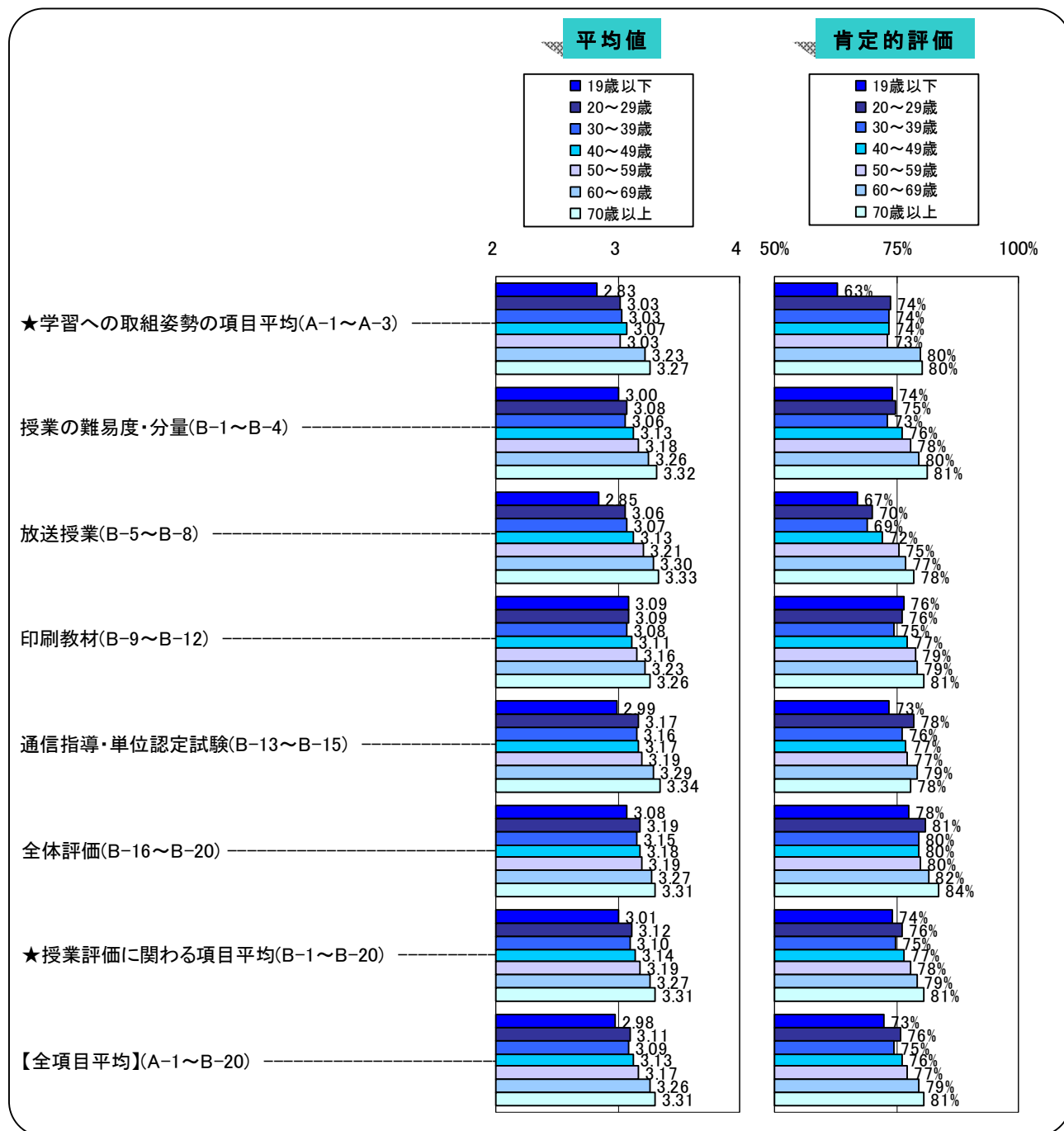
次にメディア別の項目平均を科目の開設年度で比較してみると（図2-4）、テレビ科目は、いずれの項目平均でも2011年度より低い値となっている。このことからテレビ科目については改善の効果が現れていないのに対し、ラジオ科目は、いずれの項目平均でも2012年度の方が高い値となっている。このことから両年度間の改善の効果は、主にラジオ科目の改善の効果が大きいことが分かる。

図2-4 【学部】項目平均によるメディア別全体的傾向（開設年度比較）



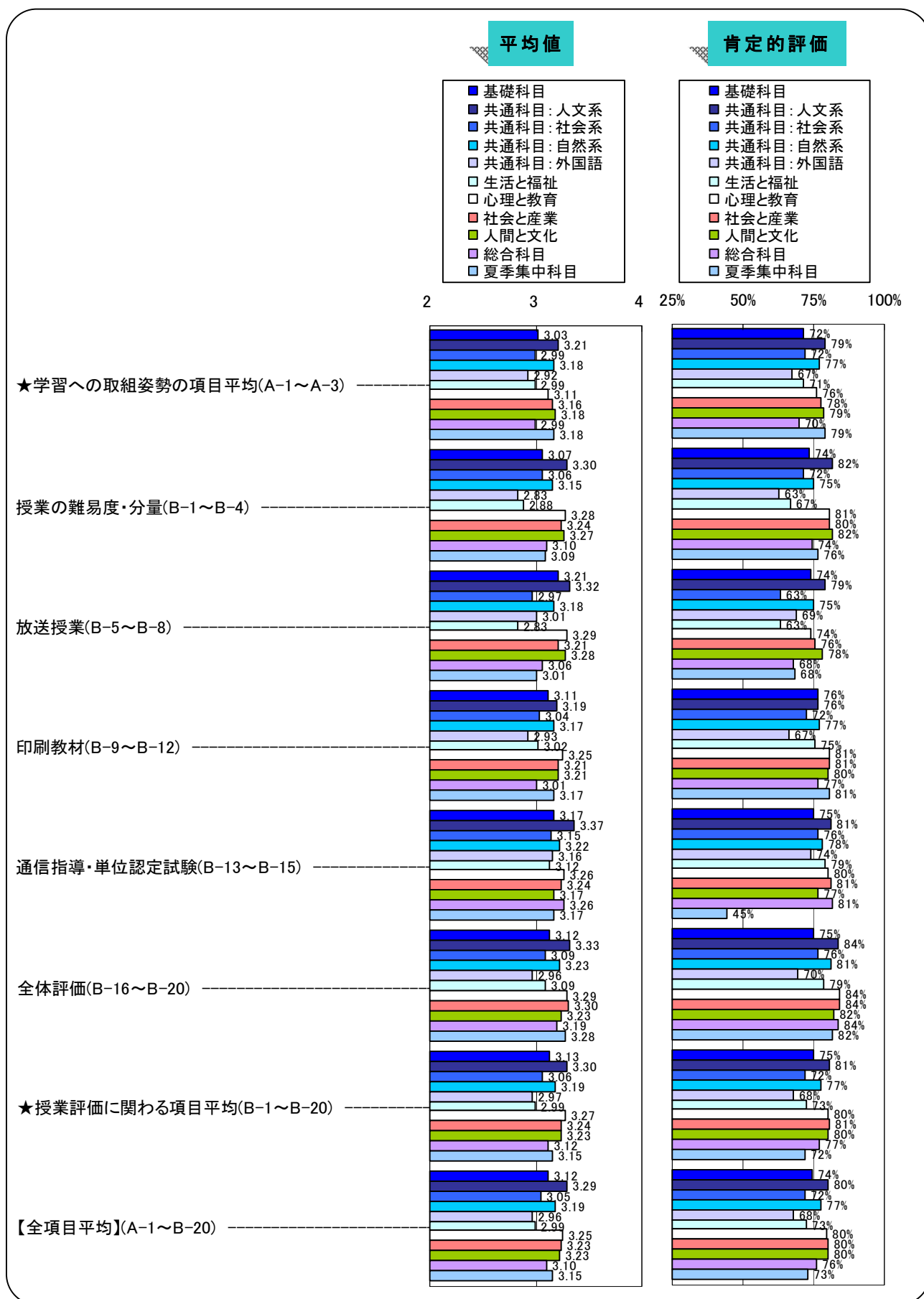
回答者の年齢階層別に 2012 年度新規開設科目の項目平均を見ると（図 2 - 5）、20 歳代が 30 歳代とほぼ同じか上回っているが、全体的には、いずれの項目平均もほぼ年配層ほど評価が高くなる傾向にある。

図 2 - 5 【学部】項目平均による年齢階層別全体的傾向



科目の所属コース別に項目平均を見ると（次頁図2-6）、『学習への取組姿勢の項目平均』では「共通科目：人文系」「共通科目：自然系」「人間と文化」「夏季集中科目」の評価がやや高く、「共通科目：外国語」の評価がやや低い。一方、『授業評価に関わる項目平均』では、「共通科目：人文系」「心理と教育」の評価がやや高く、「共通科目：外国語」「生活と福祉」の評価がやや低い。また、ほぼ全項目において「共通科目：外国語」と「生活と福祉」の評価が低く、改善が求められる。

図 2 - 6 【学部】 項目平均による所属コース別全体的傾向

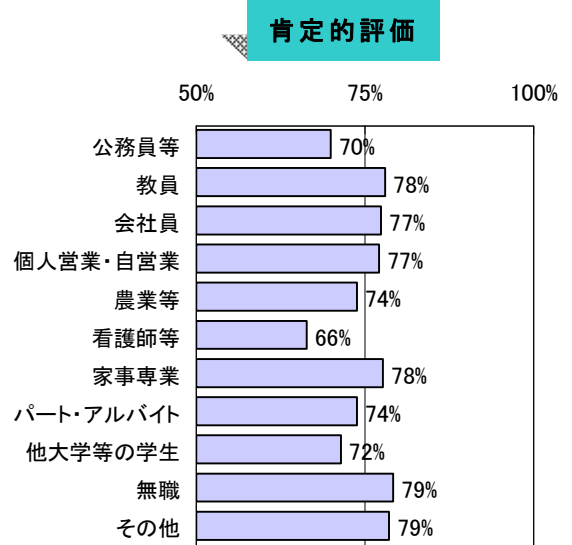
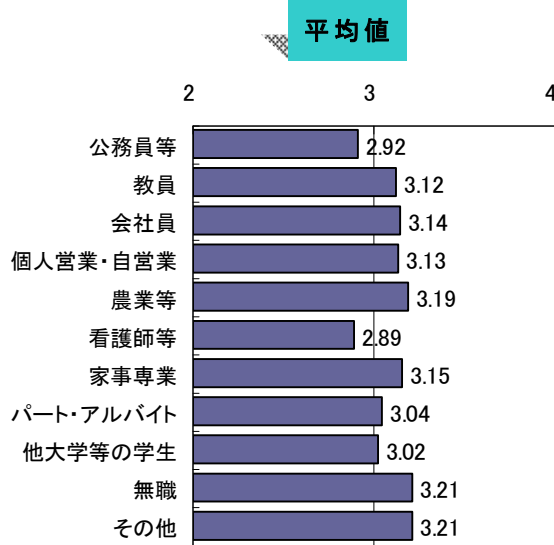


回答者の職業別に見ると（次頁図 2 - 7）、『学習への取組姿勢の項目平均』は、「無職」「農業等」で高い値となっているが、「看護師等」は低い値となっている。

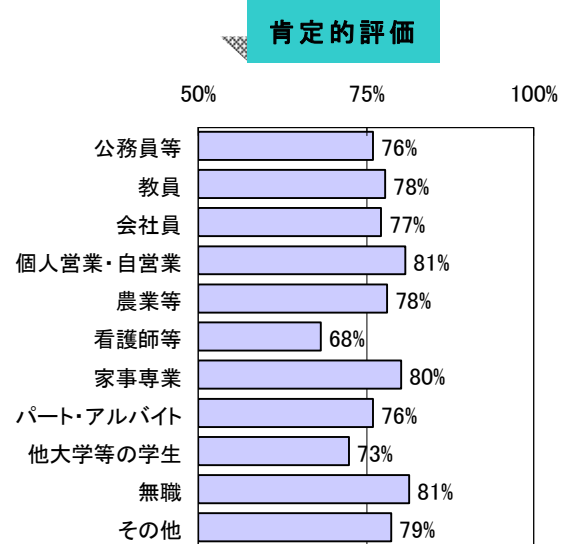
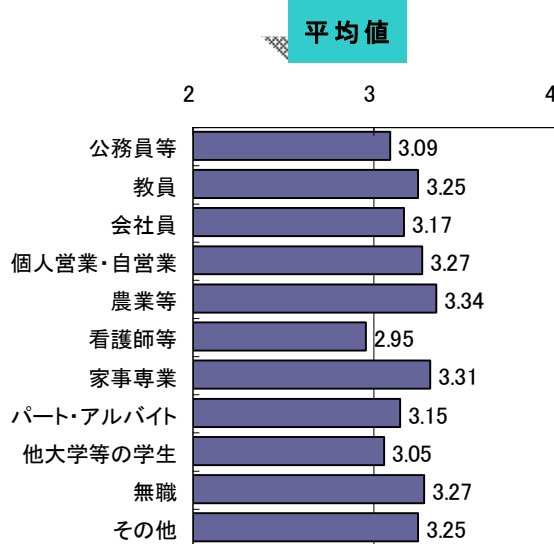
『授業評価に関わる項目平均』、『全項目平均』では、「農業等」「家事専業」「個人営業・自営業」「無職」で高い値となっている。さらに肯定的評価を見ると、いずれの項目でも「家事専業」「個人営業・自営業」「無職」の評価が高く、「看護師等」の評価が低い結果となっている。

図 2 - 7 【学部】項目平均による職業別全体的傾向

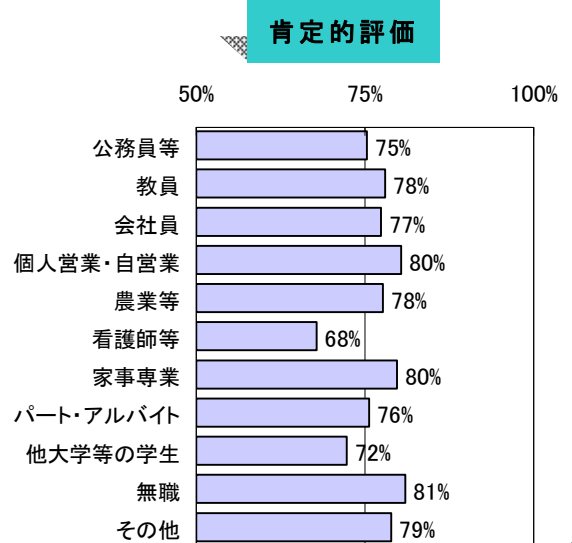
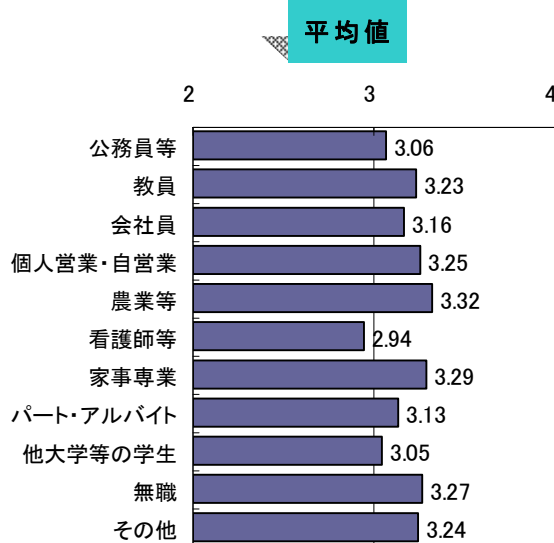
★学習への取組姿勢の項目平均(A-1～A-3)



★授業評価に関わる項目平均(B-1～B-20)



【全項目平均】(A-1～B-20)

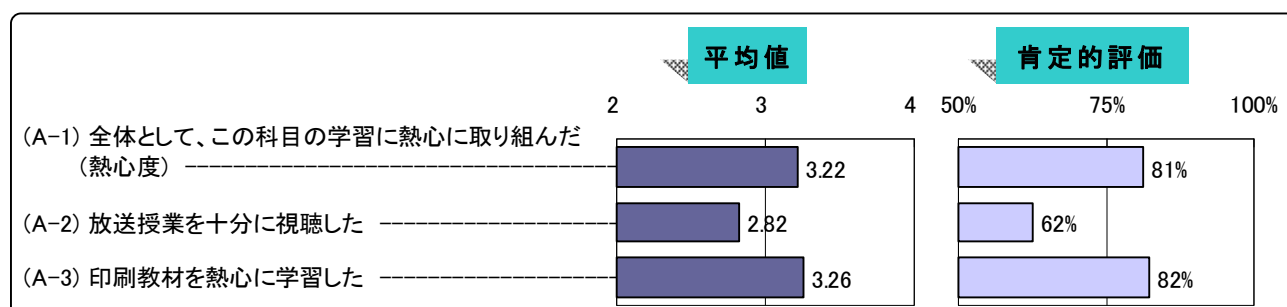


Ⅱ-1-2. 学習への取組姿勢

ここからはそれぞれ評価項目ごとに調査結果を見ていく。

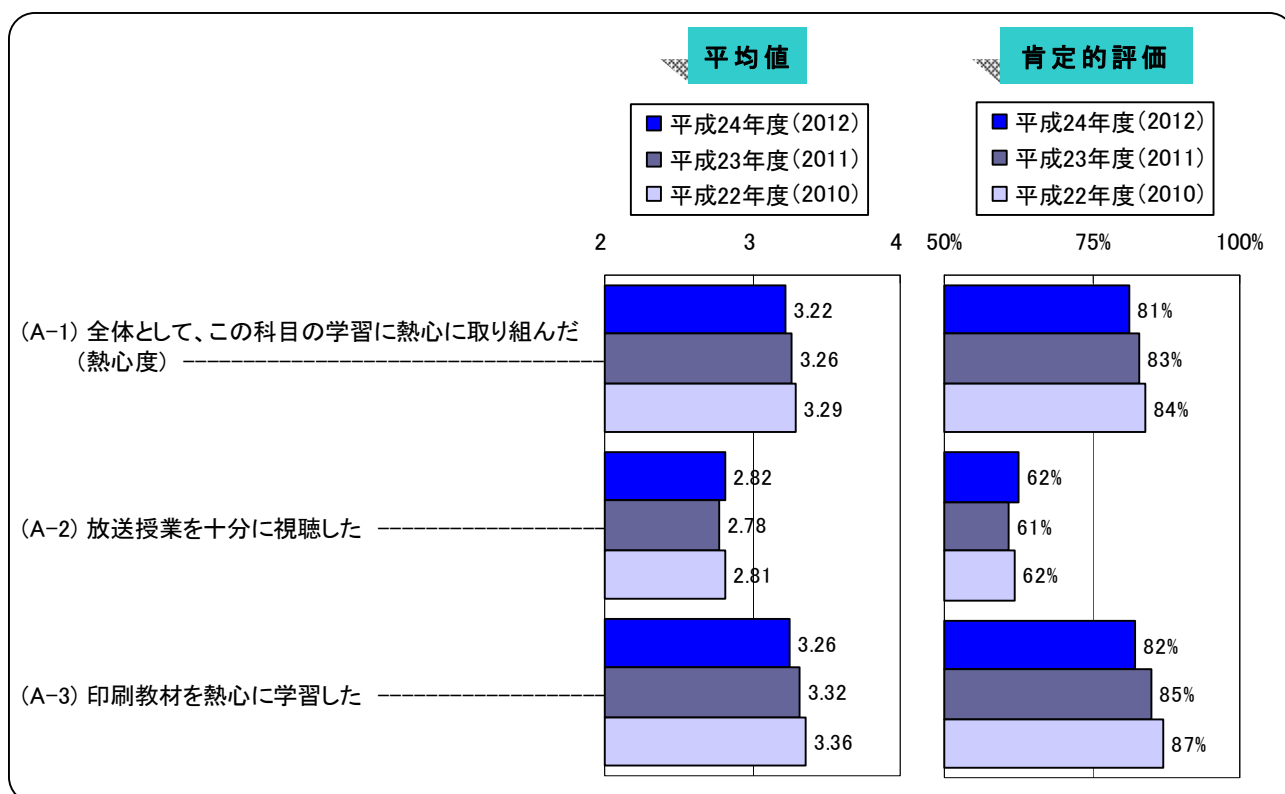
学習への取組姿勢（図2-8）では、(A-1)「全体としてこの科目の学習に熱心に取り組んだ（熱心度）」は、平均値 3.22、肯定的評価 81%と熱心に学習されている。同様に (A-3)「印刷教材を熱心に学習した」も平均値 3.26、肯定的評価 82%と高い。しかしこれらに比べると、(A-2)「放送授業を十分に視聴した」は、平均値 2.82、肯定的評価 62%と低く、学習は印刷教材中心という傾向が見られる。

図2-8 【学部】回答者全体の取組姿勢



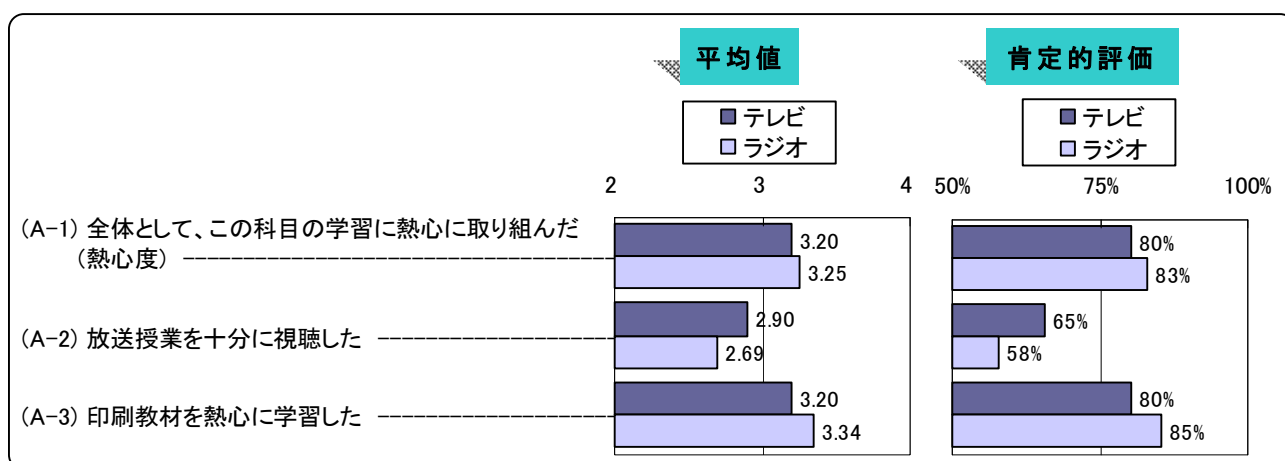
取組姿勢を時系列で見ると（次頁図2-9）、(A-2)「放送授業を十分に視聴した」は、やや増加してはいるが、ほかの項目は、年ごとに取組姿勢の値が下がっており、授業内容の改善に注力することによって取組姿勢も向上するものと考えられる。また、インターネットなどでの番組提供を増やすことによって、今以上に、時間に制約されない視聴環境を作っていくことも必要であろう。

図 2 - 9 【学部】回答者全体の取組姿勢（時系列）



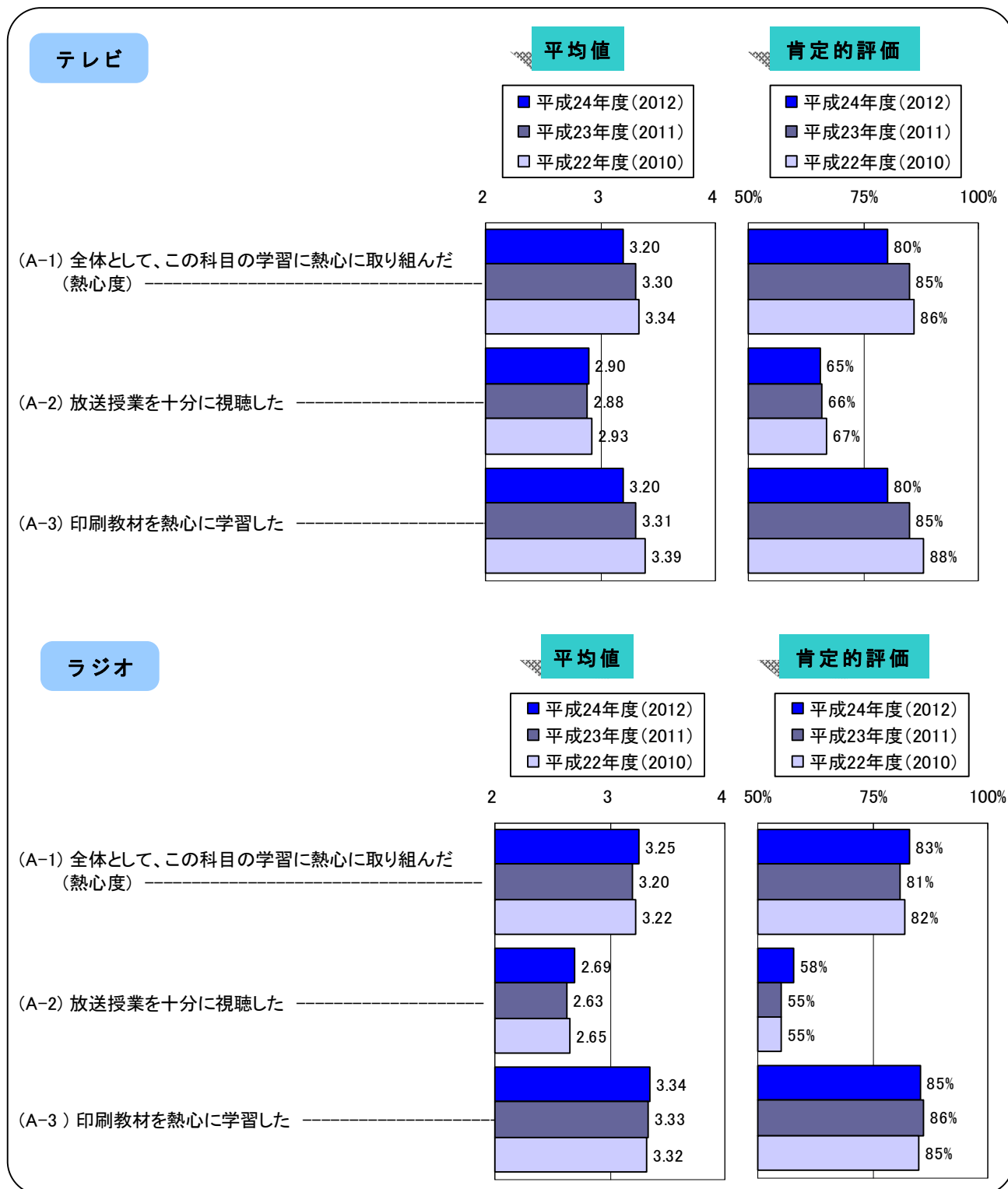
次にメディア別に取り組姿勢を見ると（図 2 - 1 0）、テレビ科目は放送授業を中心に学習を行い、ラジオ科目は印刷教材中心という傾向が見られる。

図 2 - 1 0 【学部】メディア別の取組姿勢



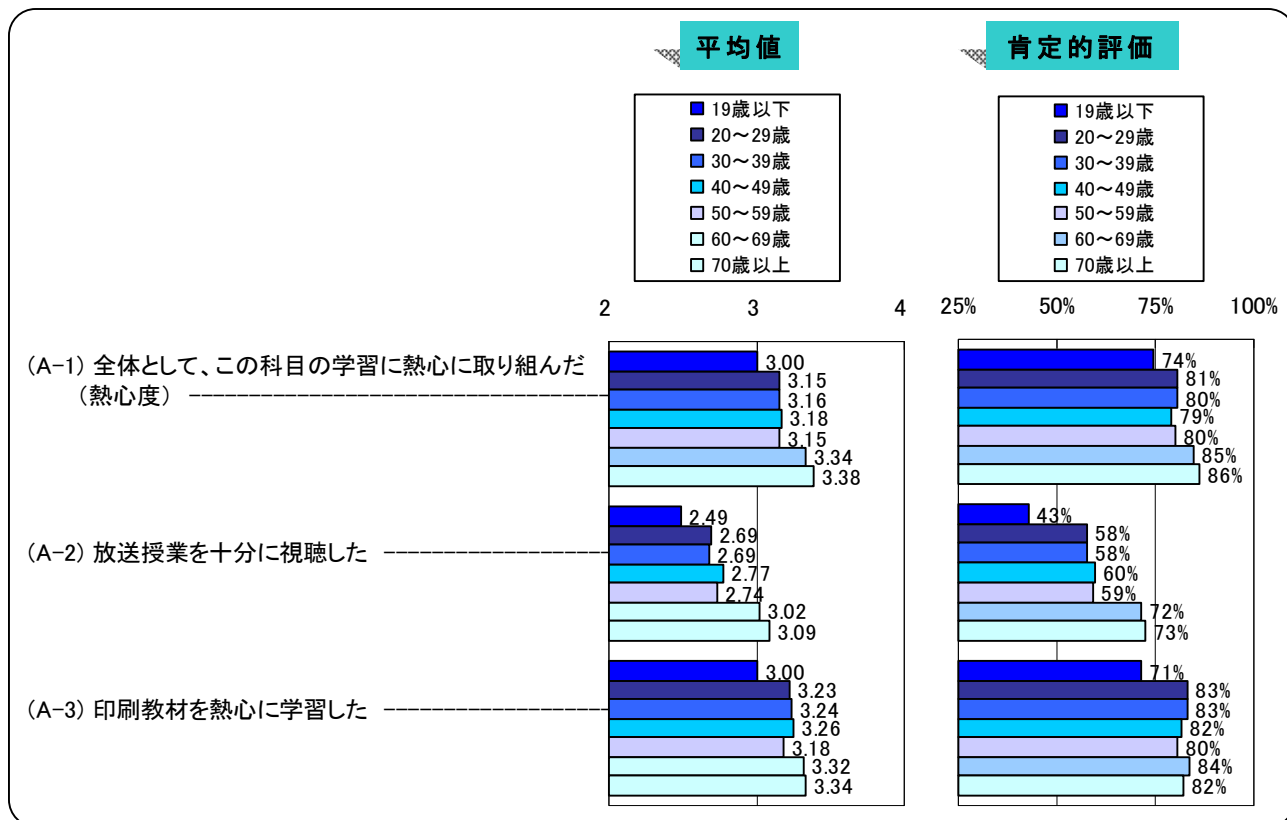
メディア別の取組姿勢を時系列で見ると（図2-11）、テレビ科目は、2011年度に比べ、(A-2)「放送授業を十分に視聴した」は平均値においてわずかに上がっているが、他は全体的に下がっている。ラジオ科目は、(A-3)「印刷教材を熱心に学習した」の肯定評価においてやや下がっているが、他は全体的に上がっている。

図2-11 【学部】メディア別の取組姿勢（時系列）



年齢階層別に取り組姿勢を見ると（図2-12）、(A-1)「全体として、この科目の学習に熱心に取り組んだ（熱心度）」と(A-3)「印刷教材を熱心に学習した」はどの年齢階層も高い値になっている。(A-2)「放送授業を十分に視聴した」は全体的に低い値だが、年配層はやや高い値になっている。放送授業については、10歳代の視聴が少なく、若い年代での視聴を増やす工夫が必要であろう。

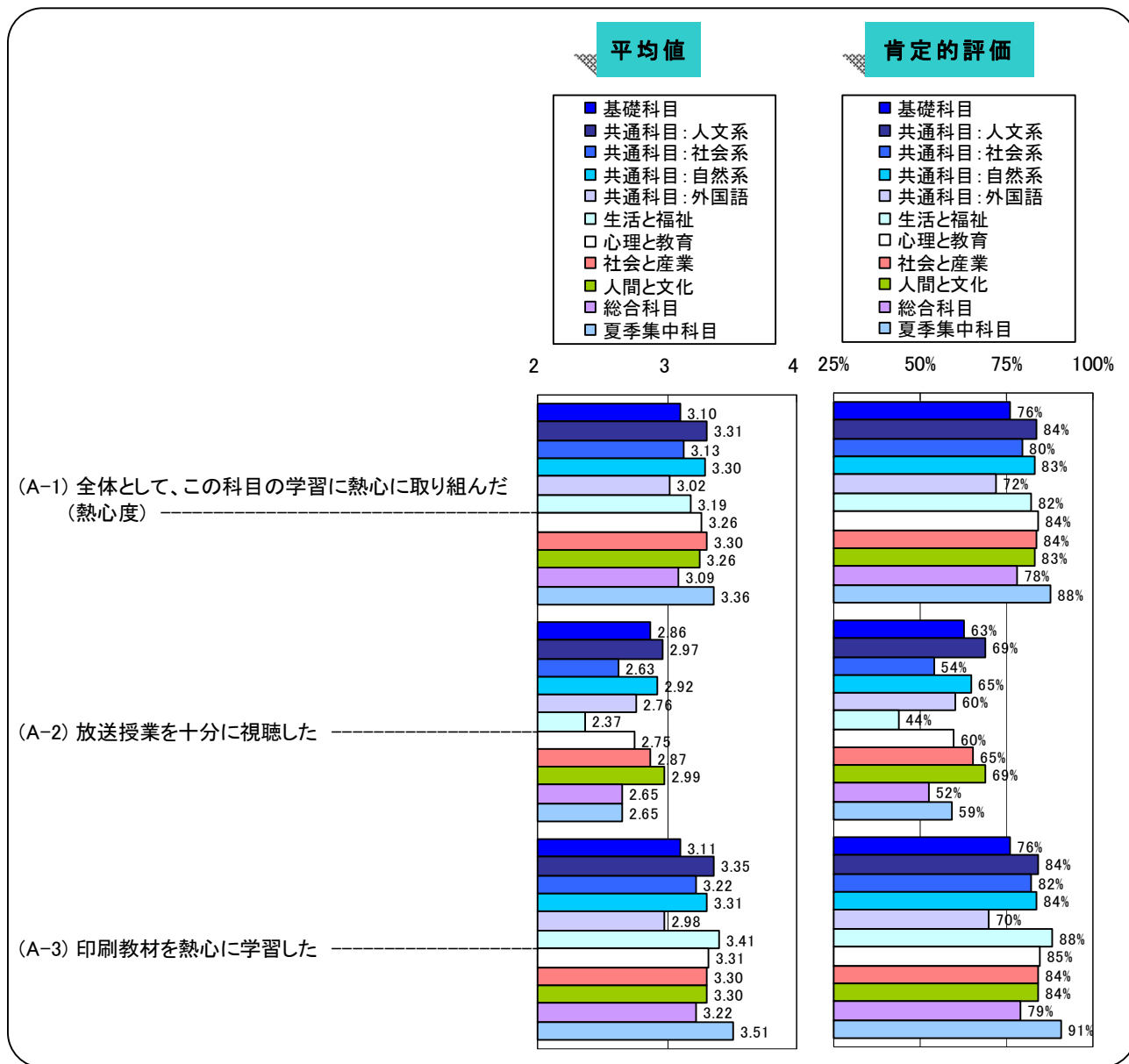
図2-12 【学部】年齢階層別の取り組姿勢



所属コース別に取り組姿勢を見ると（図2-13）、(A-2)「放送授業を十分に視聴した」は、他の項目と比べて全体的に低い値となっている。「人間と文化」「共通科目：人文系」「共通科目：自然系」でやや高い値になっているが、他の科目の値は低い。特に「生活と福祉」「共通科目：社会系」の視聴度合いがよくない。

(A-3)「印刷教材を熱心に学習した」は全体として高い値となり、「夏季集中科目」「生活と福祉」「共通科目：人文系」の学習者が特に高い。(A-1)「全体としてこの科目の学習に熱心に取り組んだ（熱心度）」も、全体として高い値となり、「夏季集中科目」「共通科目：人文系」の学習者が特に高い。両項目とも、「共通科目：外国語」は低い値となっている。

図2-13 【学部】所属コース別の取組姿勢



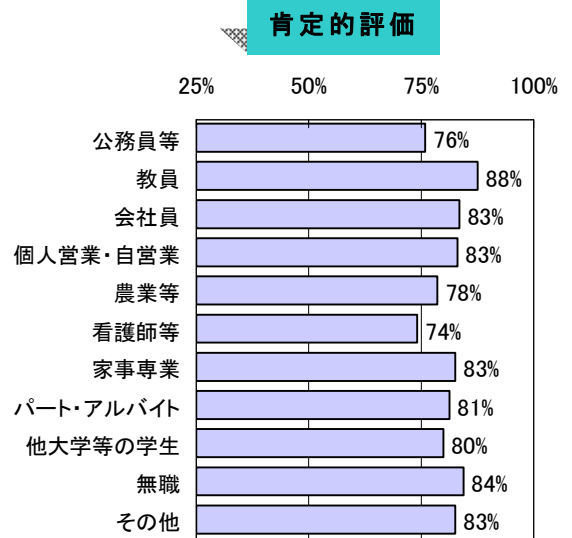
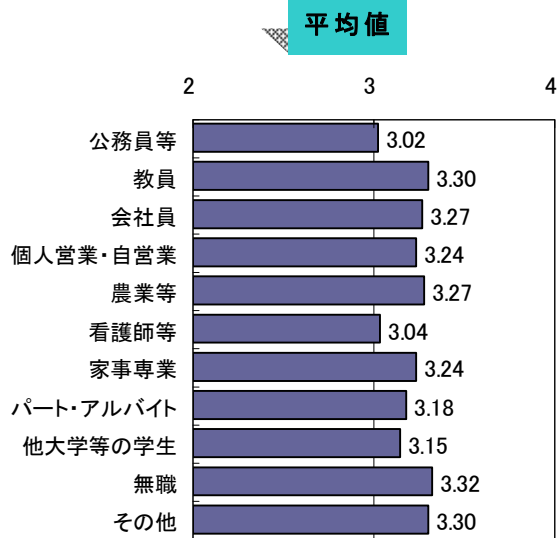
職業別で見ると（次頁図 2 - 1 4）、(A-1)「全体としてこの科目の学習に熱心に取り組んだ」は、全体的にどの職業も高い値を示しているが、「公務員等」「看護師等」がやや低い値を示している。

(A-3)「印刷教材を熱心に学習した」も、どの職業も高い値を示している。

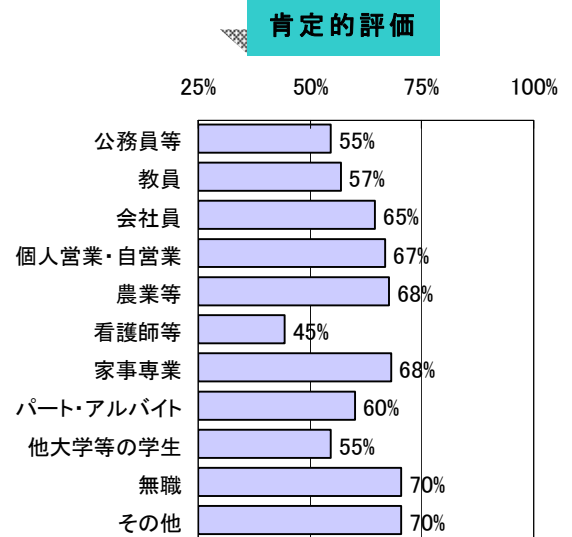
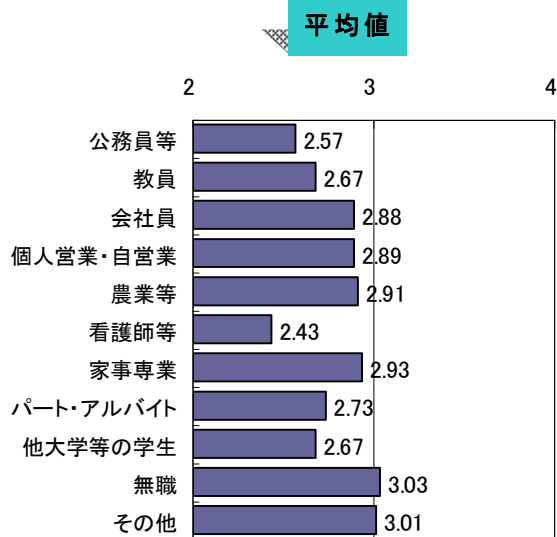
しかし (A-2)「放送授業を十分に視聴した」は、全体的に低い値となっており、「看護師等」が特に低く、他の職業の学習者もあまり視聴していない。学生の取組姿勢は、本人の意識の高さや関心度、仕事や日常生活の時間的制約の程度、さらに科目（授業や印刷教材）の出来栄えなどによって左右されていると考えられる。

図 2 - 1 4 【学部】職業別の取組姿勢

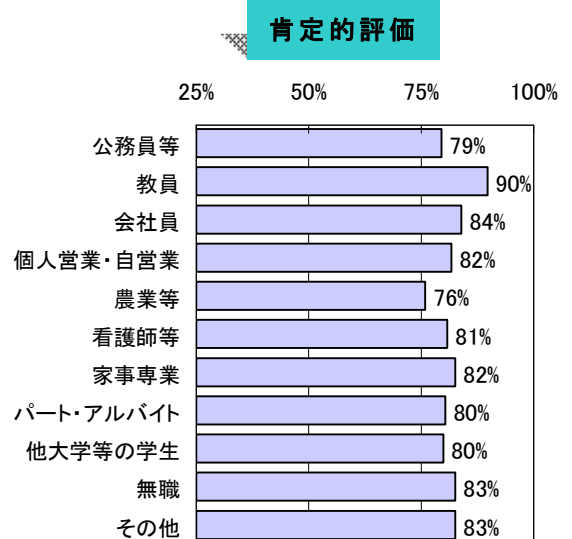
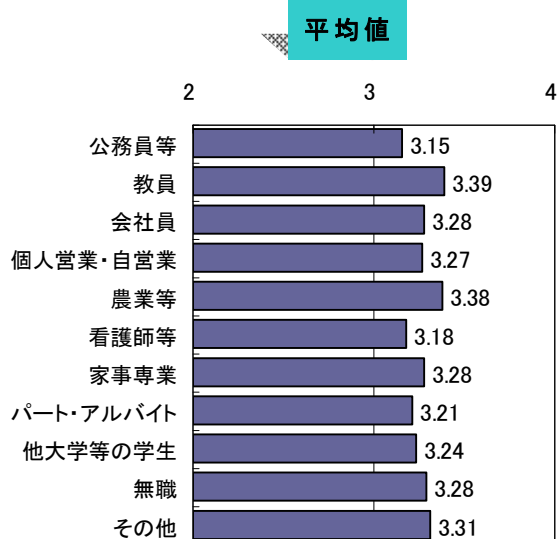
(A-1) 全体として、この科目の学習に熱心に取り組んだ



(A-2) 放送授業を十分に視聴した

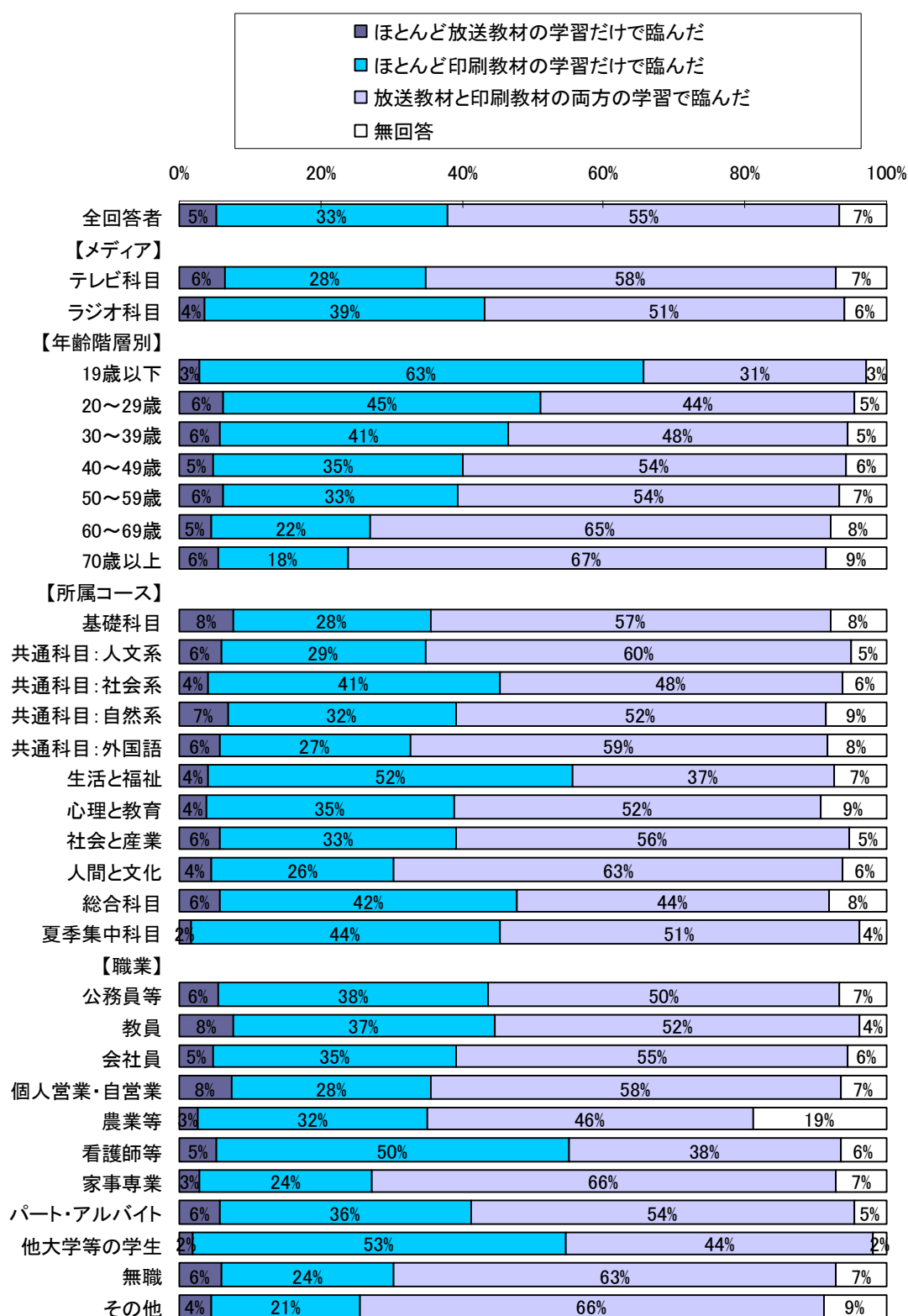


(A-3) 印刷教材を熱心に学習した



単位認定のための学習方法（次頁図 2-15）は、全体では「放送教材と印刷教材の両方の学習で臨んだ」が 55% を占め、また「ほとんど印刷教材の学習だけで臨んだ」も 33% を占める。「放送教材と印刷教材の両方の学習で臨んだ」は、年齢階層別では年配層ほど高い値になっているが、職業別の「他大学等の学生」「看護師等」では低い値になっており、所属コース別では、「生活と福祉」が低い値になっている。

図 2 - 1 5 【学部】 単位認定のための学習方法



Ⅱ-1-3. 学部の授業評価

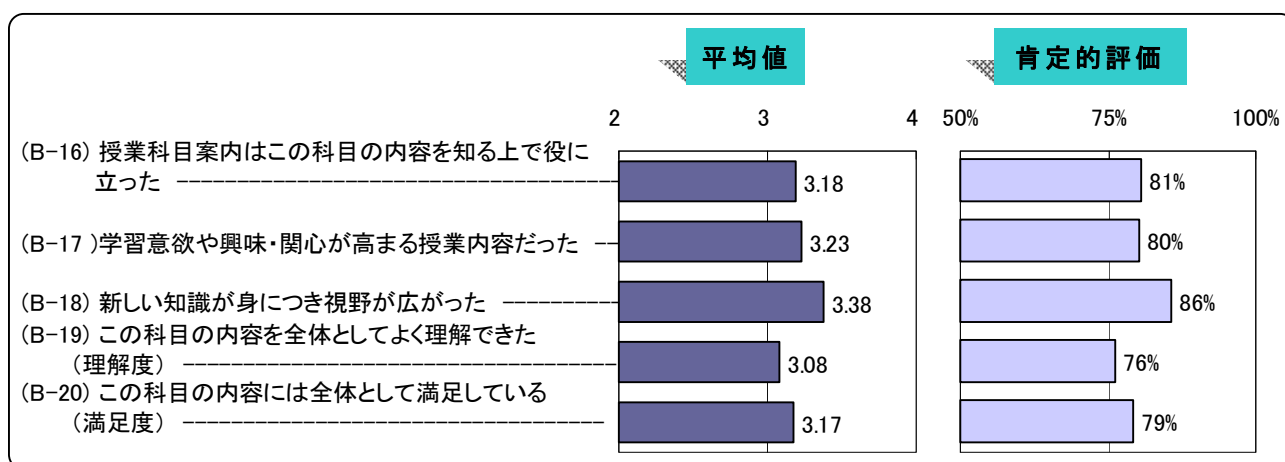
(1) 全体評価

ここからは学部の授業評価について、評価項目ごとに見ていくこととする。

まず全体評価の各項目を見ると（図2-16）、(B-18)「新しい知識が身につく視野が広がった」は平均値 3.38、肯定的評価 86%とかなり高い評価を得ている。また (B-17)「学習意欲や興味・関心が高まる授業内容だった」も平均値 3.23、肯定的評価 80%と高くなっている。

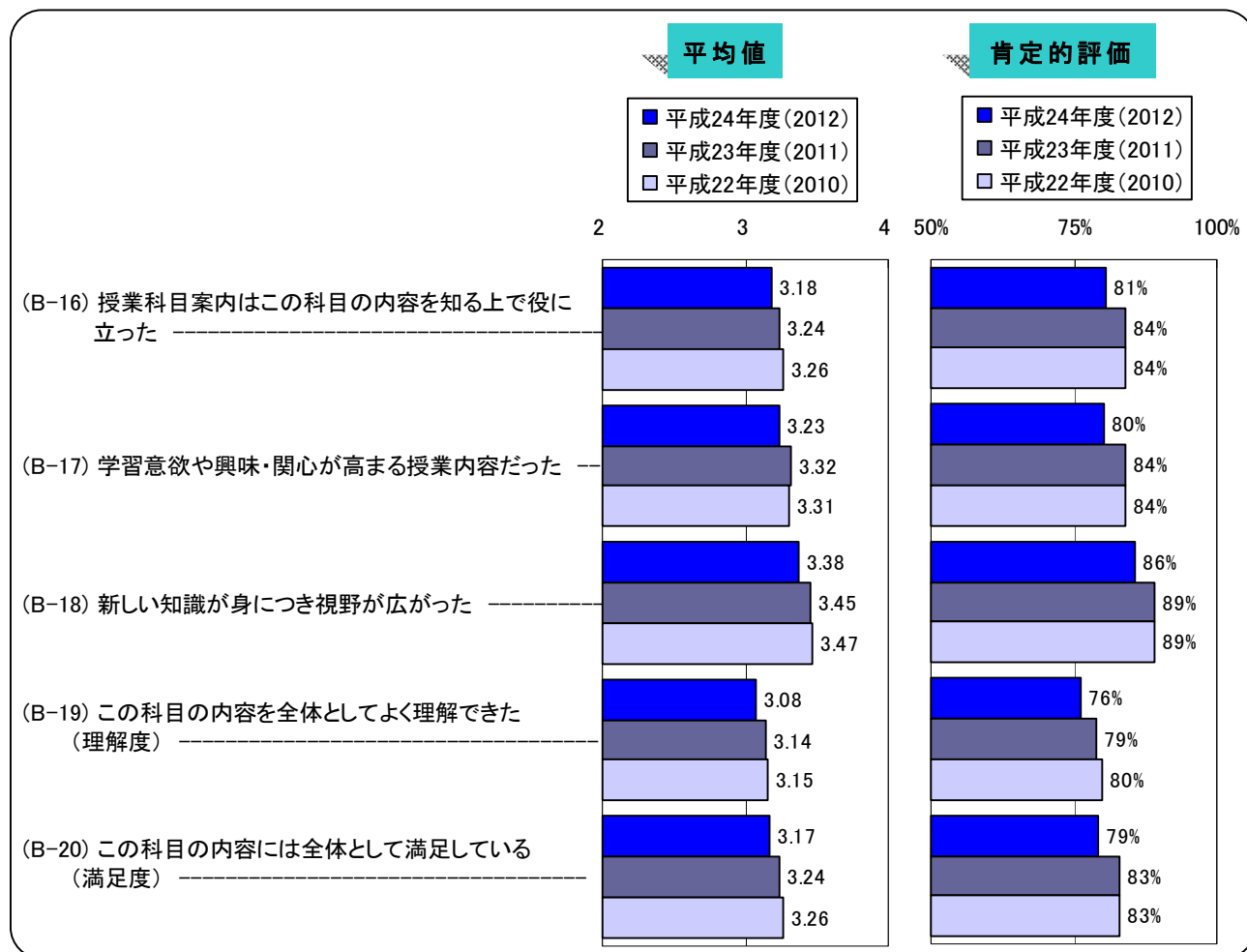
さらに (B-16)「授業科目案内はこの科目の内容を知る上で役に立った」は平均値 3.18、肯定的評価 81%、(B-20)「この科目の内容には全体として満足している（満足度）」も平均値 3.17、肯定的評価 79%と、比較的高い評価と言える。ただ満足度に比べると理解度がやや低いため、興味や関心の高まる授業だけでなく、分かりやすい授業をさらに心がけるべきであろう。

図 2-16 【学部】回答者全体の全体評価



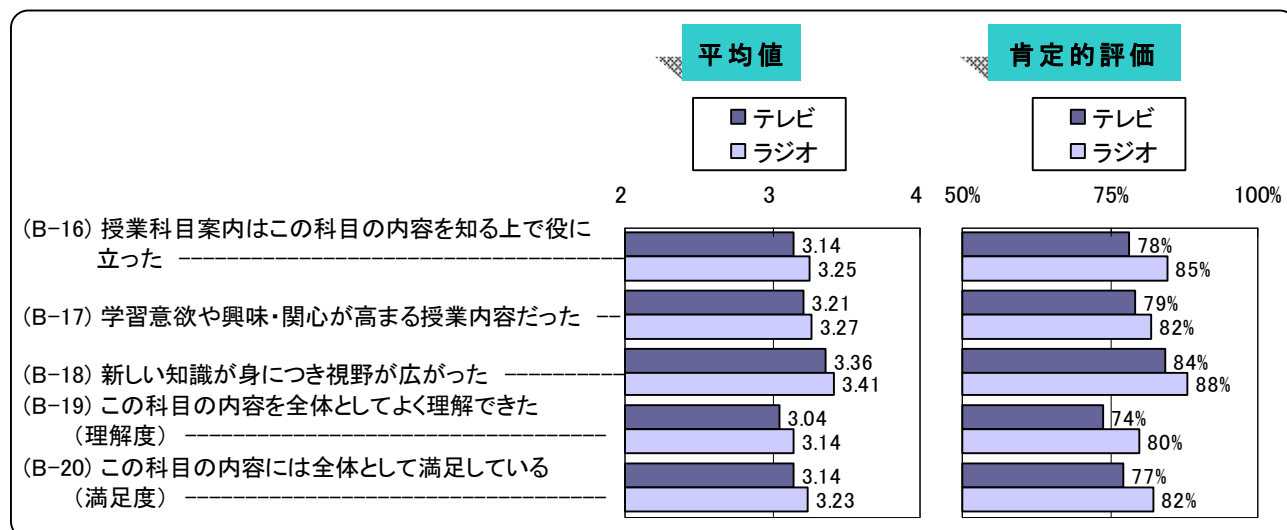
全体評価を時系列で見ると（図2-17）、全体的に2011年度よりやや低い値となっている。科目の総合評価とも言うべき理解度と満足度も2011年度よりやや下がり、今後向上させていく必要がある。

図2-17 【学部】回答者全体の全体評価（時系列）



メディア別に全体評価を見ると（図 2-18）、いずれの評価項目においても、テレビ科目よりラジオ科目の方が高くなっている。

図 2-18 【学部】メディア別の全体評価

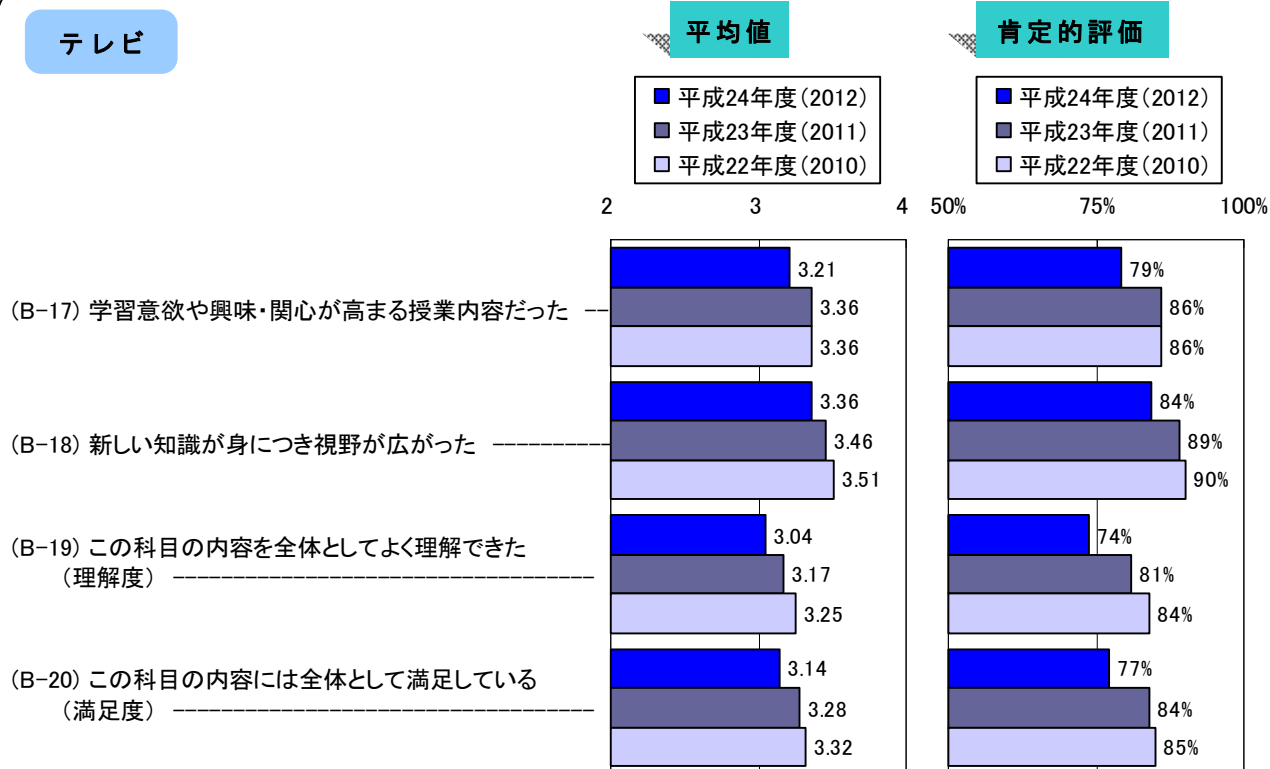


メディア別の全体評価を時系列で見ると（次頁図 2-19）、テレビ科目はいずれの評価も 2011 年度よりやや低い数値となり、工夫が求められるところである。

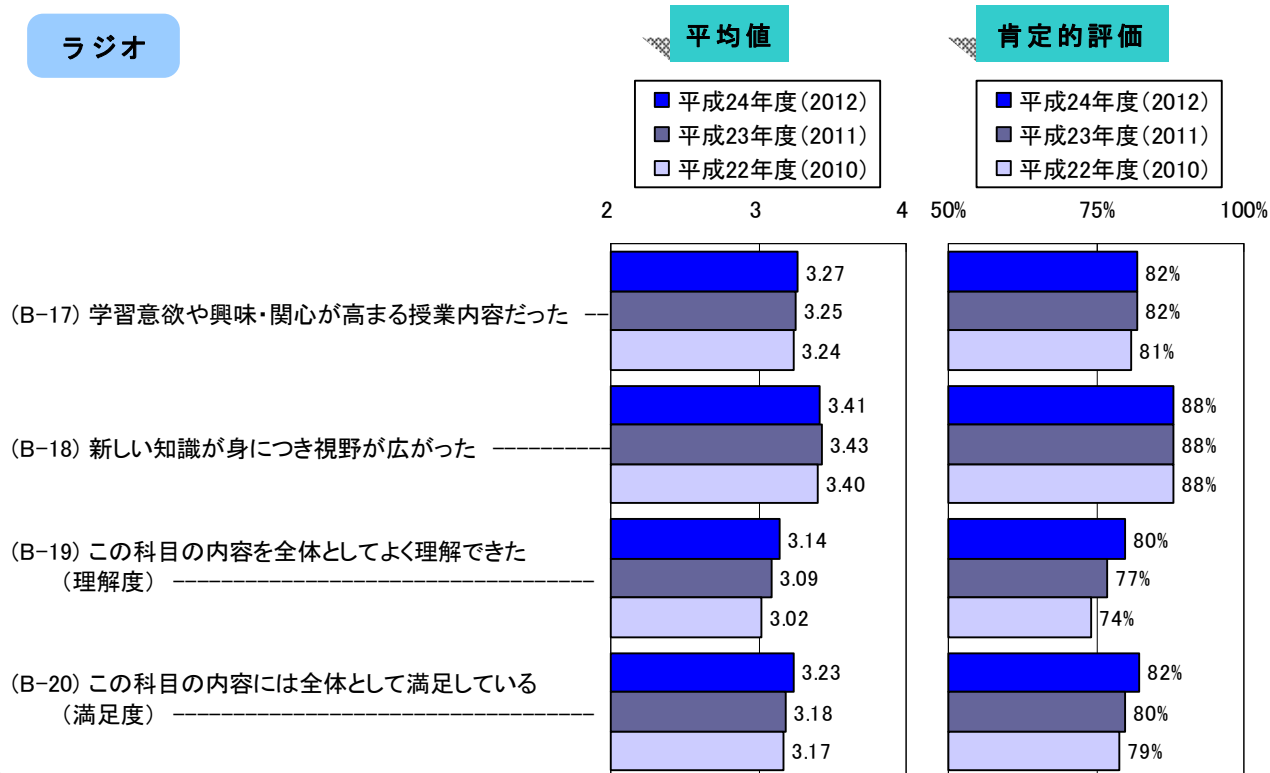
一方、ラジオ科目は平均値（B-18）「新しい知識が身につく視野が広がった」が 2011 年度よりやや低いが、他の項目では高くなっている。肯定的評価項目はいずれの項目も 2011 年度より、同じかやや高くなっている。

図2-19 【学部】メディア別の全体評価（時系列）

テレビ



ラジオ

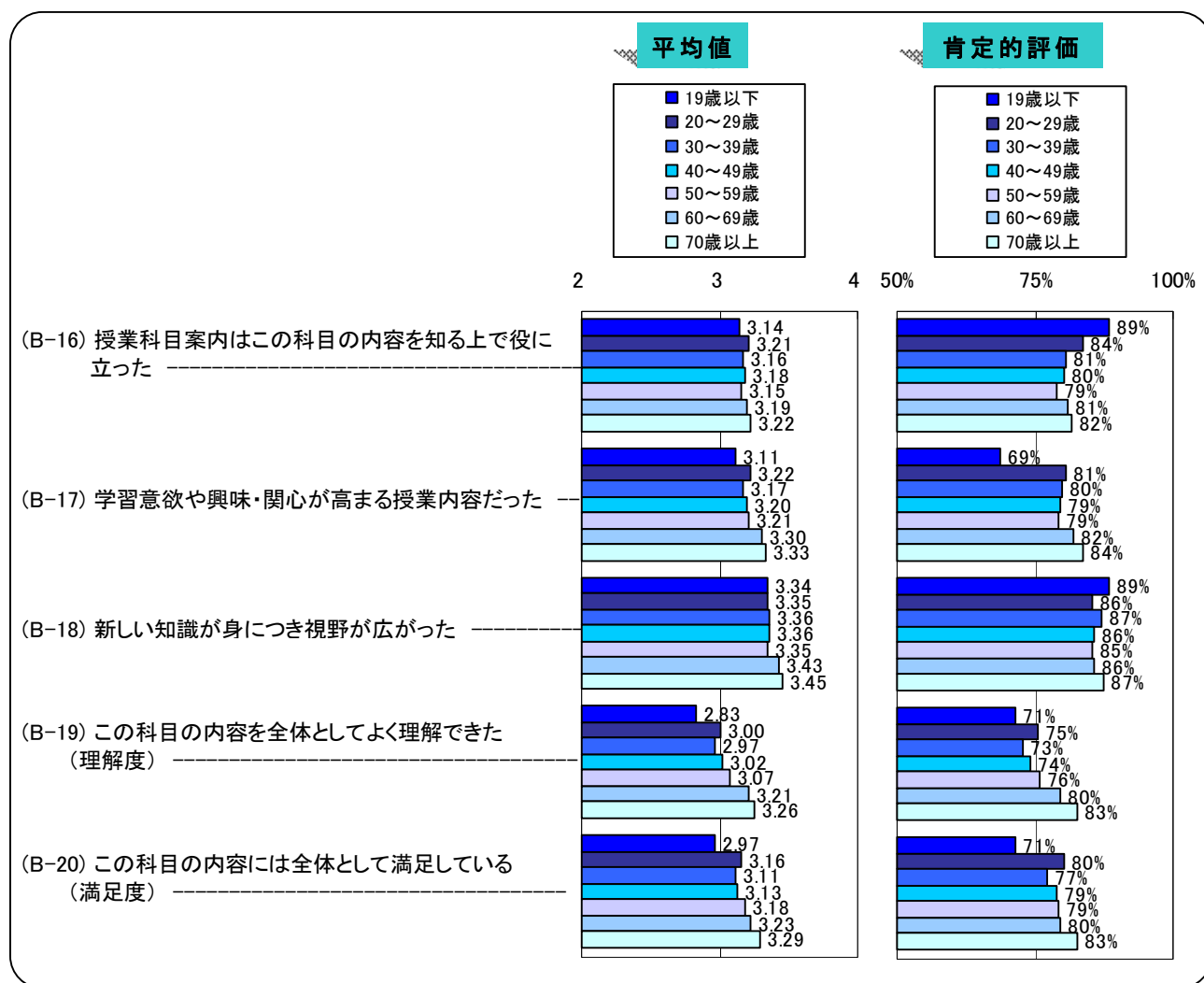


年齢階層別に全体評価を見ると（図2-20）、(B-16)「授業科目案内はこの科目の内容を知る上で役に立った」、(B-17)「学習意欲や興味・関心が高まる授業内容だった」、(B-18)「新しい知識が身につく視野が広がった」は、いずれの年齢層でも評価が高い。

しかし (B-19)「この科目の内容を全体としてよく理解できた（理解度）」、(B-20)「この科目の内容には全体として満足している（満足度）」においては、19歳以下で低い評価となっている。

また、肯定的評価では全体評価と同様の評価がみられる。

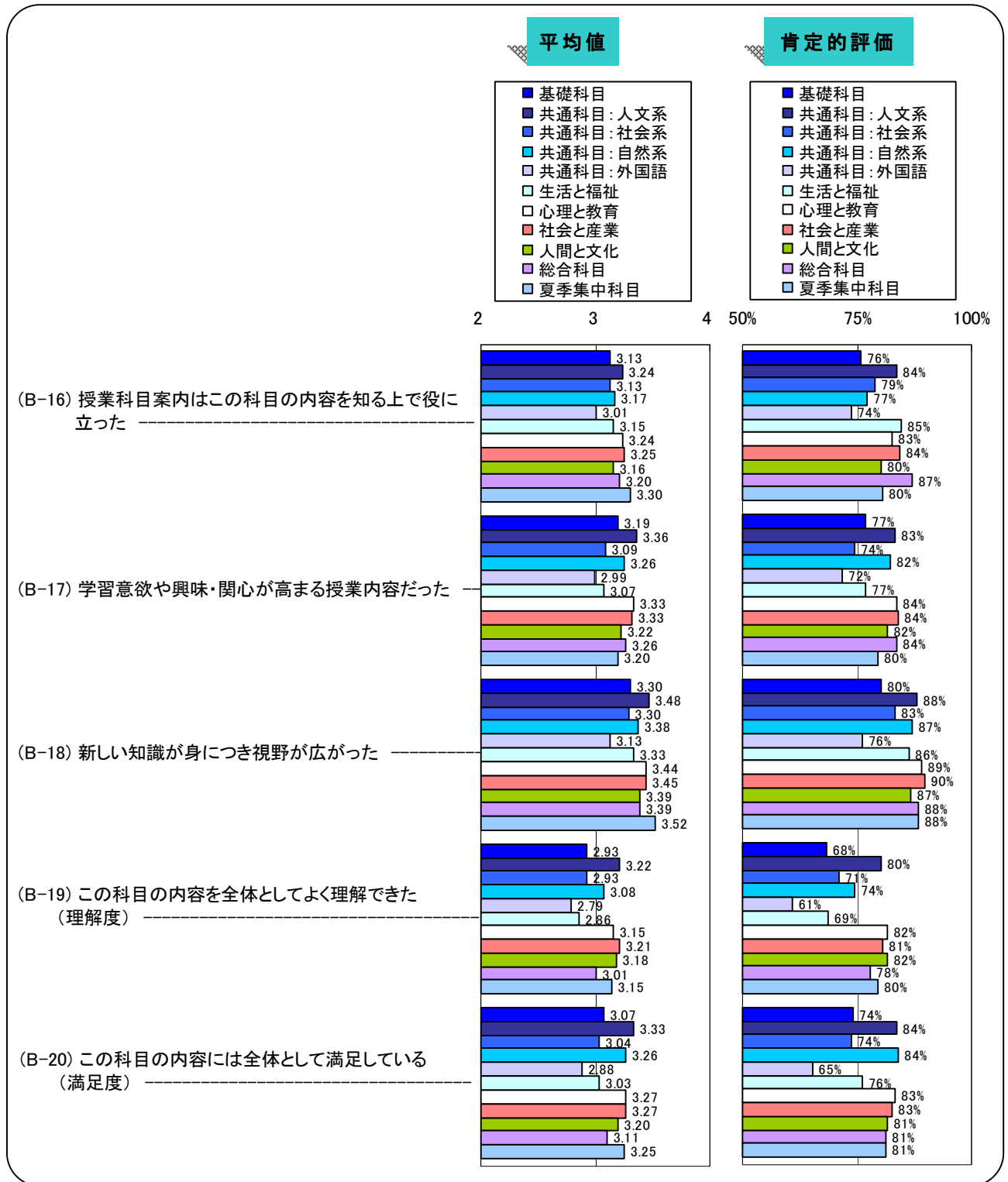
図2-20【学部】年齢階層別の全体評価



所属コース別に全体評価を見ると（次頁図 2 - 2 1）、全体として「共通科目：外国語」が低く、(B-19)「この科目の内容を全体としてよく理解できた（理解度）」の「共通科目：外国語」が特に低く、理解度の向上に努めるべきであろう。

(B-20)「この科目の内容には全体として満足している（満足度）」は、「共通科目：人文系」「心理と教育」「社会と産業」の評価が高い。(B-18)「新しい知識が身につく視野が広がった」は、いずれのコースも評価が高くなっている。

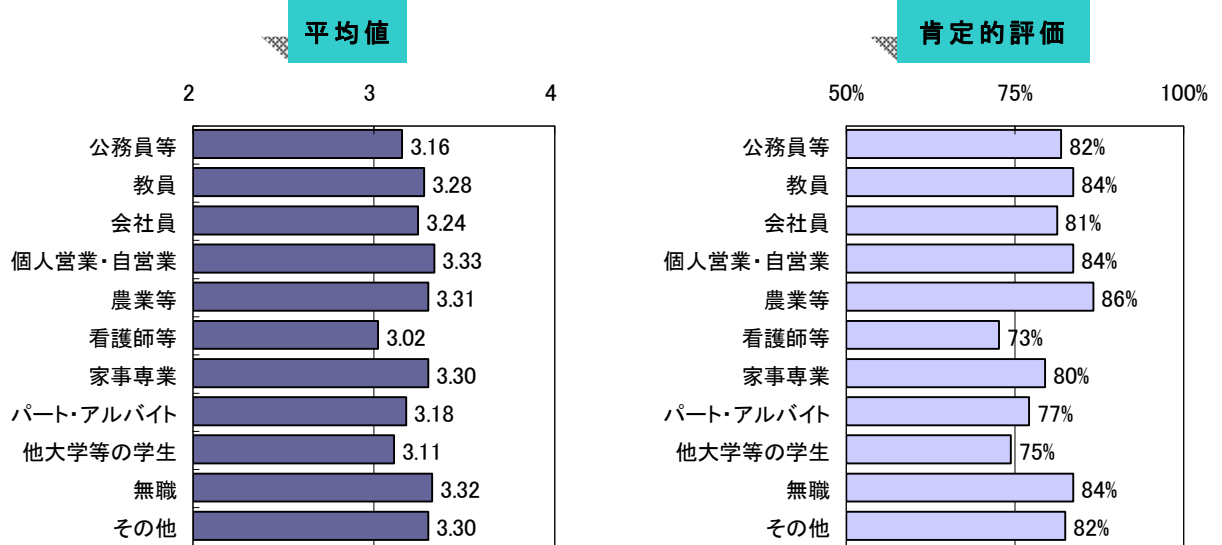
図 2 - 2 1 【学部】所属コース別の全体評価



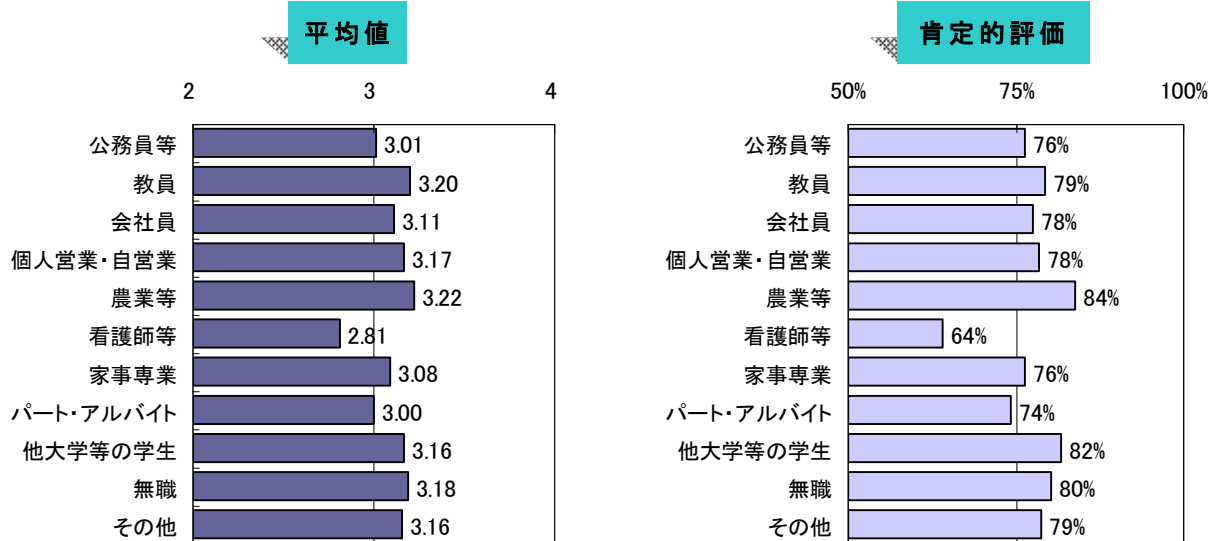
職業別に全体評価を見ると（次頁図 2 - 2 2）、(B-19)「この科目の内容を全体としてよく理解できた（理解度）」は、「農業等」の評価が高く、(B-20)「この科目の内容には全体として満足している（満足度）」は、「個人営業・自営業」で評価が高くなっている。さらに肯定的評価をみると、どの項目も「看護師等」の評価が低い傾向にある。

図 2 - 2 2 【学部】職業別の全体評価

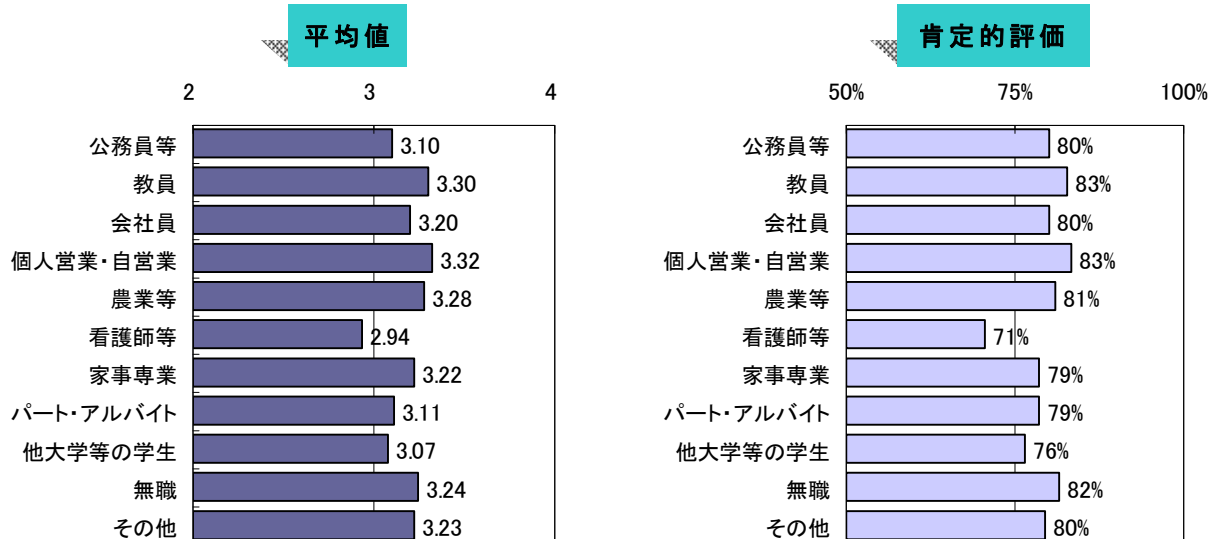
(B-17) 学習意欲や興味・関心が高まる授業内容だった



(B-19) この科目の内容を全体としてよく理解できた(理解度)



(B-20) この科目の内容には全体として満足している(満足度)

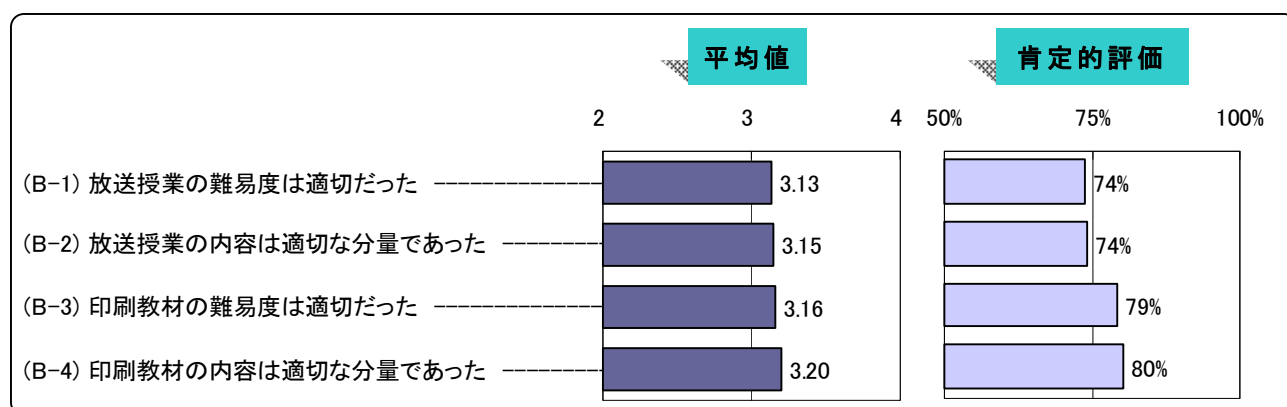


(2) 授業の難易度・分量

次に授業の難易度・分量について、評価項目ごとに見ていく。

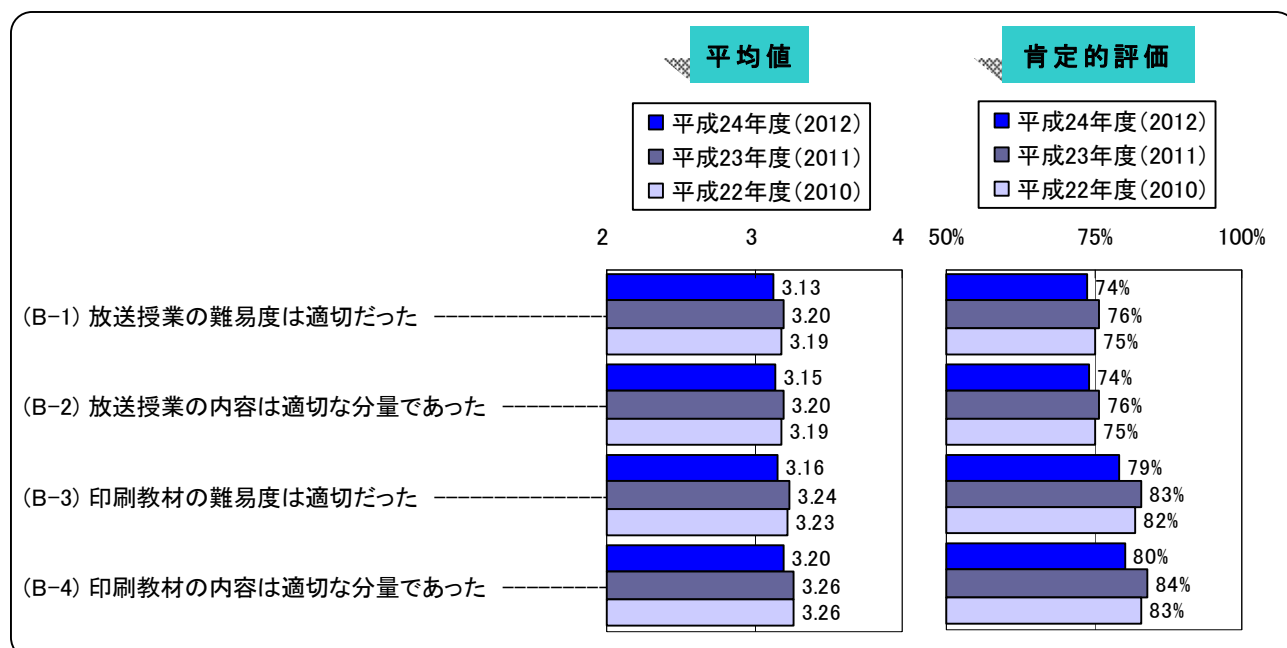
難易度・分量については(図2-23)、放送授業・印刷教材とも比較的高い評価となっている。特に印刷教材については、難易度・分量とも肯定的評価の割合が高い。今後は放送授業の難易度と分量についてさらに改善すべきであろう。

図2-23 【学部】回答者全体の授業難易度・分量の評価



授業の難易度・分量を開設年度で比較すると(図2-24)、平均値では、いずれの項目でも2011年度より低い評価となっている。肯定的評価は、ほとんど変化はないものの、いずれの項目においても、2011年度より若干評価が低くなっている。

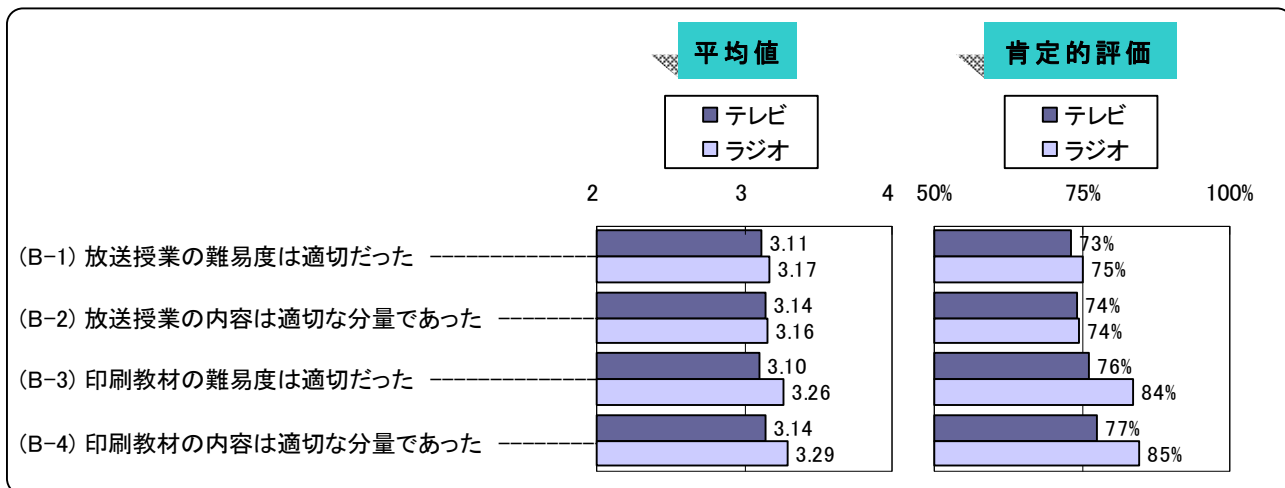
図2-24 【学部】回答者全体の授業難易度・分量の評価(開設年度比較)



メディア別に授業の難易度・分量を見ると（図2-25）、全ての項目においてラジオ科目がテレビ科目を上回っている。

テレビ科目については、さらなる工夫をする必要があるだろう。

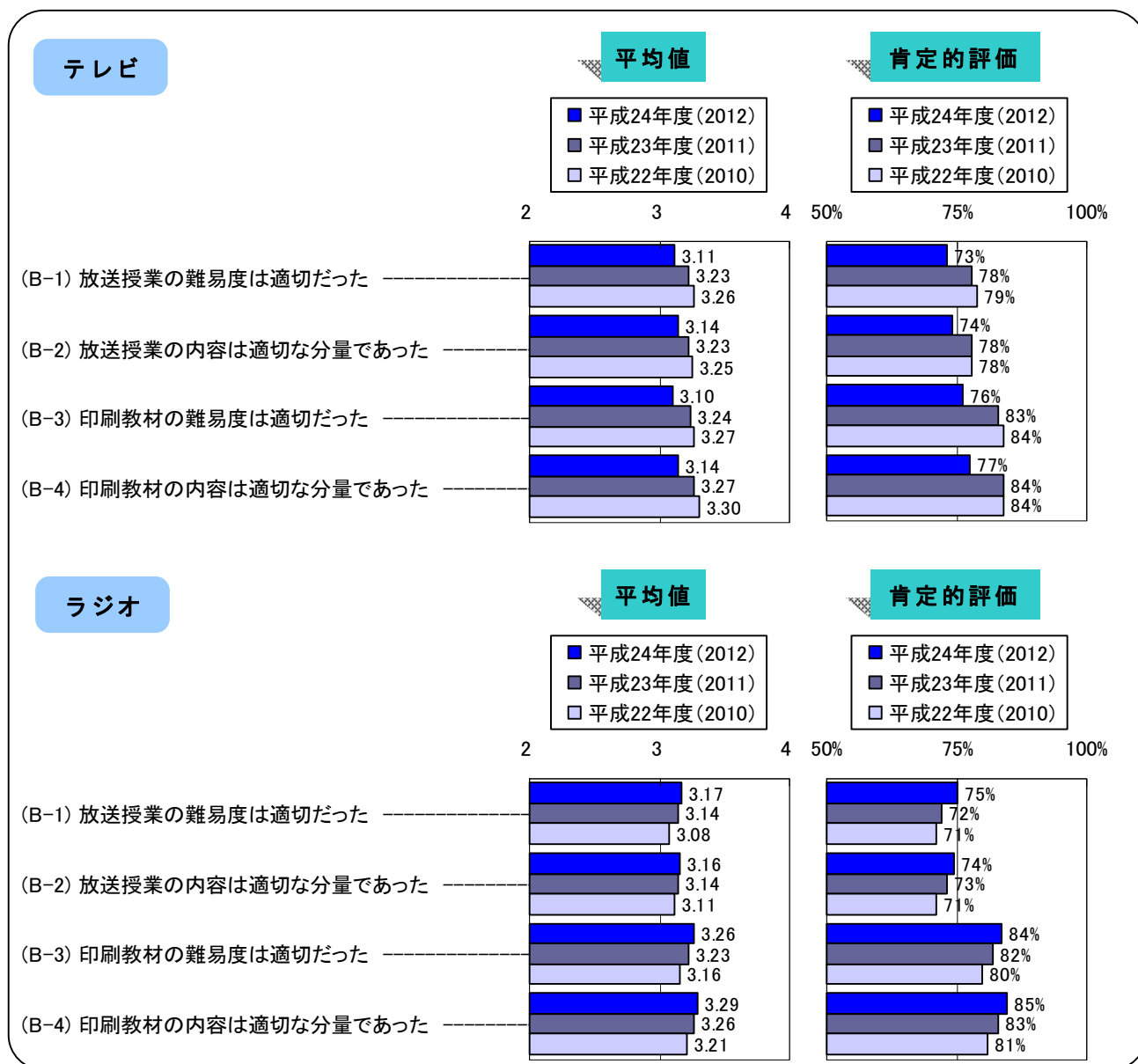
図2-25 【学部】メディア別の授業難易度・分量の評価



メディア別の授業の難易度・分量を開設年度で比較すると（図2-26）、テレビ科目は全ての項目において、評価が下がっており、今後工夫が必要である。

一方、ラジオ科目は全ての項目において、評価が上がっており、改善の効果が現れている。

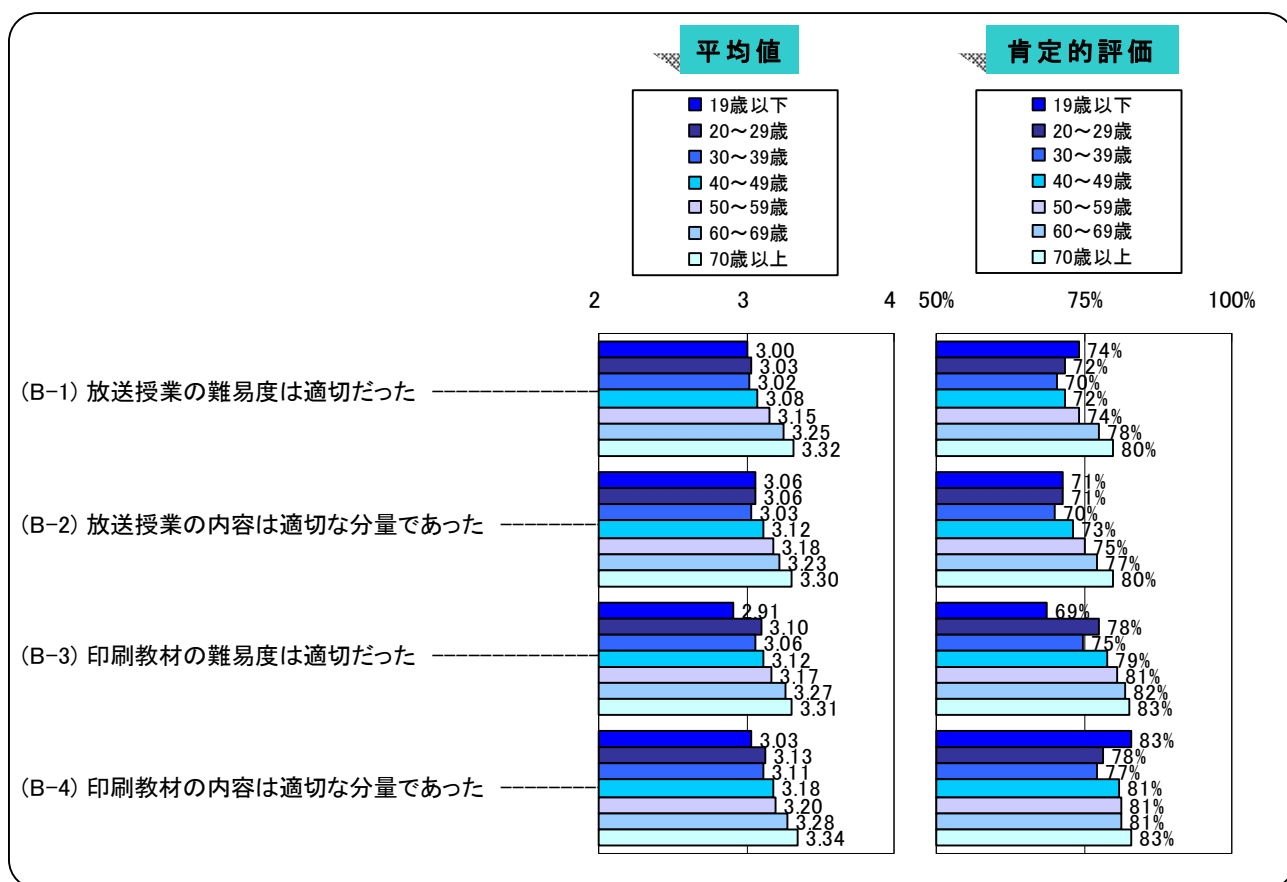
図2-26 【学部】メディア別の授業難易度・分量の評価（開設年度比較）



年齢階層別に授業の難易度・分量を見ると（図2-27）、放送授業、印刷教材ともに年配層の評価が高い。

一方、肯定的評価では、「印刷教材の難易度は適切だった」の項目で19歳以下の評価が低い、全体として印刷教材の評価は高く、70歳以上の評価が特に高い傾向にある。

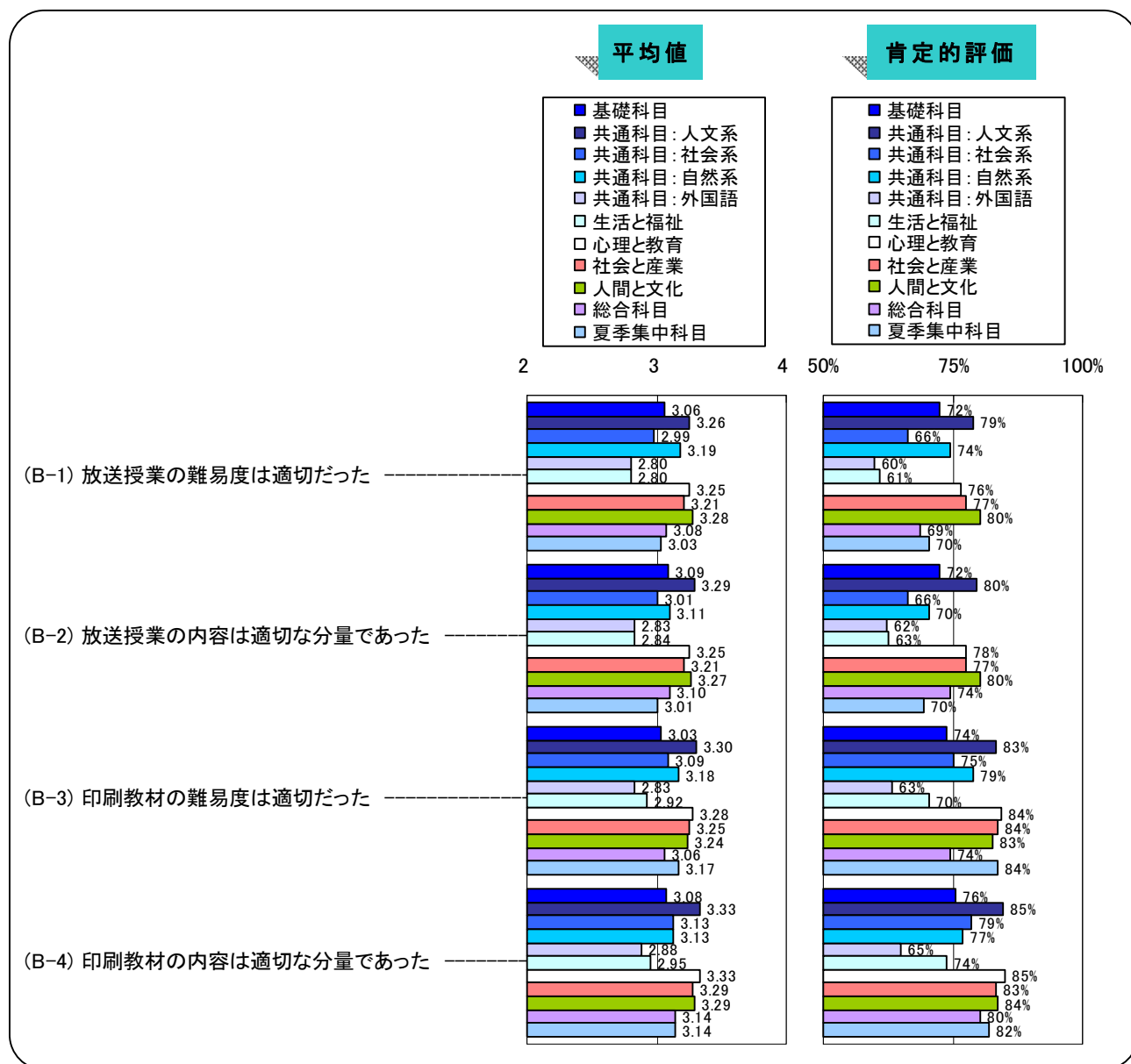
図2-27【学部】年齢階層別の授業難易度・分量の評価



所属コース別に授業の難易度・分量を見ると（図2-28）、放送授業、印刷教材ともに、難易度と分量は、「共通科目：人文系」で評価が高くなっている。

一方、放送授業、印刷教材ともに、「共通科目：外国語」「生活と福祉」は低い値となっている。

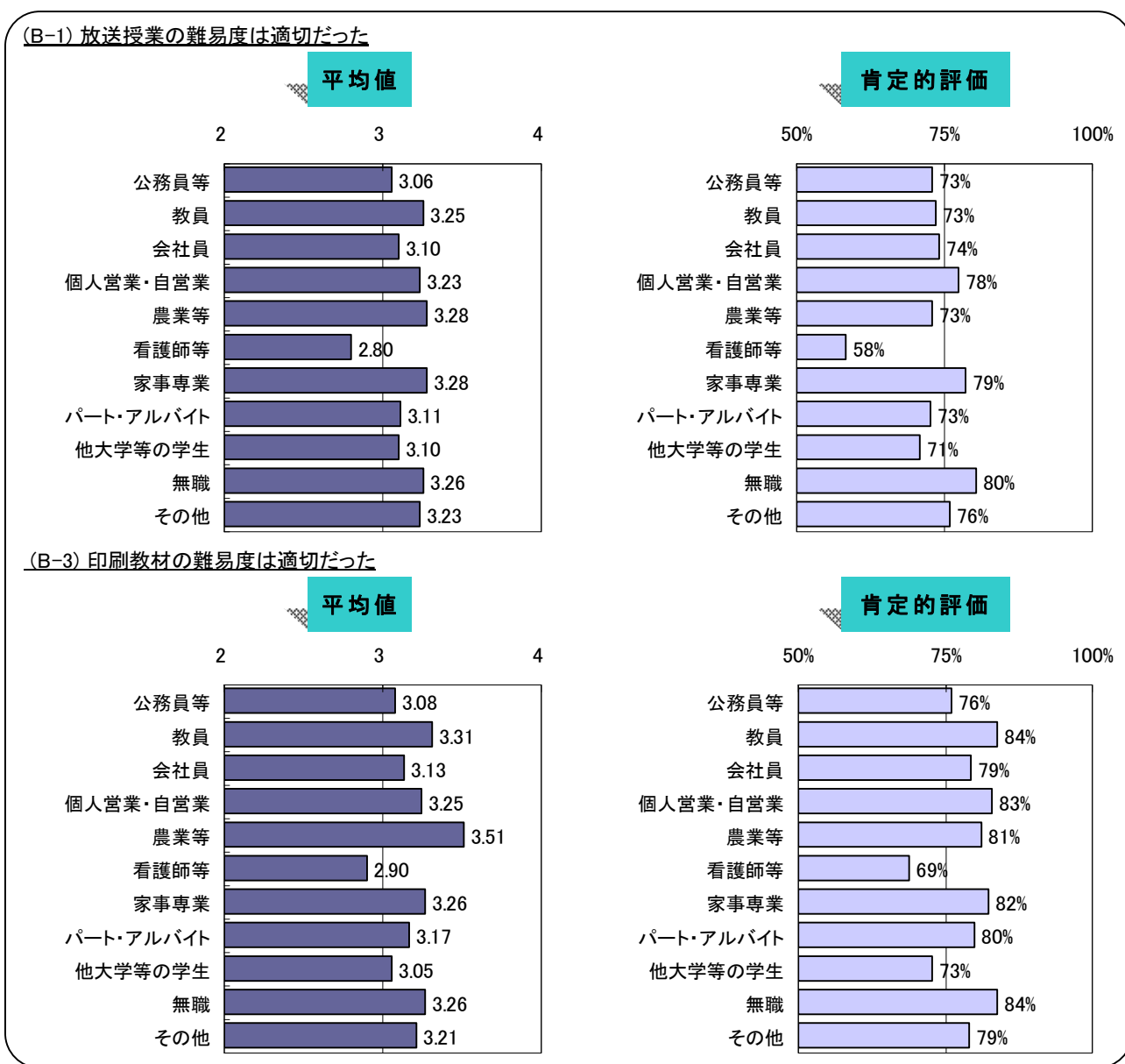
図2-28 【学部】所属コース別の授業難易度・分量の評価



職業別に授業の難易度を見ると（図2-29）、放送授業、印刷教材の難易度は、ともに取組姿勢のよくない「看護師等」で評価が低くなっている。逆に「農業等」の評価はともに高い。

授業の難易度は、科目の内容的な難易度、授業方法、さらに学生の取組姿勢、学習意欲などに関連していると考えられるが、これらが相互に影響しつつ、難易度の評価が形成されていると見るのが妥当であろう。したがって、授業方法を工夫することによって、難易度の評価をあげる効果は高いと考えられ、今後も改善に注力すべきであろう。

図2-29 【学部】職業別の授業難易度の評価

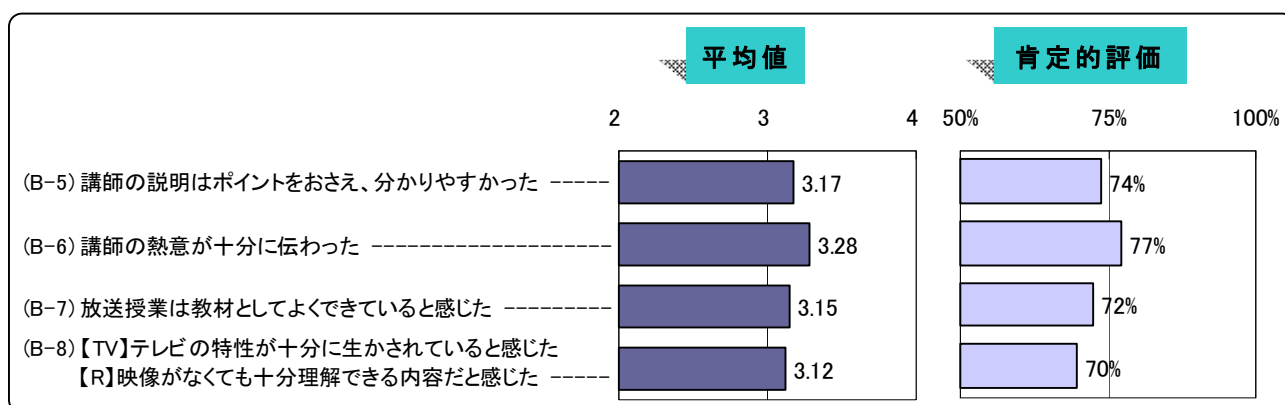


(3) 放送授業

ここからは放送授業について、評価項目ごとに見ていく。

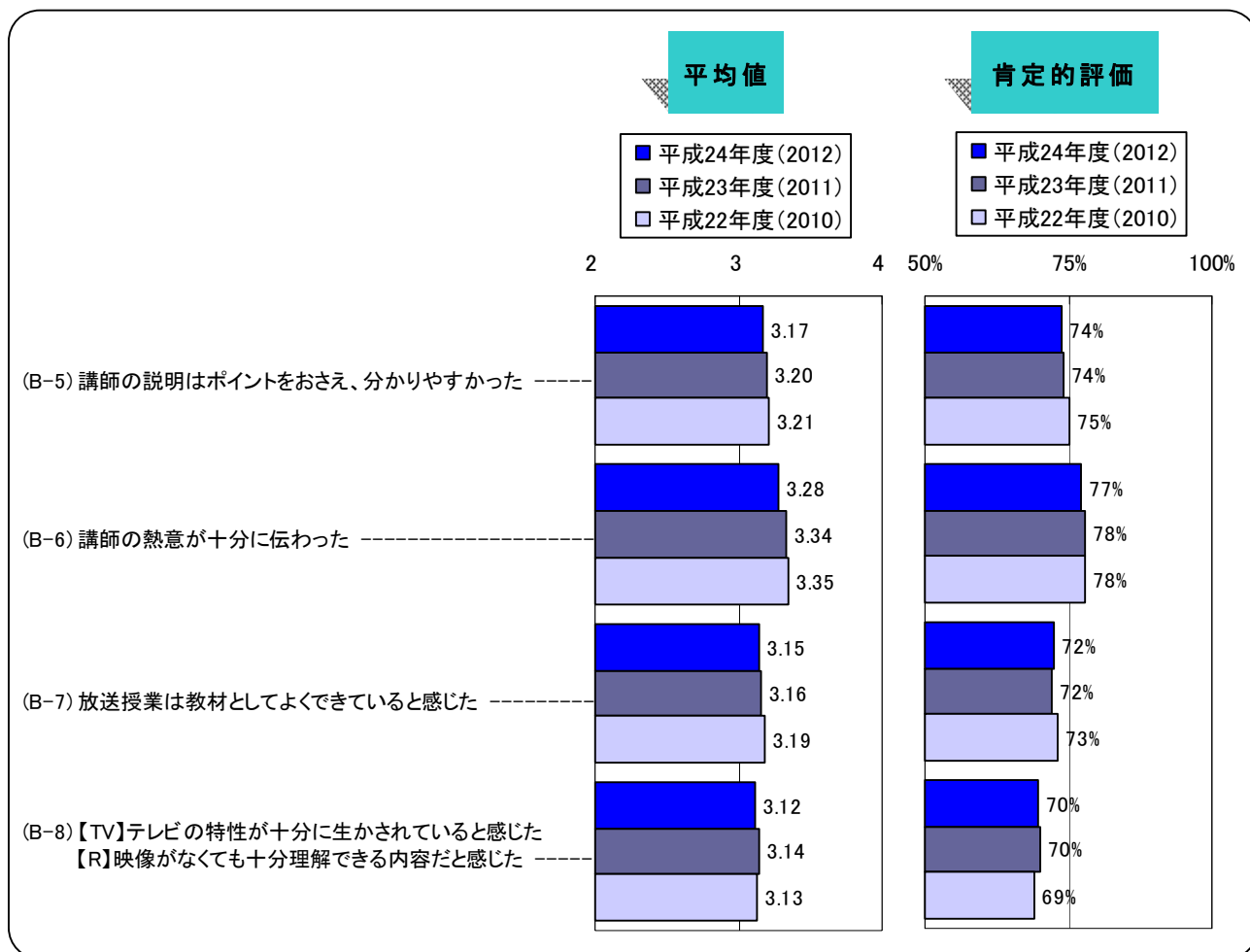
放送授業に関する評価項目で最も評価が高いのは（図2-30）、(B-6)「講師の熱意が十分に伝わった」であり、平均値 3.28、肯定的評価 77%となっている。しかし、放送授業の総合評価でもある (B-7)「放送授業は教材としてよくできていると感じた」は、平均値 3.15、肯定的評価 72%と特に高いわけではない。講師の説明や熱意は比較的评价が高いものの、総合評価はそれほど高くなっていない。なお、(B-8)「【TV】テレビの特性が十分に生かされていると感じた／【R】映像がなくても十分理解できる内容だと感じた」も、平均値 3.12、肯定的評価 70%にとどまっている。

図2-30 【学部】回答者全体の放送授業の評価



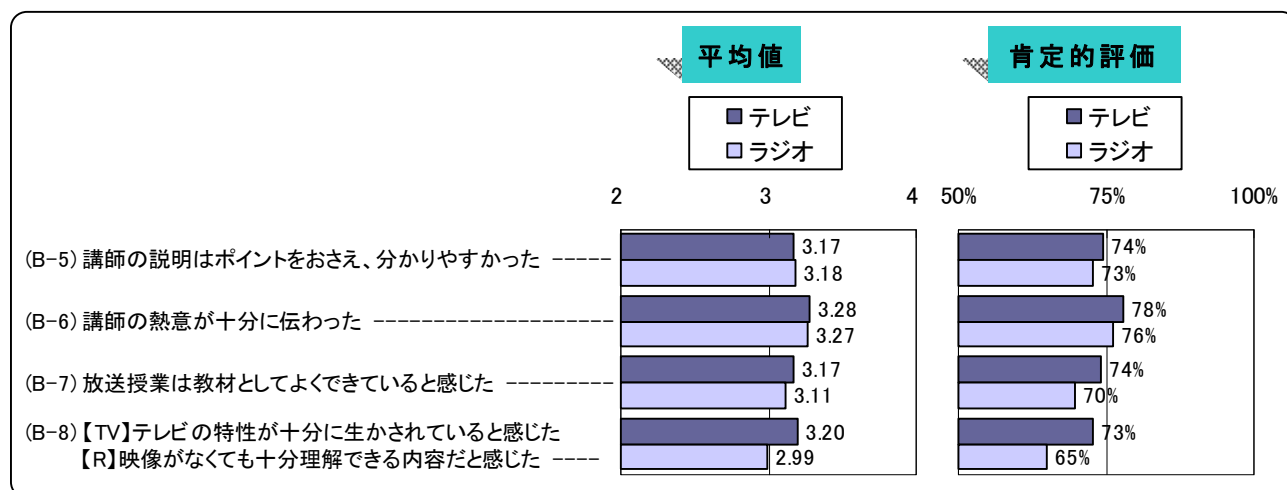
放送授業の評価の平均を時系列で見ると（図2-31）、肯定的評価の（B-7）「放送授業は教材としてよくできていると感じた」がやや高い評価となっているが、そのほかの項目は2011年度よりやや低い評価になっており、改善を工夫する必要がある。

図2-31 【学部】回答者全体の放送授業の評価（時系列）



メディア別に放送授業の肯定的評価を見ると（図 2 - 3 2）、いずれの項目もテレビ科目がラジオ科目を上回っている。

図 2 - 3 2 【学部】メディア別の放送授業の評価

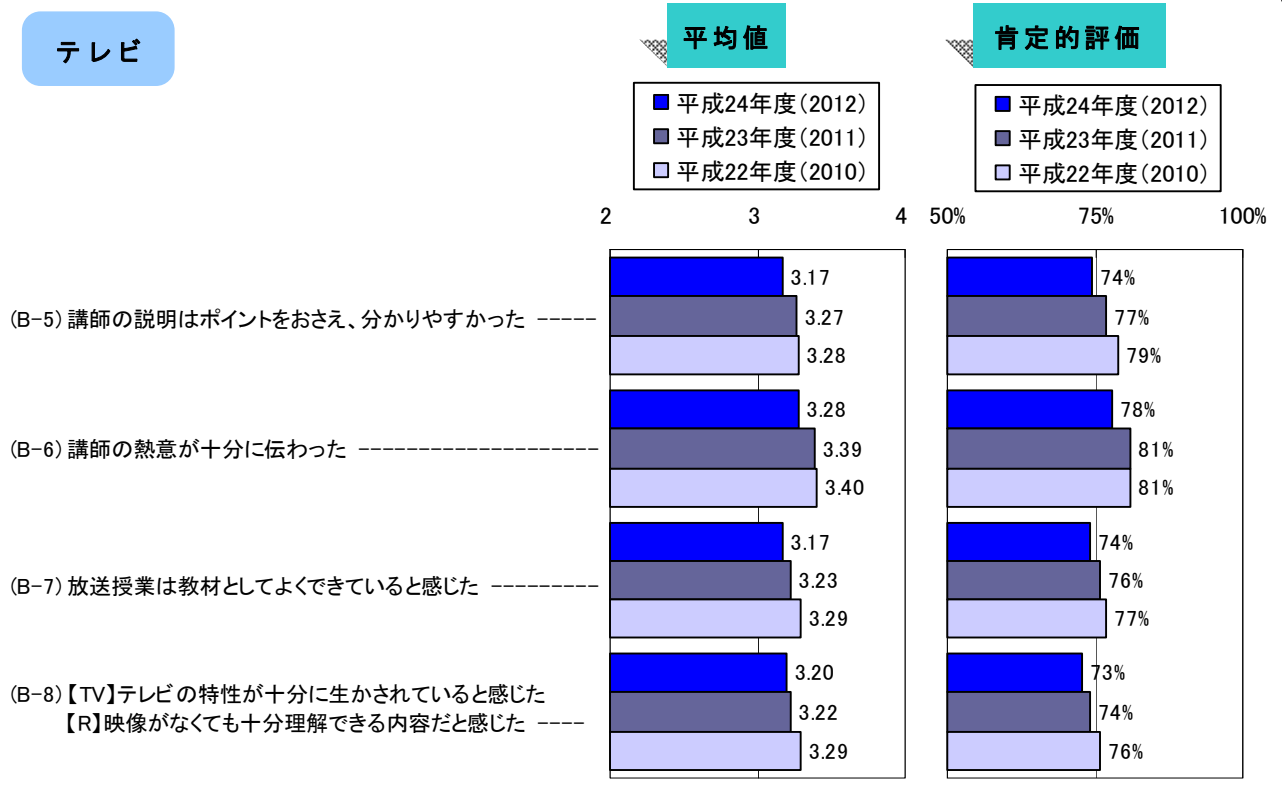


また、メディア別の放送授業の評価を時系列で見ると（次頁図 2 - 3 3）、テレビ科目では、いずれの項目も 2011 年度に比べ、やや低い評価となっている。

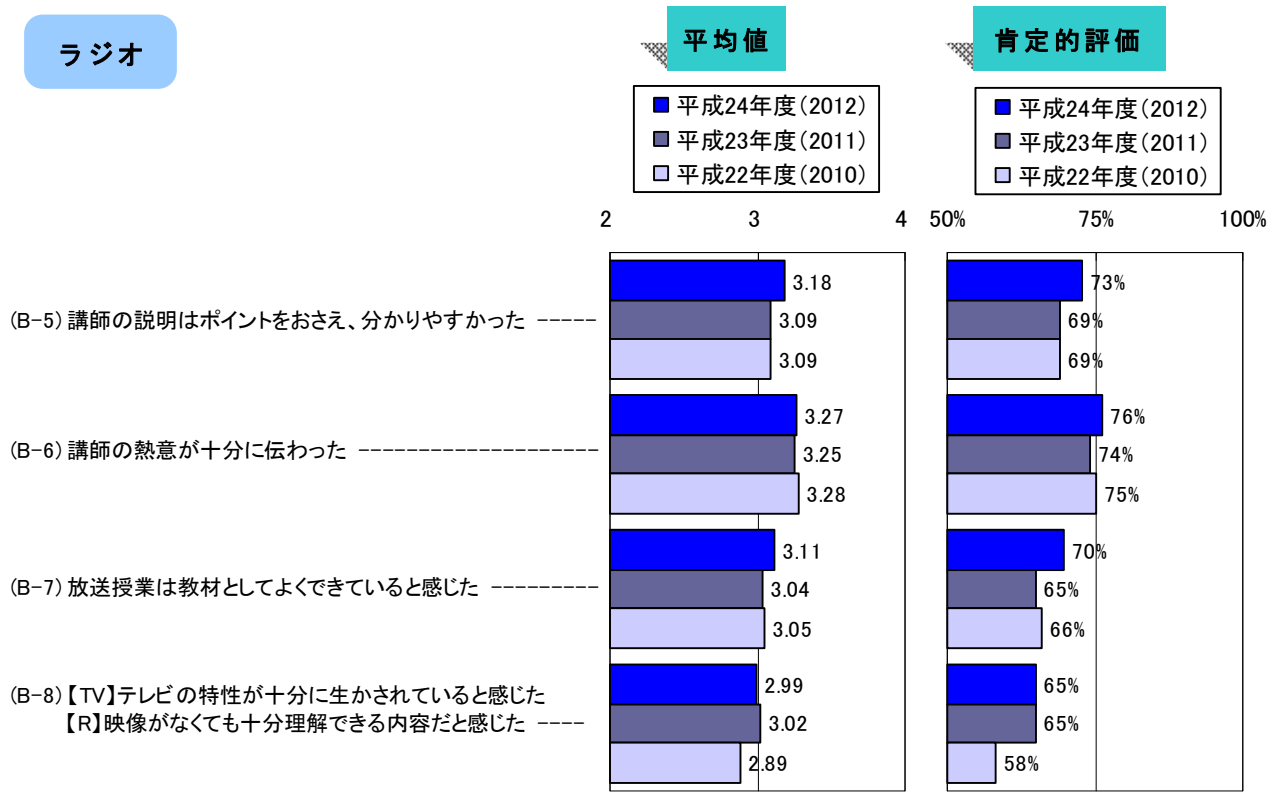
一方、ラジオ科目は、(B-8) 「【TV】テレビの特性が十分に活かされていると感じた／【R】映像がなくても十分理解できる内容だと感じた」以外は、2011 年度に比べ、高い評価となっている。

図 2 - 3 3 【学部】メディア別の放送授業の評価（時系列）

テレビ

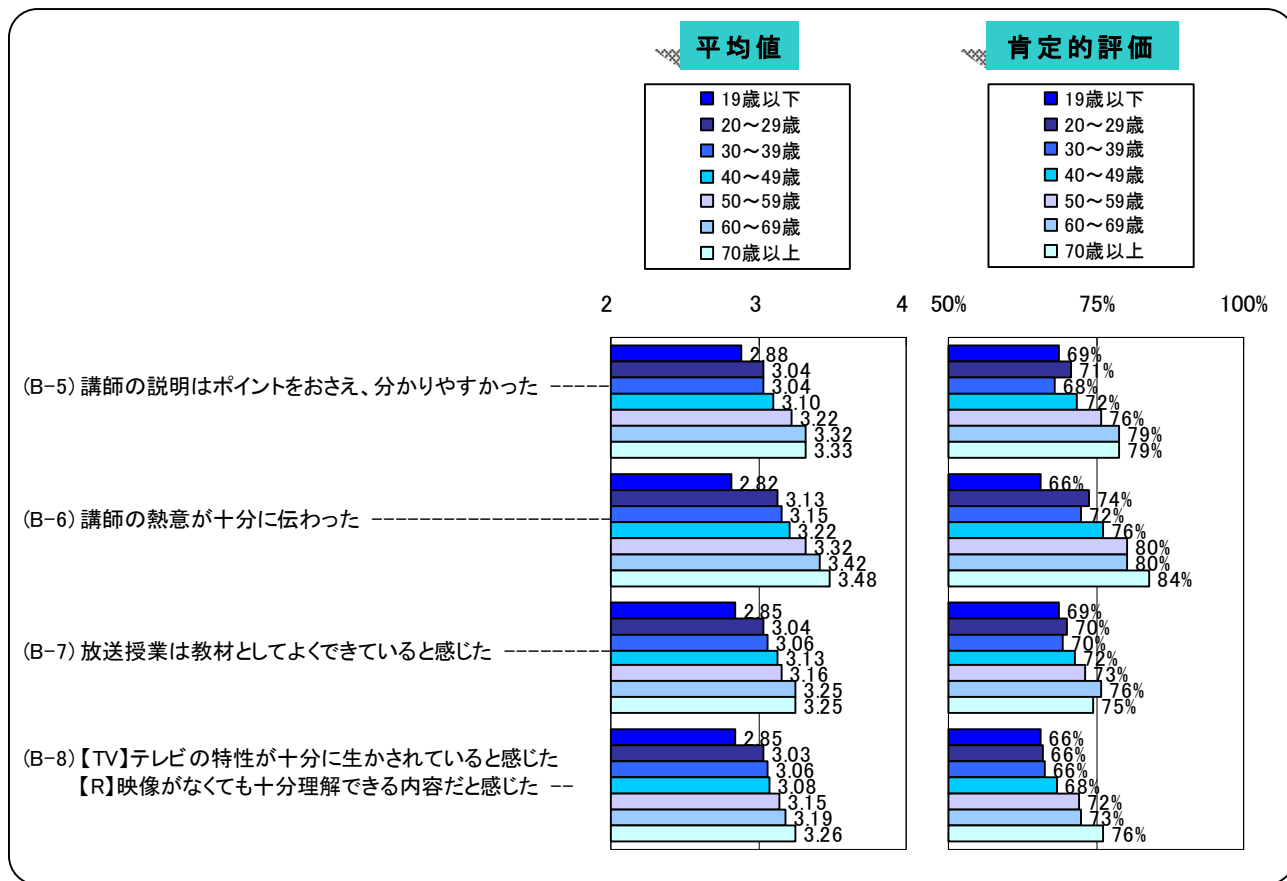


ラジオ



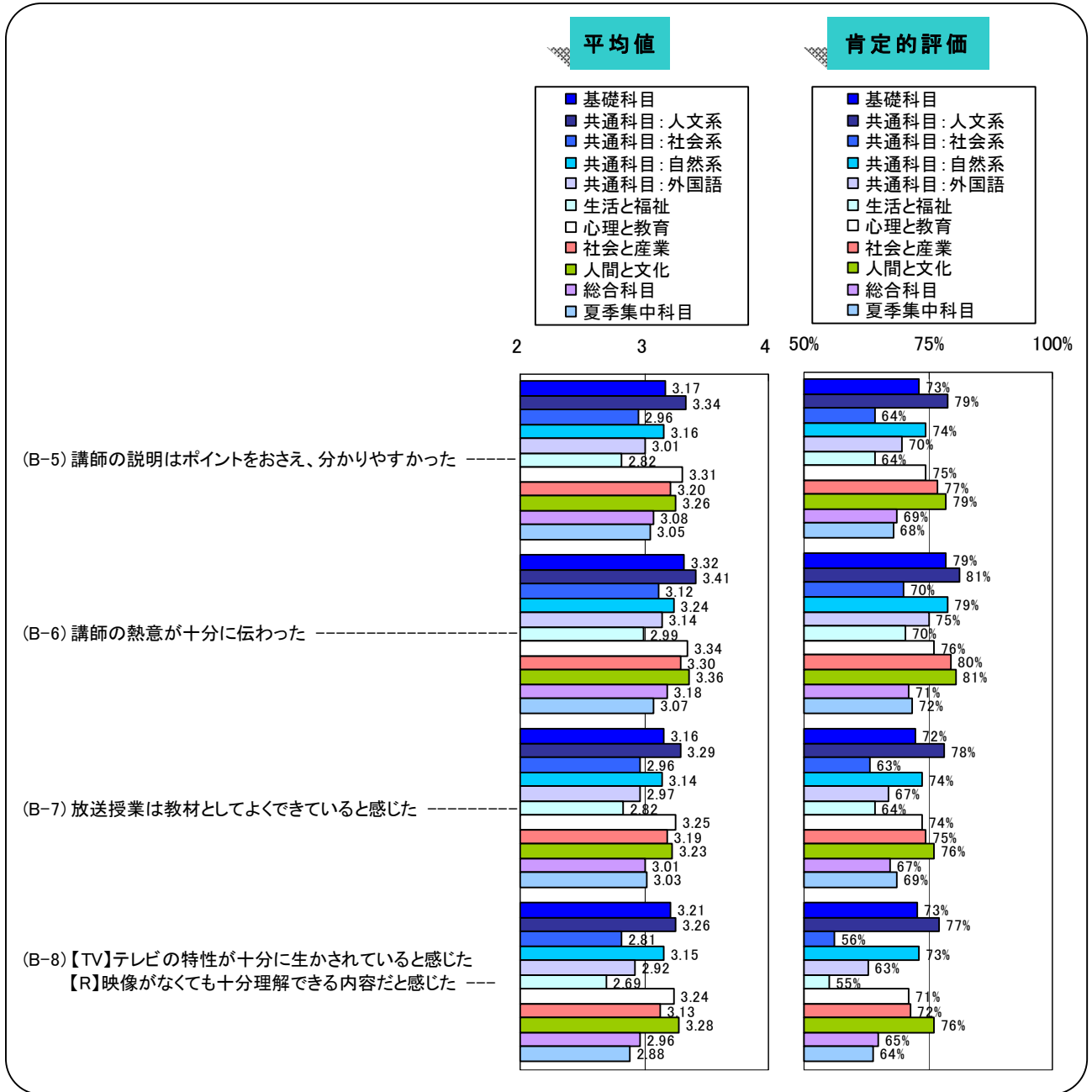
年齢階層別に放送授業の評価を見ると（図2-34）、いずれの項目も、年配層ほど評価が高い傾向となっており、10歳代の評価は、依然として低い状態のままである。

図2-34 【学部】年齢階層別の放送授業の評価



所属コース別に放送授業の評価を見ると（図2-35）、各項目とも「共通科目：人文系」の評価が比較的高く、「生活と福祉」の評価が低い。

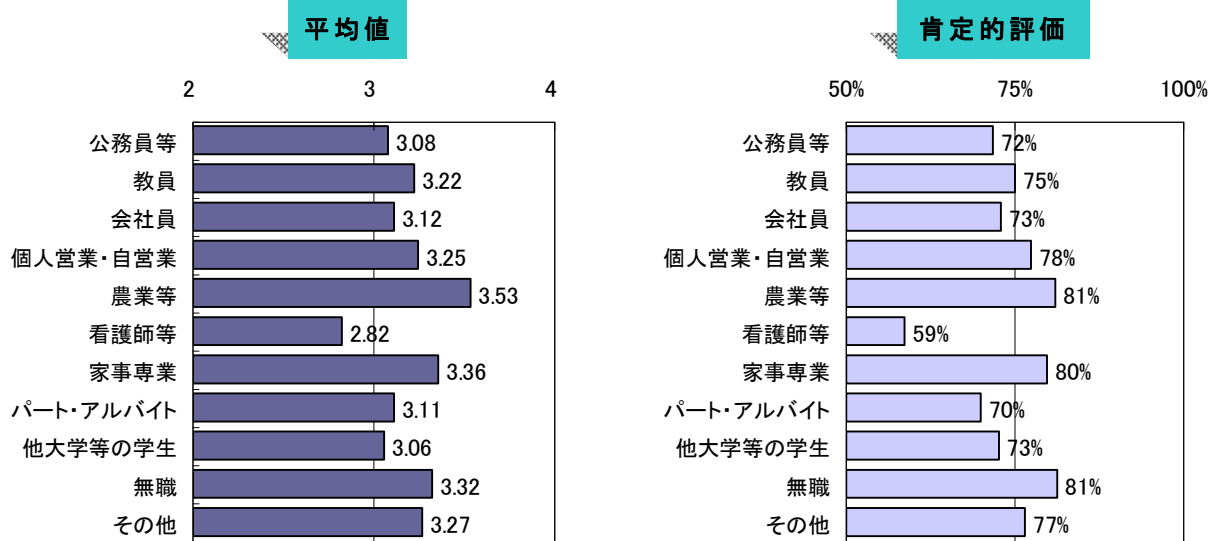
図2-35 【学部】所属コース別の放送授業の評価



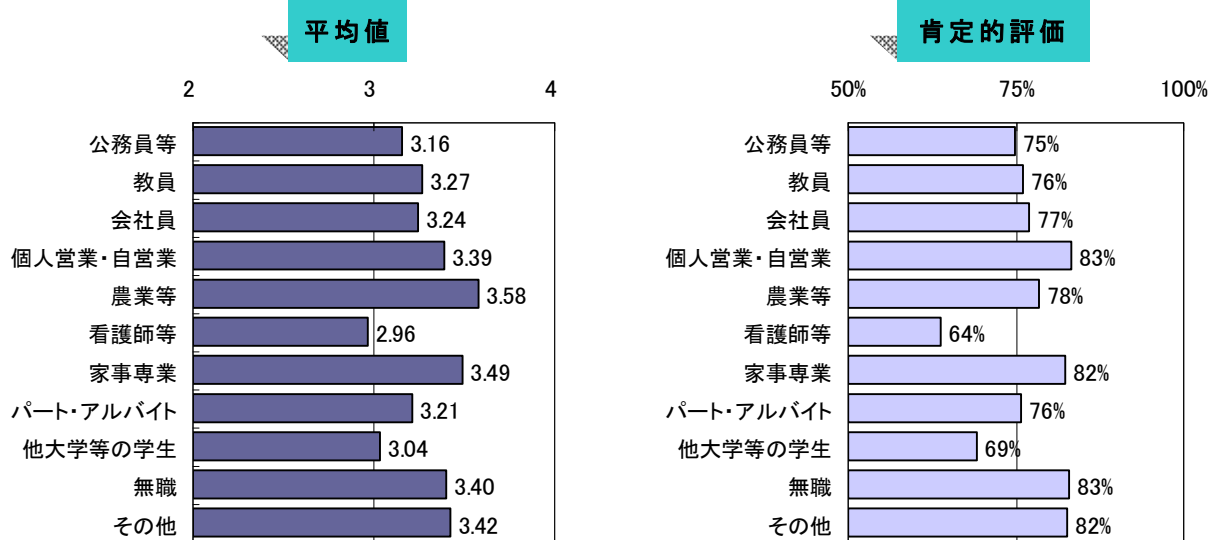
職業別に放送授業の評価を見ると（次頁図 2-36）、全体的に「看護師等」の評価が低い。一方、「農業等」の評価はどの項目も評価が高い。

図 2 - 3 6 【学部】職業別の放送授業の評価

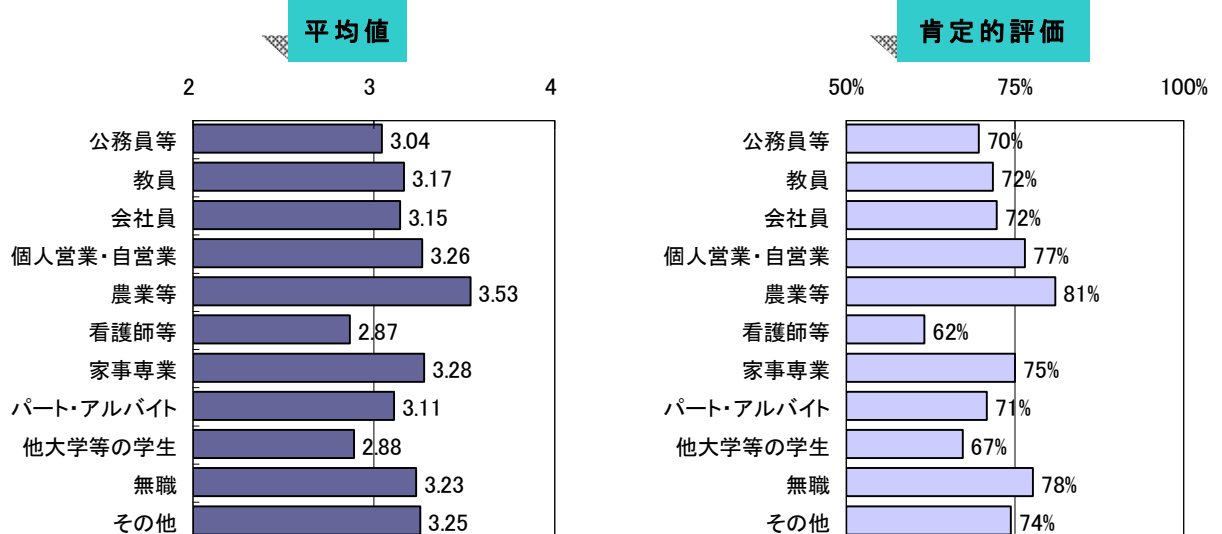
(B-5) 講師の説明はポイントをおさえ、分かりやすかった



(B-6) 講師の熱意が十分に伝わった



(B-7) 放送授業は教材としてよくできていると感じた

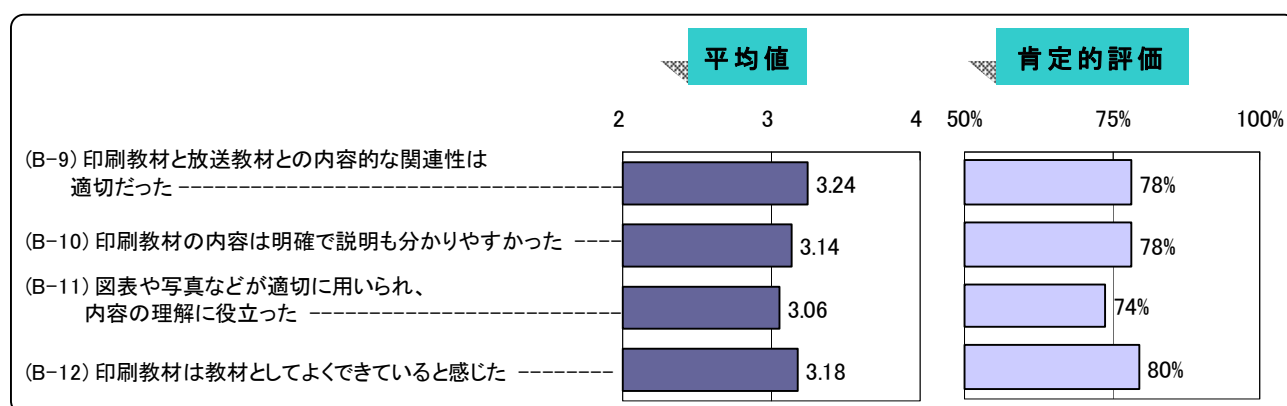


(4) 印刷教材

ここからは印刷教材について、評価項目ごとに見ていく。

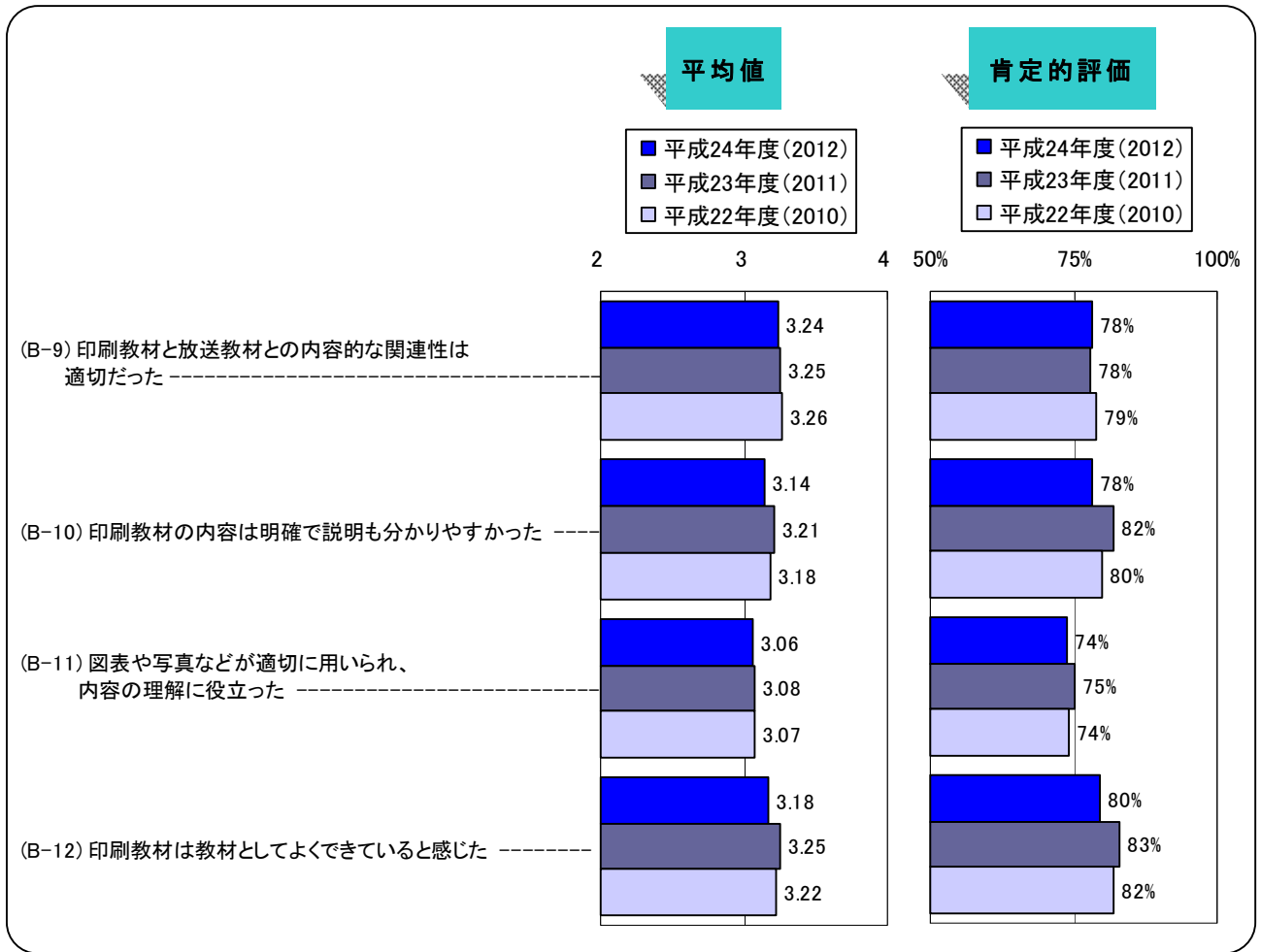
印刷教材の評価項目では(図2-37)、印刷教材の総合評価とも言うべき(B-12)「印刷教材は教材としてよくできていると感じた」が平均値3.18、肯定的評価80%と高い評価となっている。また(B-9)「印刷教材と放送教材との内容的な関連性は適切だった」と(B-10)「印刷教材の内容は明確で説明も分かりやすかった」も高い評価であるが、(B-11)「図表や写真などが適切に用いられ内容の理解に役立った」は他の項目に比べるとやや評価が低い。さらに図表や写真などを有効に取り入れ、理解しやすい教材を目指すべきであろう。

図2-37 【学部】回答者全体の印刷教材の評価



印刷教材の評価を時系列で見ると(次頁図2-38)、肯定的評価の(B-9)「印刷教材と放送教材との内容的な関連性は適切だった」は、わずかに評価が上がったが、全体的に2011年度より評価が下がっている。

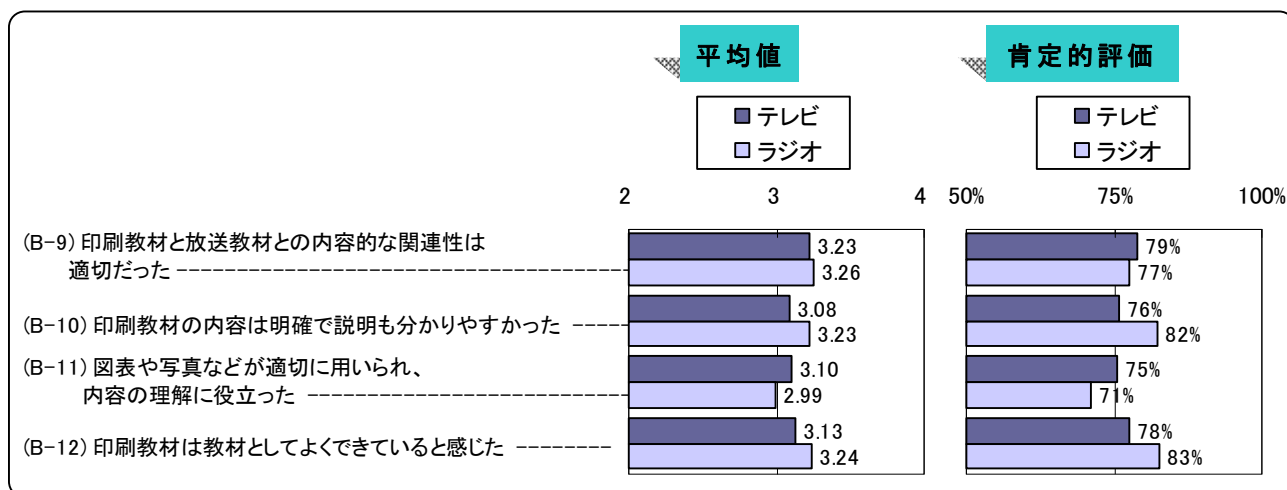
図 2 - 3 8 【学部】 回答者全体の印刷教材の評価（時系列）



メディア別に印刷教材の評価を見ると（図2-39）、平均値においては（B-11）「図表や写真などが適切に用いられ、内容の理解に役立った」の項目以外は、テレビ科目よりラジオ科目のほうが評価が高くなっている。テレビ科目は、分かりやすさをさらに研究していくことが大切である。

一方、肯定的評価は（B-9）「印刷教材と放送教材との内容的な関連性は適切だった」（B-11）「図表や写真などが適切に用いられ、内容の理解に役立った」はテレビ科目の評価が高く、（B-10）「印刷教材の内容は明確で説明も分かりやすかった」、（B-12）「印刷教材は教材としてよくできていると感じた」はラジオ科目の評価が高くなっている。

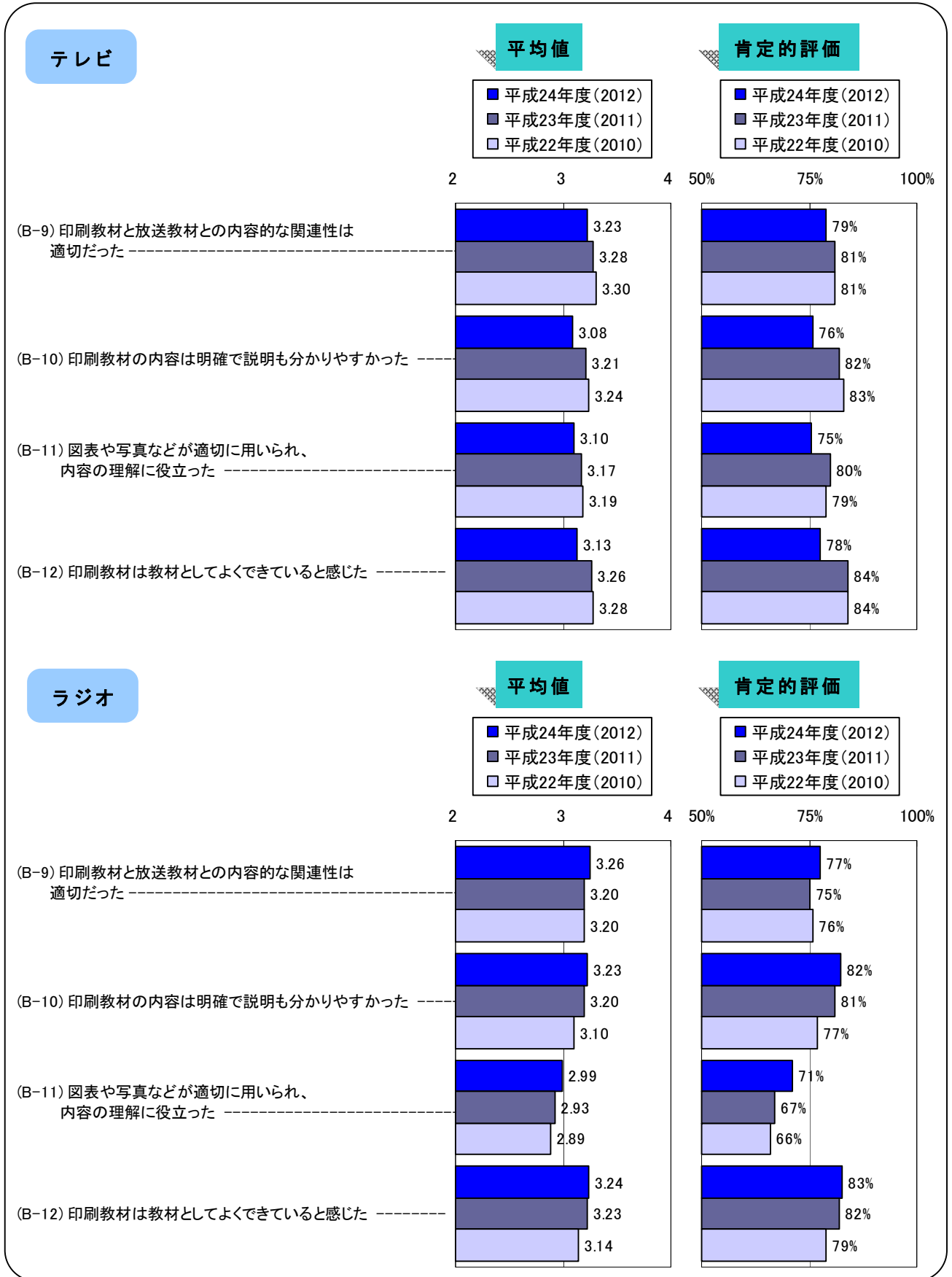
図2-39 【学部】メディア別の印刷教材の評価



メディア別の印刷教材の評価を時系列で見ると（次頁図2-40）、テレビ科目では、2011年度より、いずれの項目も評価がやや低く、改善が求められる。

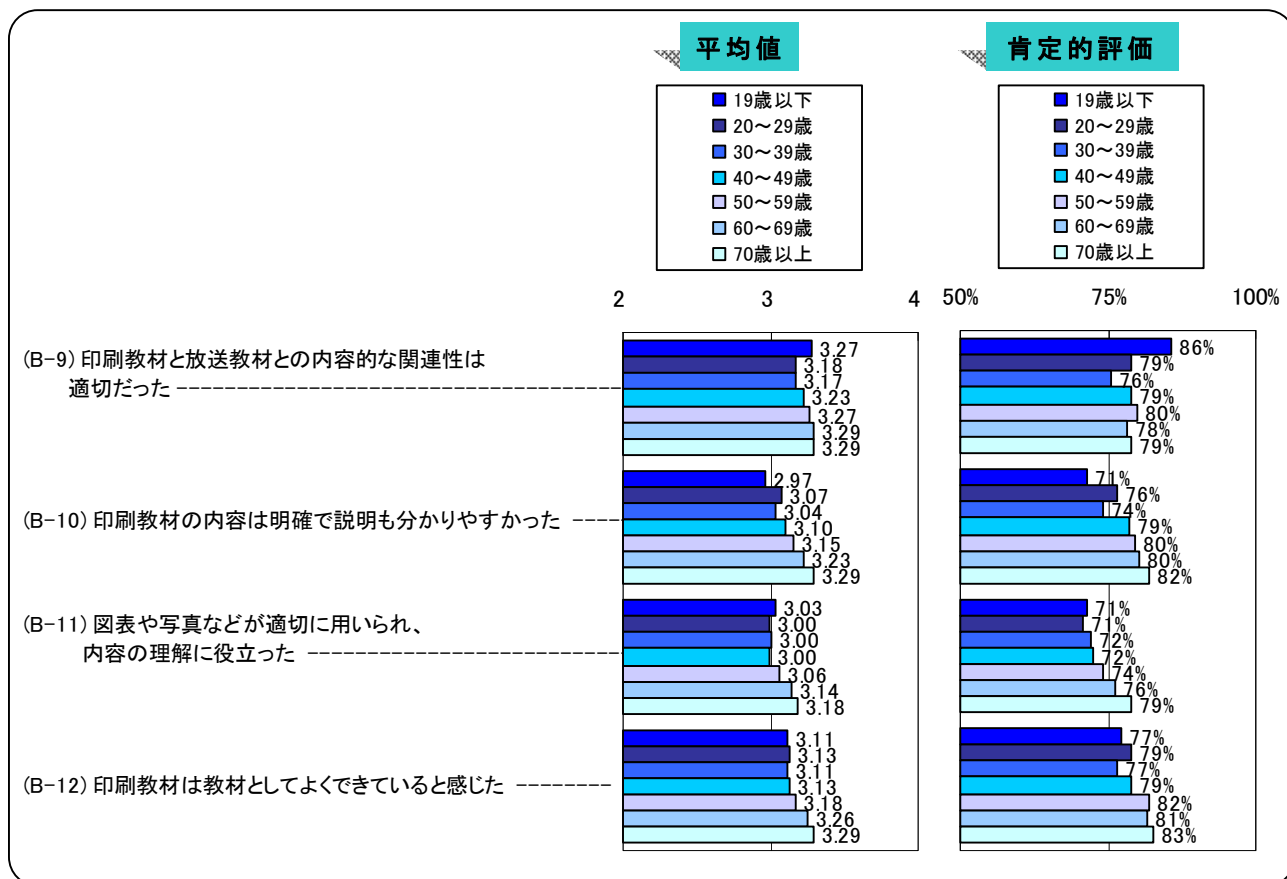
一方、ラジオ科目は、2011年度より、いずれの項目も評価が向上しており、改善の効果が出ていると言える。

図 2 - 4 0 【学部】メディア別の印刷教材の評価（時系列）



年齢階層別に印刷教材の評価を見ると(図2-41)、全体として高い値となっており、いずれの評価項目も、平均値・肯定的評価ともに50歳以上の評価がやや高い傾向になっている。

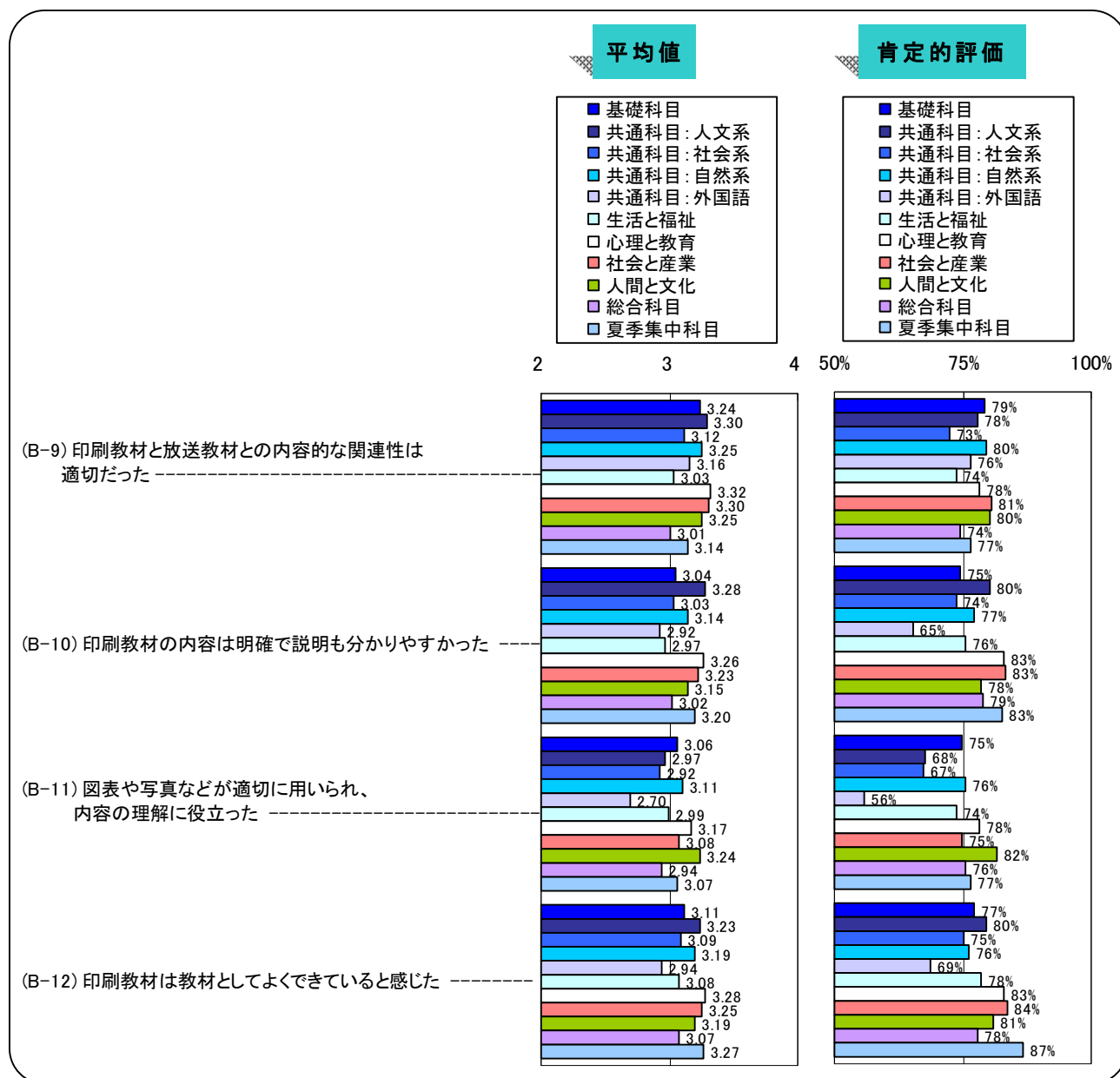
図2-41 【学部】年齢階層別の印刷教材の評価



所属コース別に印刷教材の評価を見ると（図2-42）、「心理と教育」が平均値においてどの項目も評価が高い。

一方で、「共通科目：外国語」が（B-10）「印刷教材の内容は明確で説明も分かりやすかった」、（B-11）「図表や写真などが適切に用いられ、内容の理解に役立った」において評価が低く、改善が求められる。

図2-42 【学部】所属コース別の印刷教材の評価

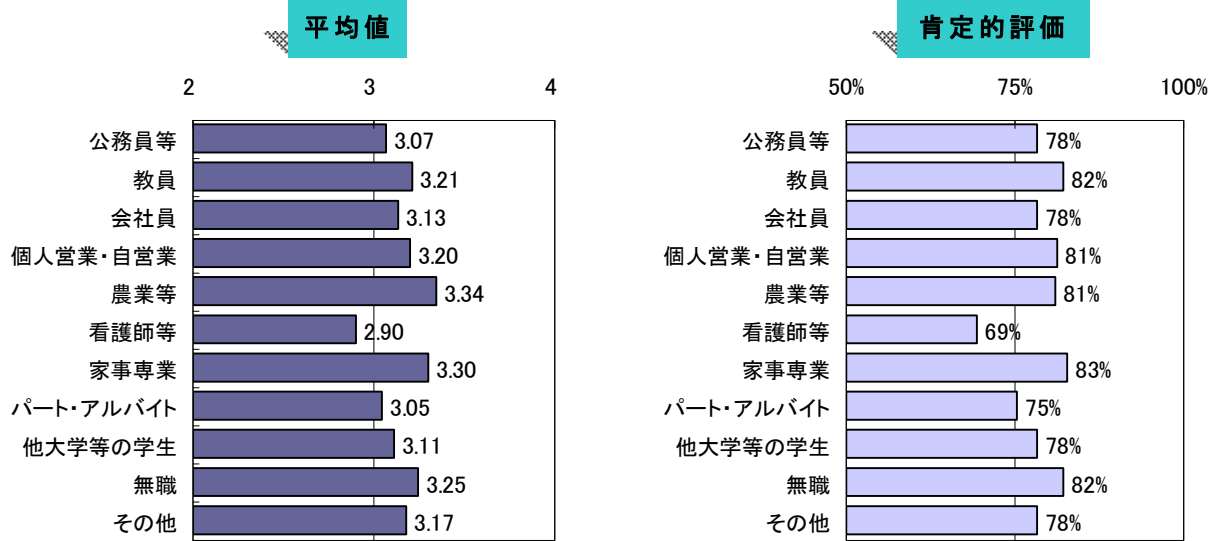


職業別に印刷教材の評価を見ると（次頁図 2 - 4 3）、平均値においては「農業等」「家事専業」の評価が高い。

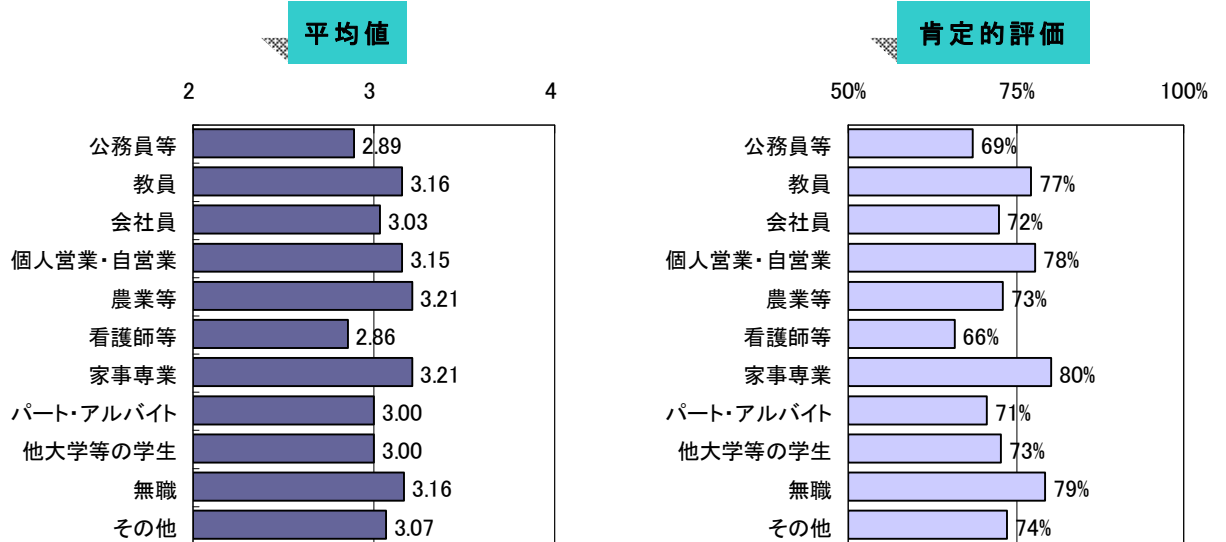
一方、「看護師等」はいずれの内容においても評価が低くなっているため改善が求められる。

図 2 - 4 3 【学部】職業別の印刷教材の評価

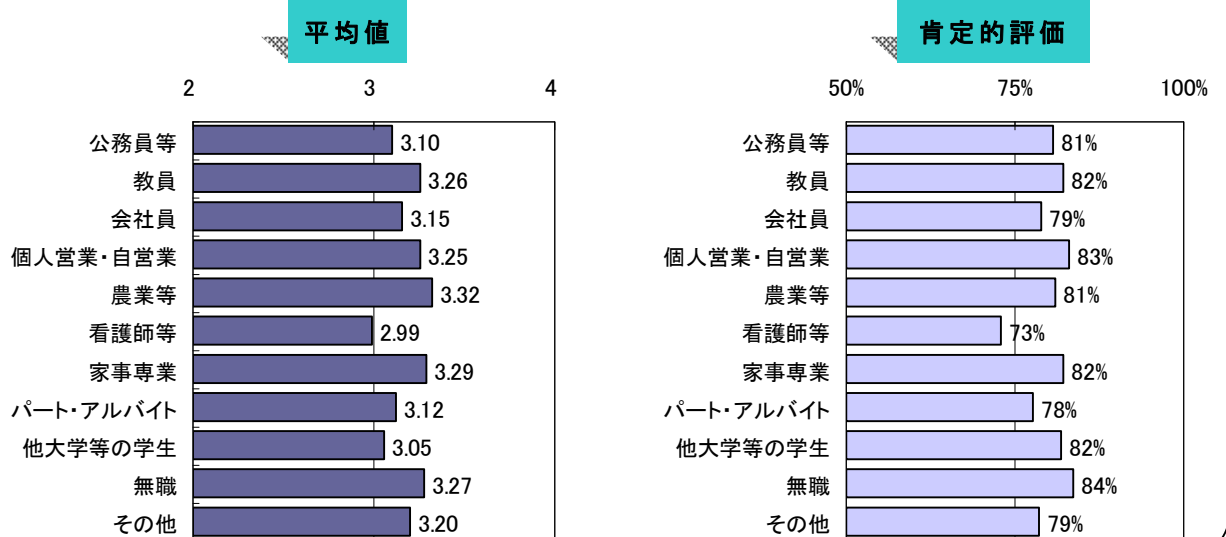
(B-10) 印刷教材の内容は明確で説明も分かりやすかった



(B-11) 図表や写真などが適切に用いられ、内容の理解に役立った



(B-12) 印刷教材は教材としてよくできていると感じた



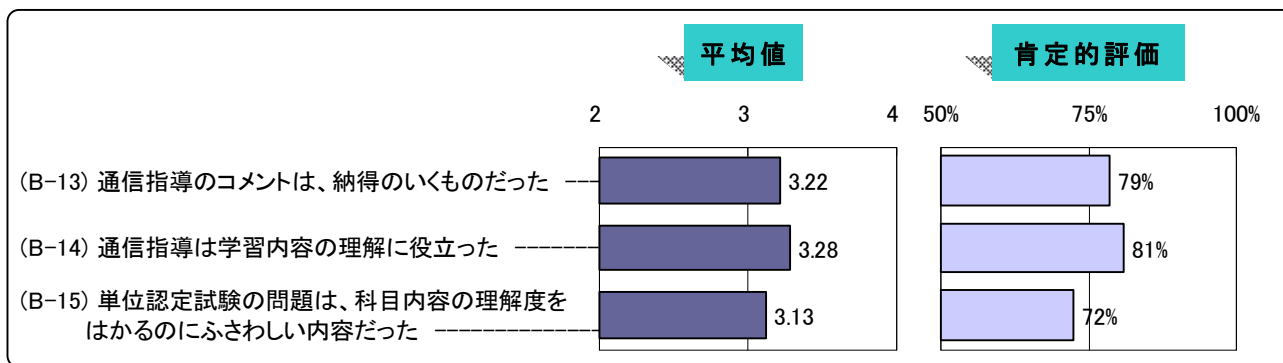
(5) 通信指導・単位認定試験

最後に通信指導・単位認定試験の評価について、項目ごとに見ていく。

通信指導については(図2-44)、(B-13)「通信指導のコメントは、納得のいくものだった」が平均値 3.22、肯定的評価 79%、(B-14)「通信指導は学習内容の理解に役立った」が平均値 3.28、肯定的評価 81%と、いずれも高い評価を得ている。

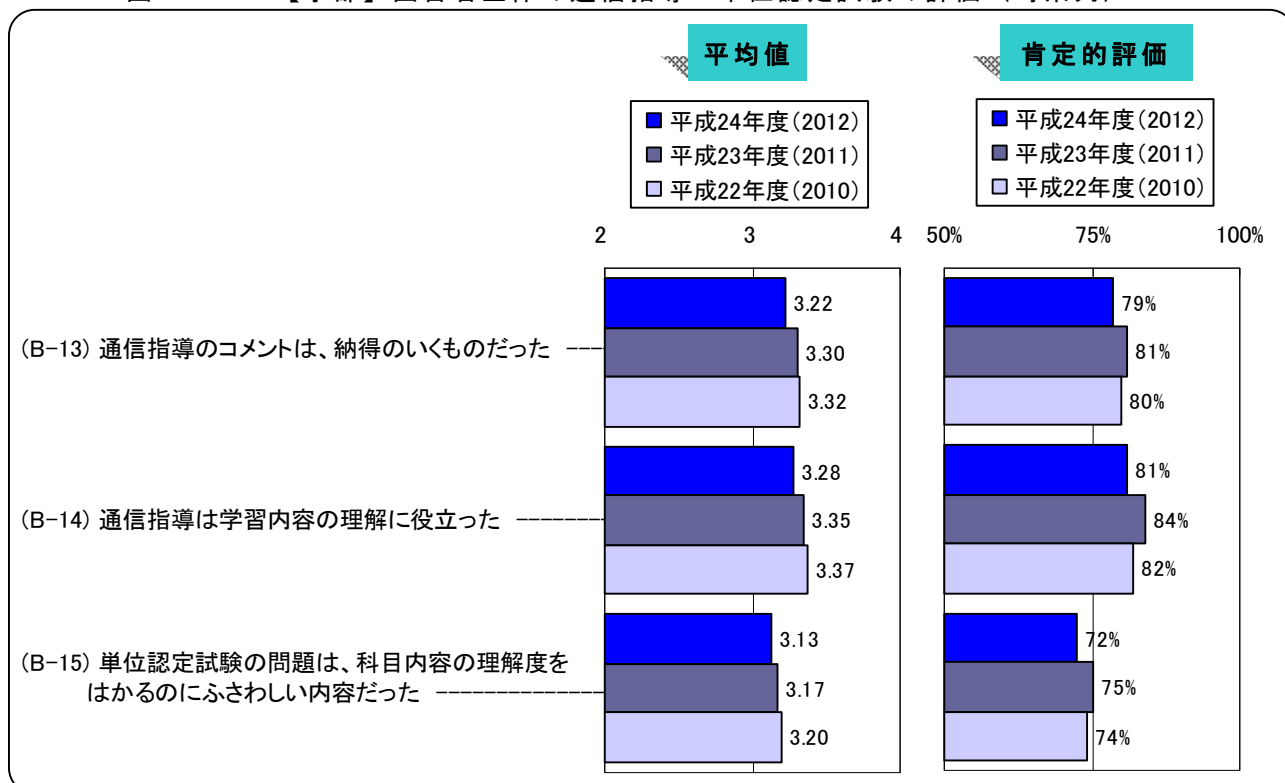
単位認定試験については、(B-15)「単位認定試験の問題は科目内容の理解度をはかるのにふさわしい内容だった」が平均値 3.13、肯定的評価 72%と比較的评价が低くなっている。

図2-44 【学部】回答者全体の通信指導・単位認定試験の評価



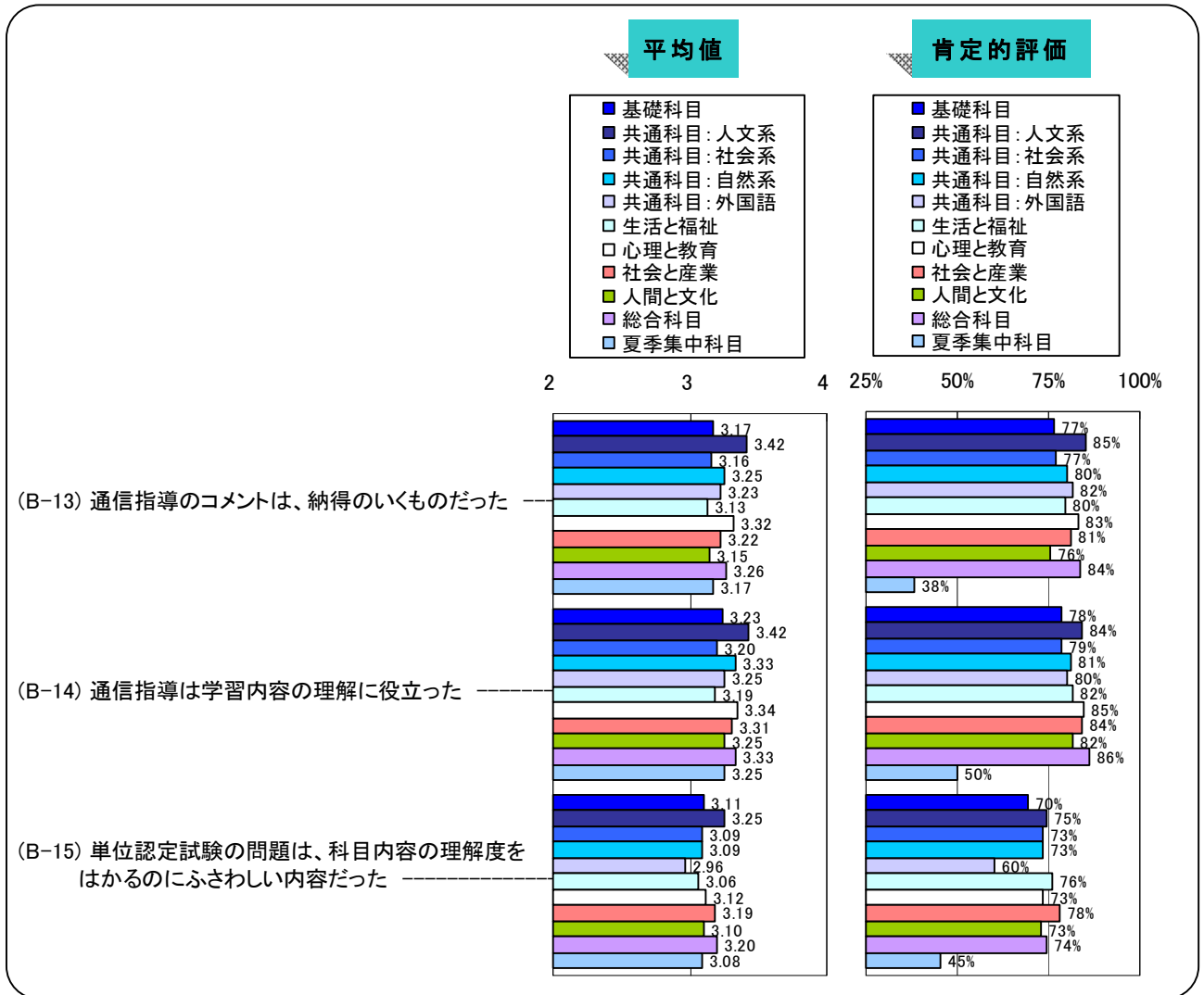
通信指導・単位認定試験の評価を時系列で見ると(図2-45)、もともと評価が高かったこともあり、いずれの内容でも、わずかに低い評価になっている。

図2-45 【学部】回答者全体の通信指導・単位認定試験の評価(時系列)



所属コース別に通信指導・単位認定試験の評価を見ると（図2-46）、いずれの内容でも、「共通科目：人文系」の評価が高く、「夏季集中科目」は肯定的評価において評価が低く、改善が求められる。

図2-46 【学部】所属コース別の通信指導・単位認定試験の評価



Ⅱ-1-4. 参考

ここでは評価項目間の相関を見ることによって、より深く授業改善の糸口を探っていくことにする。分析には主にピアソンの単相関係数（以下、相関係数）を用いた。相関係数は 1.0 から -1.0 までの値をとり、二つの変数間の変化のいわば「足並み」を示す指標である。それらが共変する場合（つまり片方の値が高ければもう一方も高く、低ければ低いという場合）は 1.0 に近づき、逆の変化をする場合は -1.0 に近づく。両者の変化に関係性がない場合は 0 に近づく。ただし、相関係数による分析では、変数間の共変関係は分かっても、因果関係（つまりどちらが原因となる変数で、どちらが結果かということ）は分からないのが普通である。以下の分析ではそのことを十分留意していただきたい。ただ、総合的な評価は個別の評価を考慮し、総合してなされるであろうことは想像に難くない。そのことを前提として、総合評価と個別評価との関係を見ていくことにしよう。

表 2-2 は、放送授業の各評価項目と (A-2)「放送授業を十分に視聴した」(放送授業への取組姿勢) 及び (B-7)「放送授業は教材としてよくできていると感じた」(放送授業の総合評価) の相関係数である。

表 2-2 【学部】放送授業と各項目との単相関係数

	(A-2) 放送授業を十分に視聴した	(B-7) 放送授業は教材としてよくできていると感じた
(A-2) 放送授業を十分に視聴した	1.000	0.417
(B-1) 放送授業の難易度は適切だった	0.414	0.600
(B-2) 放送授業の内容は適切な分量であった	0.425	0.630
(B-5) 講師の説明はポイントをおさえ、分かりやすかった	0.436	0.772
(B-6) 講師の熱意が十分に伝わった	0.455	0.729
(B-7) 放送授業は教材としてよくできていると感じた	0.417	1.000
(B-8) 【TV】テレビの特性が十分に生かされていると感じた 【R】映像がなくても十分理解できる内容だと感じた	0.427	0.712

これを見ると、(A-2)「放送授業を十分に視聴した」(放送授業への取組姿勢) と (B-7)「放送授業は教材としてよくできていると感じた」(放送授業の総合評価) の相関係数は 0.417 と、相関は見られるものの、弱い相関となっている。つまり放送授業の視聴度合いと放送授業の評価は、決して強くはないが、やや関連性があると言ってよい。

また (A-2)「放送授業を十分に視聴した」(放送授業への取組姿勢)は、放送授業の各評価項目である (B-1)「放送授業の難易度は適切だった」、(B-2)「放送授業の内容は適切な分量であった」、(B-5)「講師の説明はポイントをおさえ、分かりやすかった」、(B-6)「講師の熱意が十分に伝わった」、(B-7)「放送授業は教材としてよくできていると感じた」などと相関係数 0.400 以上と相関が見られ、放送授業の取組姿勢のよい人は放送授業の評価がよく、逆に放送授業の評価がよいと取組姿勢もよくなることが推測される。

一方、(B-7)「放送授業は教材としてよくできていると感じた」(放送授業の総合評価)と放送授業の各評価項目との間では、いずれも強い相関が見られるが、特に (B-5)「講師の説明はポイントをおさえ、分かりやすかった」が相関係数 0.772、(B-6)「講師の熱意が十分に伝わった」が相関係数 0.729 と、相関が強くなっている。したがって、放送授業の総合評価を高めるには、いずれの評価項目もよく改善することが重要であるが、特に講師の説明の分かりやすさや講師の熱意が大切だと言える。

次に、印刷教材の各評価項目と、(A-3)「印刷教材を熱心に学習した」(印刷教材への取組姿勢)及び (B-12)「印刷教材は教材としてよくできていると感じた」(印刷教材の総合評価)の相関係数を見たのが表 2-3 である。

表 2-3 【学部】印刷教材と各項目との単相関係数

	(A-3)印刷教材を熱心に学習した	(B-12)印刷教材は教材としてよくできていると感じた
(A-3)印刷教材を熱心に学習した	1.000	0.323
(B-3)印刷教材の難易度は適切だった	0.337	0.603
(B-4)印刷教材の内容は適切な分量であった	0.331	0.599
(B-9)印刷教材と放送教材との内容的な関連性は適切だった	0.291	0.592
(B-10)印刷教材の内容は明確で説明も分かりやすかった	0.330	0.783
(B-11)図表や写真などが適切に用いられ、内容の理解に役立った	0.271	0.722
(B-12)印刷教材は教材としてよくできていると感じた	0.323	1.000

これを見ると、(A-3)「印刷教材を熱心に学習した」(印刷教材への取組姿勢)は、(B-12)「印刷教材は教材としてよくできていると感じた」(印刷教材の総合評価)および印刷教材の各評価項目との間に、あまり強い相関は見られない。

一方、(B-12)「印刷教材は教材としてよくできていると感じた」(印刷教材の総合評価)と印刷教材の各評価項目とでは相関が強く、特に (B-10)「印刷教材の内容は明確で説明

も分かりやすかった」は相関係数 0.783、(B-11)「図表や写真などが適切に用いられ内容の理解に役立った」が 0.722 と相関が強くなっている。そのため印刷教材の総合評価を高めるためには、いずれの評価項目もよく改善することが重要であるが、特に説明の分かりやすさと図表や写真を有効利用することが大切であると言える。

最後に (A-1)「全体としてこの科目の学習に熱心に取り組んだ(熱心度)」、(B-19)「この科目の内容を全体としてよく理解できた(理解度)」及び(B-20)「この科目の内容には全体として満足している(満足度)」と各評価項目の相関係数を見たのが表2-4である。

表2-4 【学部】取組姿勢・全体評価と各項目との単相関係数

		(A-1)全体として、この科目の学習に熱心に取り組んだ(熱心度)	(B-19)この科目の内容を全体としてよく理解できた(理解度)	(B-20)この科目の内容には全体として満足している(満足度)
取組姿勢	(A-1)全体として、この科目の学習に熱心に取り組んだ(熱心度)	1.000	0.511	0.463
	(A-2)放送授業を十分に視聴した	0.573	0.323	0.287
	(A-3)印刷教材を熱心に学習した	0.703	0.453	0.406
授業の難易度・分量	(B-1)放送授業の難易度は適切だった	0.356	0.545	0.568
	(B-2)放送授業の内容は適切な分量であった	0.340	0.509	0.541
	(B-3)印刷教材の難易度は適切だった	0.342	0.590	0.616
	(B-4)印刷教材の内容は適切な分量であった	0.333	0.562	0.602
放送授業	(B-5)講師の説明はポイントをおさえ、分かりやすかった	0.375	0.554	0.608
	(B-6)講師の熱意が十分に伝わった	0.357	0.446	0.523
	(B-7)放送授業は教材としてよくできていると感じた	0.353	0.513	0.603
	(B-8)【TV】テレビの特性が十分に生かされていると感じた 【R】映像がなくても十分理解できる内容だと感じた	0.327	0.457	0.500
印刷教材	(B-9)印刷教材と放送教材との内容的な関連性は適切だった	0.335	0.498	0.550
	(B-10)印刷教材の内容は明確で説明も分かりやすかった	0.341	0.626	0.666
	(B-11)図表や写真などが適切に用いられ、内容の理解に役立った	0.289	0.511	0.564
	(B-12)印刷教材は教材としてよくできていると感じた	0.330	0.580	0.667
単位認定試験・通信指導	(B-13)通信指導のコメントは、納得のいくものだった	0.261	0.441	0.487
	(B-14)通信指導は学習内容の理解に役立った	0.316	0.502	0.555
	(B-15)単位認定試験の問題は、科目内容の理解度をはかるのにふさわしい内容だった	0.313	0.530	0.589
全体評価	(B-16)授業科目案内はこの科目の内容を知る上で役に立った	0.340	0.563	0.614
	(B-17)学習意欲や興味・関心が高まる授業内容だった	0.458	0.670	0.765
	(B-18)新しい知識が身につく視野が広がった	0.442	0.617	0.702
	(B-19)この科目の内容を全体としてよく理解できた(理解度)	0.511	1.000	0.778
	(B-20)この科目の内容には全体として満足している(満足度)	0.463	0.778	1.000

まず、全体的な熱心度（取組姿勢）と科目の理解度、満足度との関係を見ると、熱心度は理解度と 0.511、満足度と 0.463 の相関係数であり、熱心度と理解度・満足度との間に相関が見て取れる。また理解度と満足度の相関係数は 0.778 と強い相関が見られ、理解度が高いと満足度も高いと言える。

(A-1)「全体としてこの科目の学習に熱心に取り組んだ（熱心度）」と各評価項目の相関を見ると、(A-3)「印刷教材を熱心に学習した」が相関係数 0.703 と最も相関が高く、次いで (A-2)「放送授業を十分に視聴した」が相関係数 0.573、さらに全体評価の (B-19)「この科目の内容を全体としてよく理解できた」とも相関が見られる。全体的な熱心度は、印刷教材や放送授業への取組姿勢と、授業内容が興味や関心の高まるものであり、視野が広がるものであったかどうかとも関係していると言える。

(B-19)「この科目の内容を全体としてよく理解できた（理解度）」と各評価項目は、いずれも相関が見られる。特に (B-20)「この科目の内容には全体として満足している（満足度）」、(B-17)「学習意欲や興味・関心が高まる授業内容だった」、(B-10)「印刷教材の内容は明確で説明も分かりやすかった」と強い相関が見られる。理解度は、教材の分かりやすさだけでなく、授業内容が興味や関心の高まるものであったかどうか、新しい知識が身につく視野が広がるものであったかどうかと特に関係していることが分かる。

(B-20)「この科目の内容には全体として満足している（満足度）」と各評価項目の相関係数を見ると、取組姿勢以外の各評価項目と相関が見られ、満足度を高める上でいずれの評価項目も影響していることが分かる。なかでも特に相関が強いのは、(B-19)「この科目の内容を全体としてよく理解できた（理解度）」、(B-17)「学習意欲や興味・関心が高まる授業内容だった」、(B-18)「新しい知識が身に付き視野が広がった」、である。科目の満足度を高める上で、講師の説明や放送授業の分かりやすさ、印刷教材の難易度や分かりやすさ、興味・関心のもてる授業内容、視野が広がるような知識の習得などが特に重要なポイントと言える。

Ⅱ－２．大学院の分析結果

Ⅱ－２－１．項目平均から見た全体的傾向

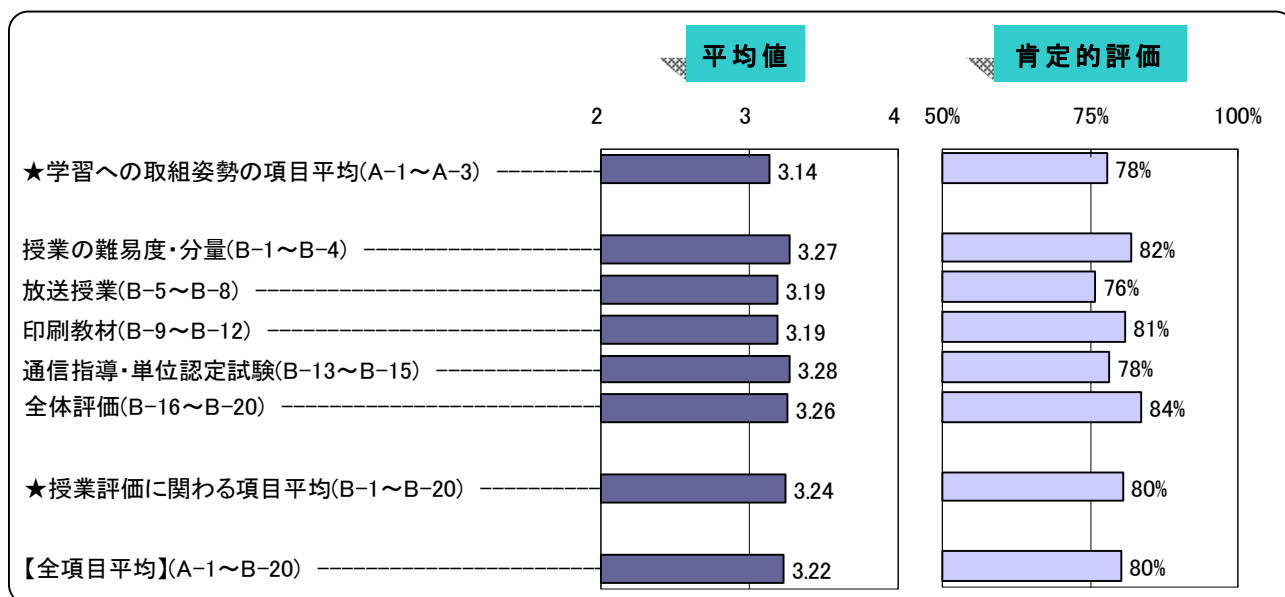
ここからは大学院科目の評価結果を見ていく。大学院の回答者全体について、評価項目の内容ごとにその平均を算出したのが図 2－47 である。まずこれによって評価の全体的傾向を把握しておくこととする。

項目平均を全体的に見ると、学部生よりも取組姿勢がよく、授業評価も高いのが特徴である。

『学習への取組姿勢の項目平均』は平均値 3.14、肯定的評価（「あてはまる」＋「ややあてはまる」）78%であり、『授業評価に関わる項目平均』も平均値 3.24、肯定的評価 80%と高い値を示している。熱心に学習に取り組んだと同時に、授業に対する評価も高いと言える。

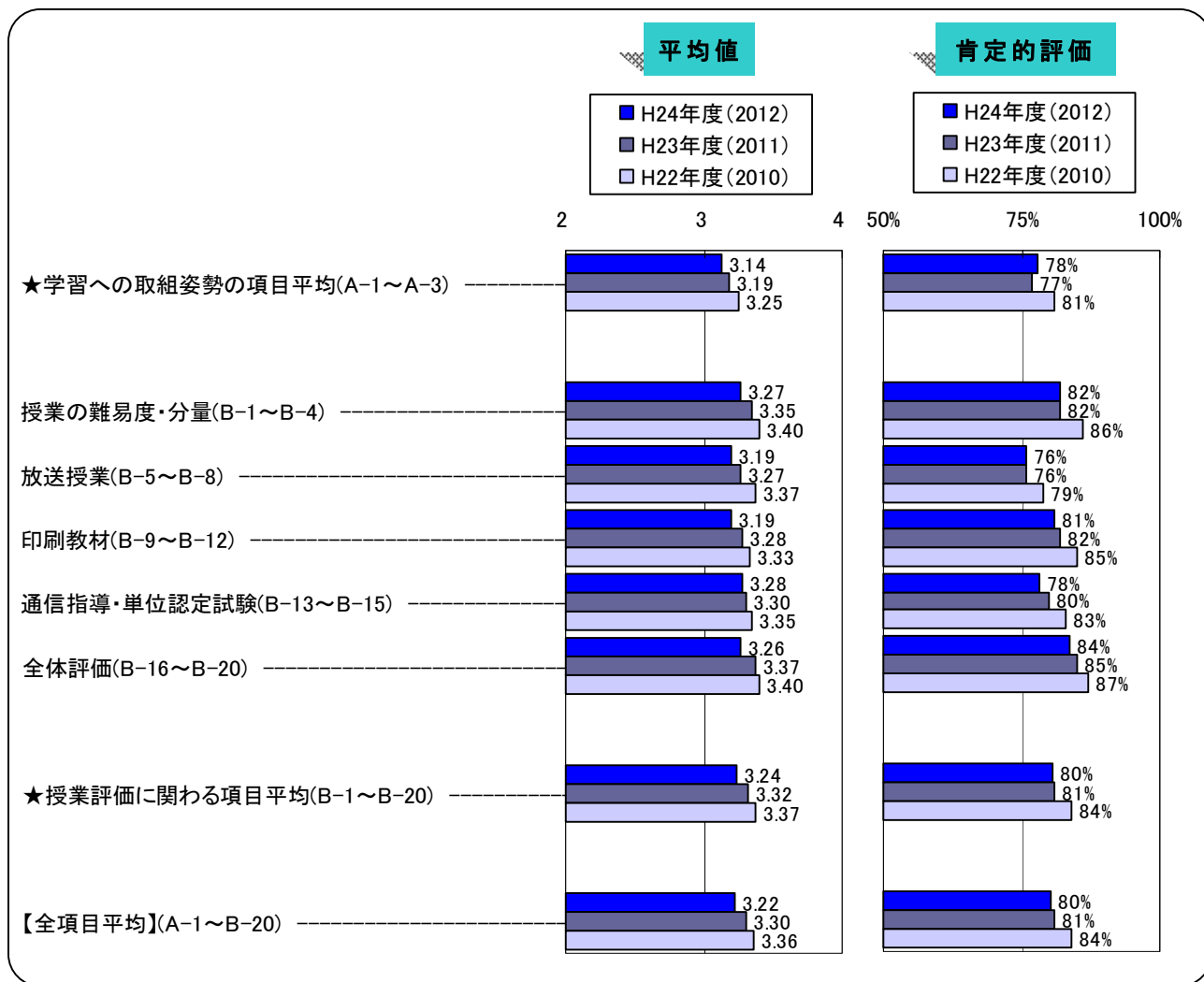
『授業評価に関わる項目平均』を内容ごとにみると、『全体評価』は平均値 3.26、肯定的評価 84%と評価が高くなっている。逆に『放送授業』は肯定的評価が、他の項目平均より少なく、改善ポイントとなっている。

図 2－47 【大学院】項目平均による全体的傾向



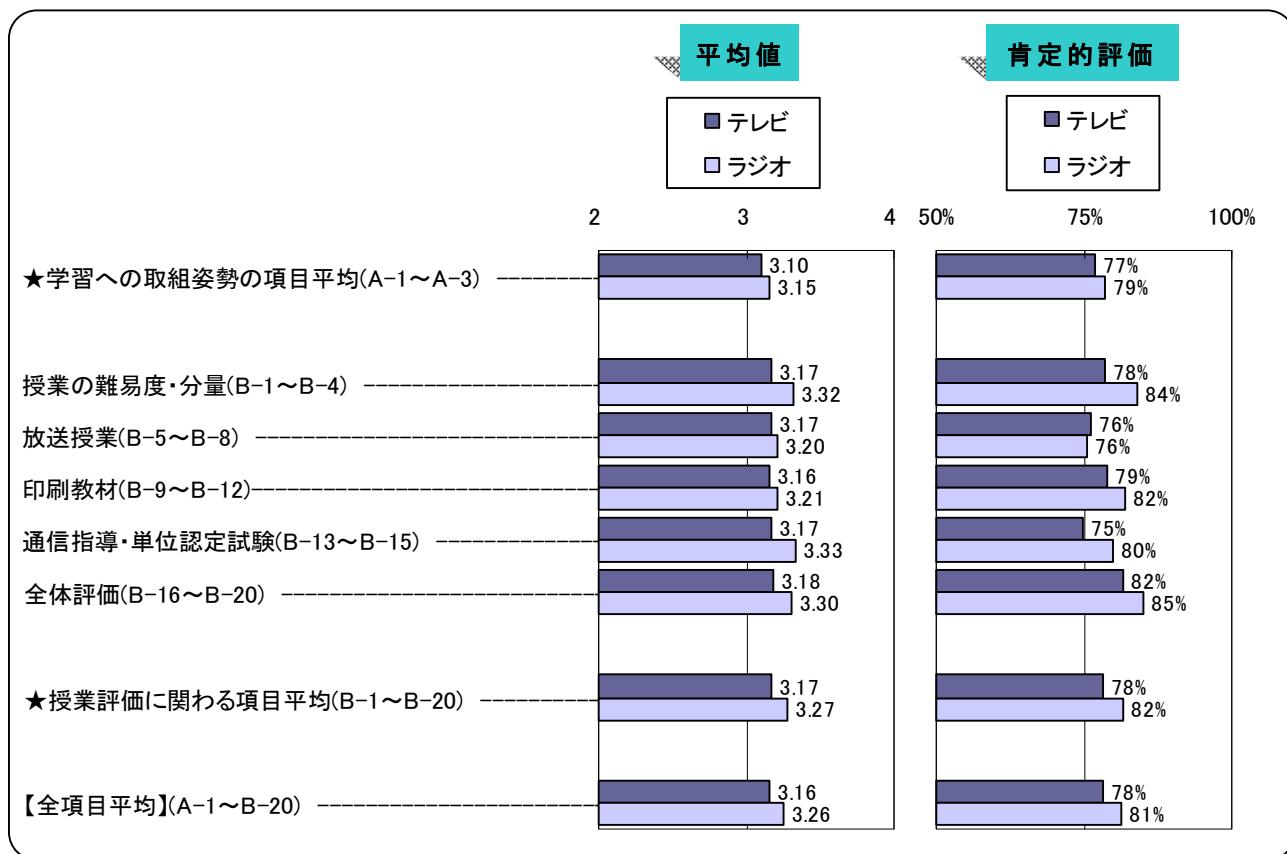
項目平均を科目の開設年度で比較してみると（図2-48）、2012年度新規開設科目は、2011年度新規開設科目に比べ、いずれの内容でも僅かずつ評価が下がっている。特に『学習への取組姿勢の項目平均』は時系列でみると平均値は減少傾向にあるが、肯定的評価は若干増加している。

図2-48 【大学院】項目平均による全体的傾向（開設年度比較）



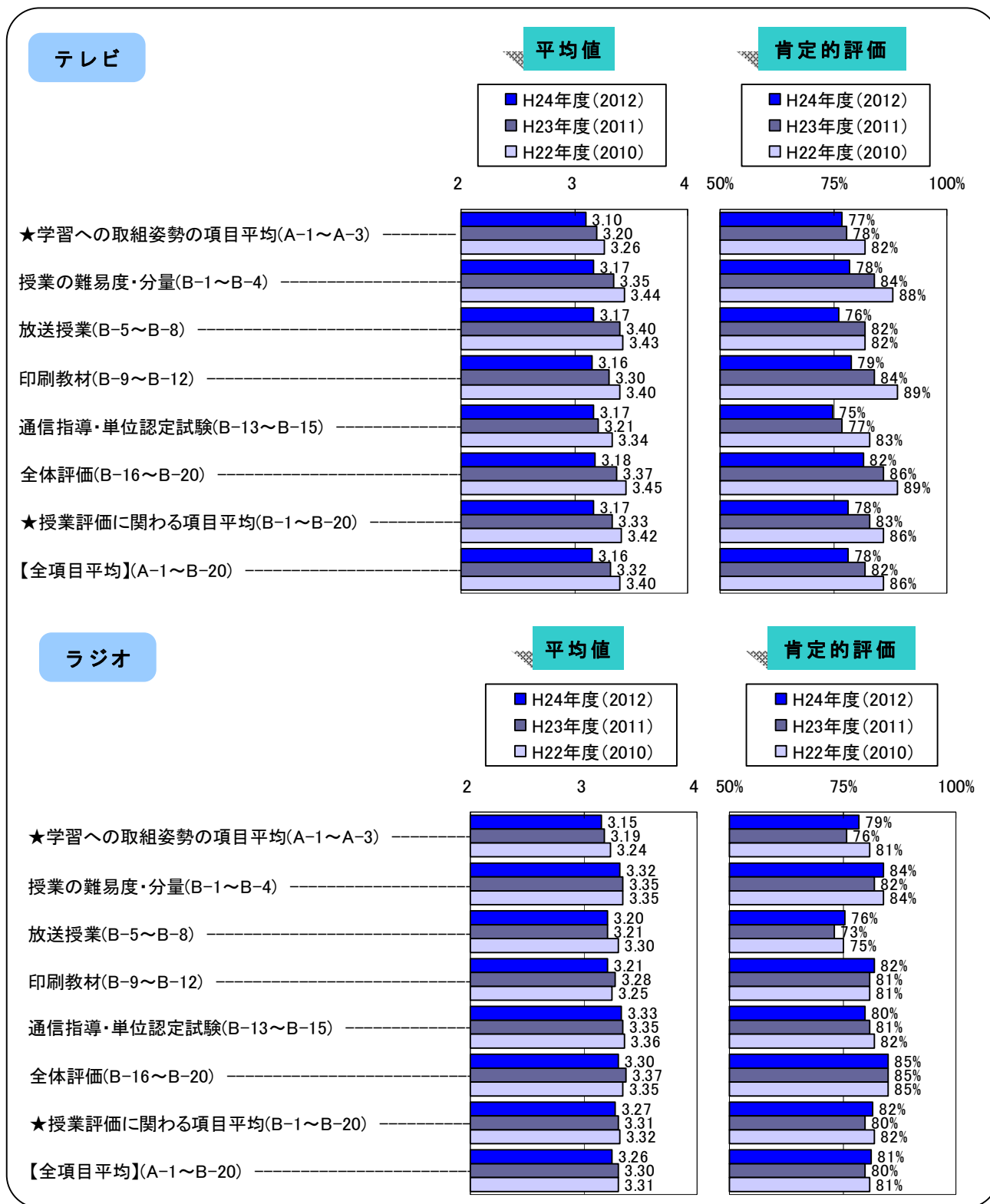
メディア別に 2012 年度新規開設科目の項目平均を見ると (図 2-49)、『学習への取組姿勢の項目平均』、『授業評価に関わる項目平均』とも、ラジオ科目の方が若干評価が高い。

図 2-49 【大学院】項目平均によるメディア別全体的傾向



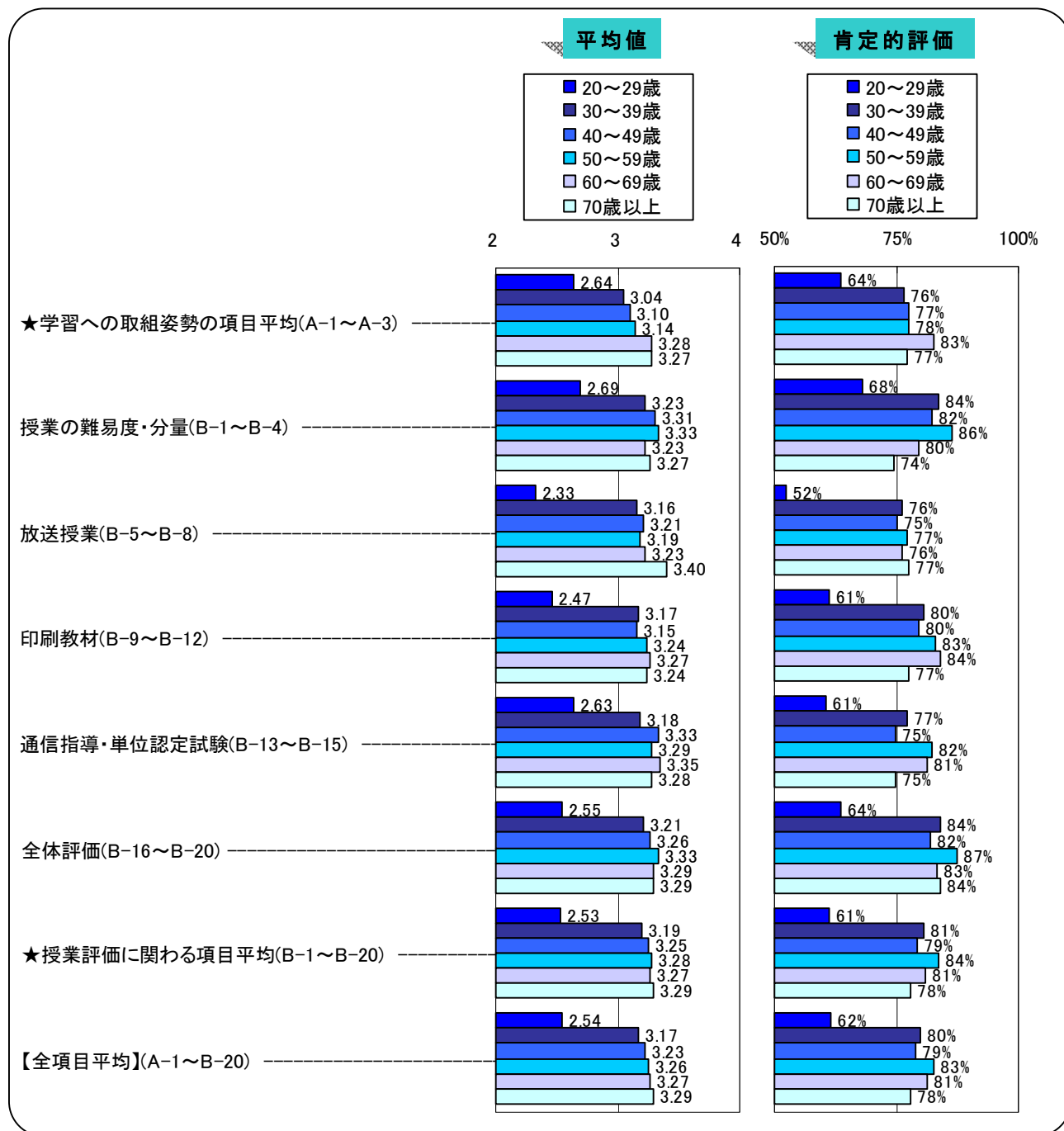
メディア別の項目平均を科目の開設年度で比較すると（図2-50）、2012年度新規開設科目では2011年度新規開設科目に比べテレビ科目、ラジオ科目、いずれも評価が低くなっている。

図2-50 【大学院】項目平均によるメディア別全体的傾向（開設年度比較）



回答者の年齢階層別に 2012 年度新規開設科目の項目平均を見ると（図 2-5 1）、全体的に 20 歳代がかなり低くなっており、『学習への取組姿勢の項目平均』は、60 歳代と 70 歳代で評価がやや高くなっている。

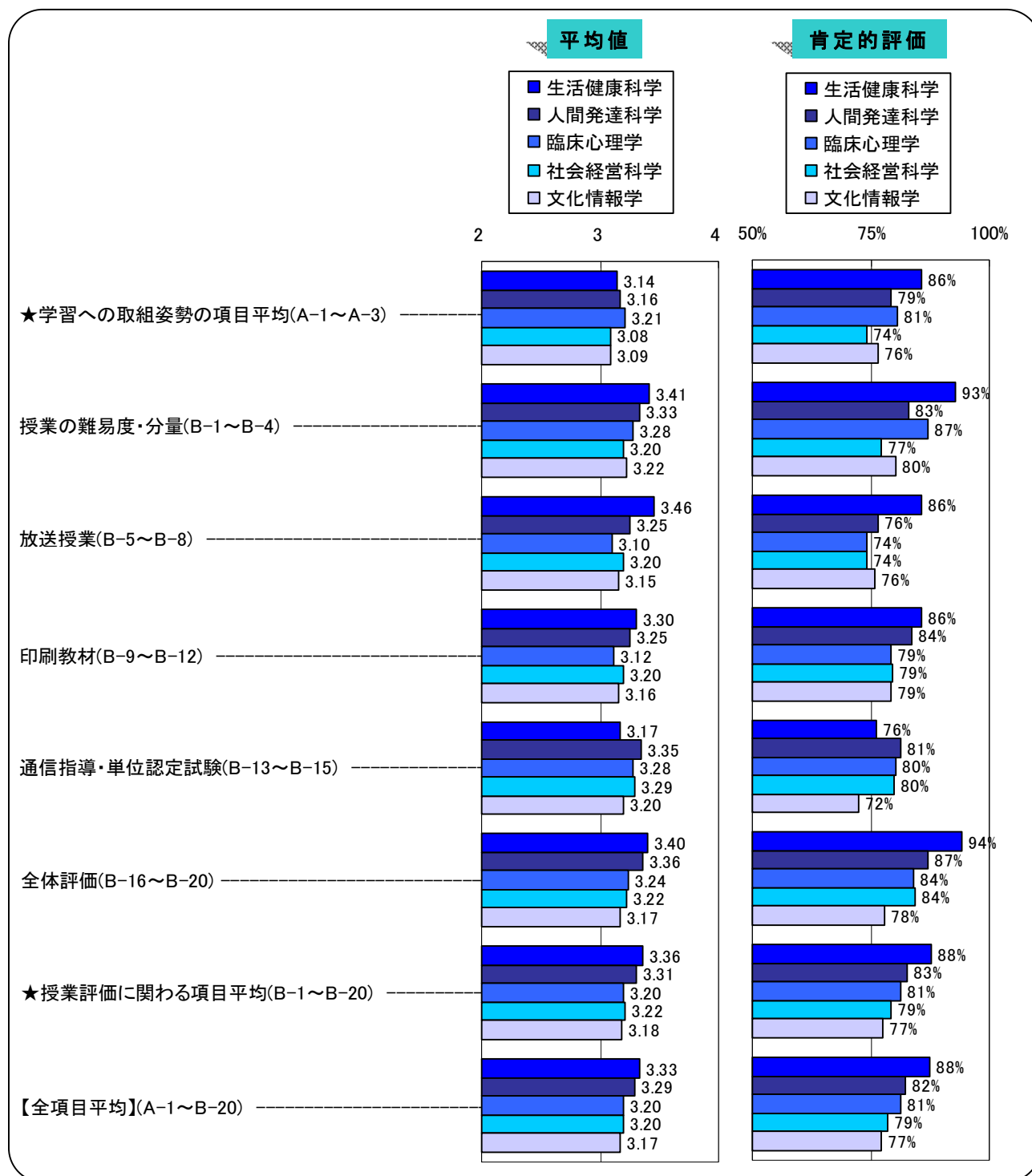
図 2-5 1 【大学院】項目平均による年齢階層別全体的傾向



科目の所属プログラム別に項目平均を見ると（図2-52）、『学習への取組姿勢の項目平均』は「臨床心理学」と「人間発達科学」の値がやや高くなっている。

『授業評価に関わる項目平均』は、「生活健康科学」、「人間発達科学」の評価が高いが、他のプログラムに比べ「文化情報学」の評価がやや低くなっており、改善が求められる。

図2-52 【大学院】項目平均による所属プログラム別全体的傾向

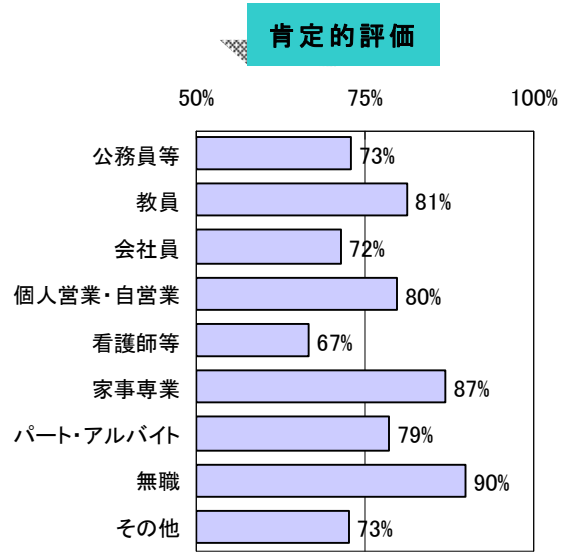
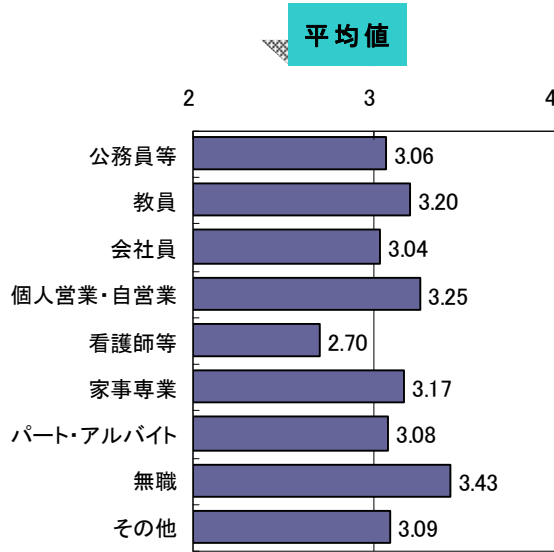


職業別に項目平均を見ると（次頁図2-53）、『学習への取組姿勢の項目平均』は「無職」「個人営業・自営業」「教員」「家事専業」で評価が高く、「看護師等」で低くなっている。

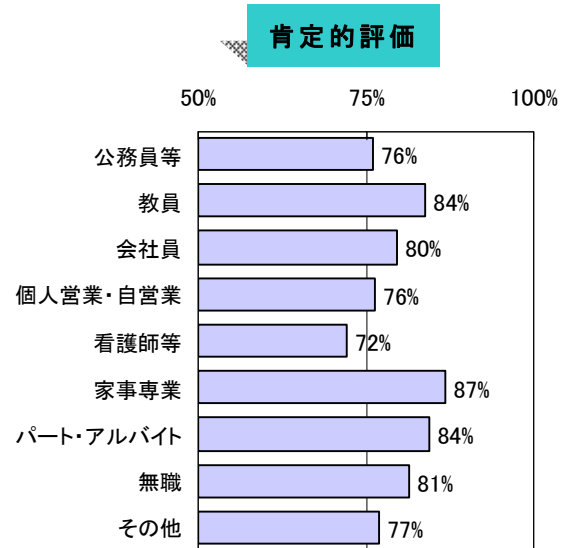
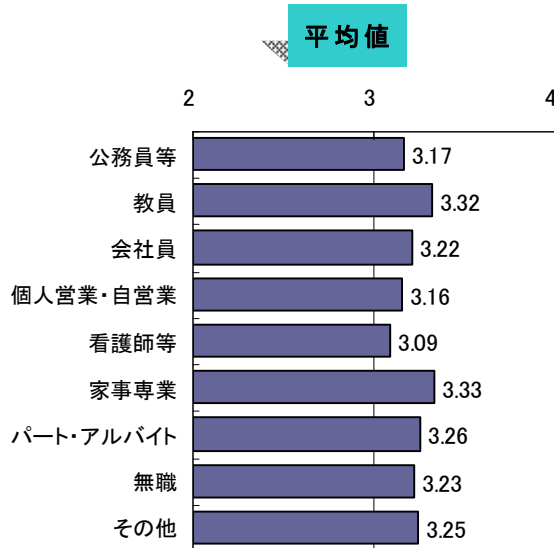
『授業評価に関わる項目平均』は、「教員」「家事専業」で評価が高く、「看護師等」で低くなっている。

図 2 - 5 3 【大学院】項目平均による職業別全体的傾向

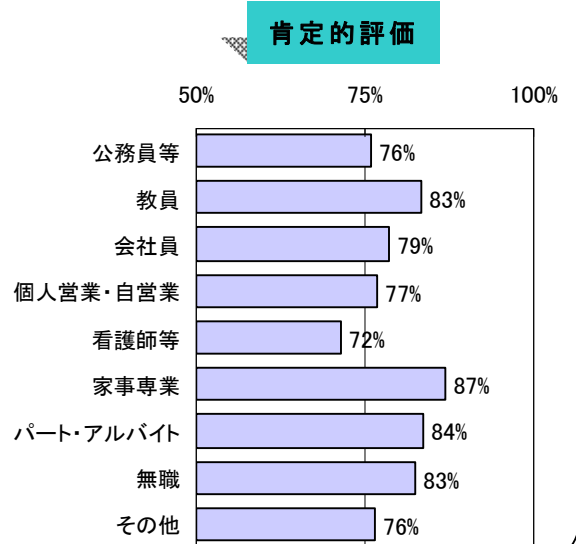
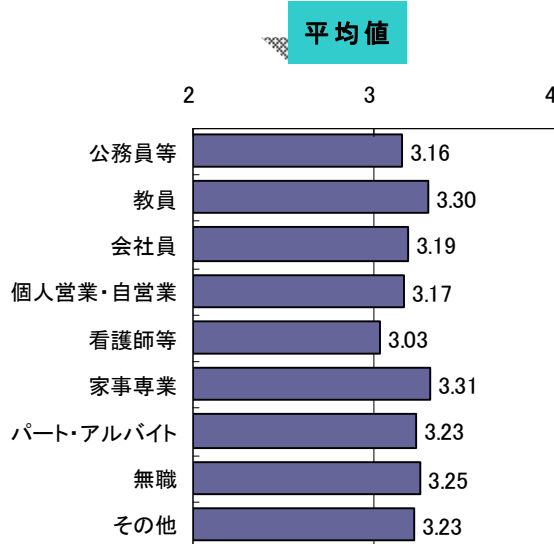
★学習への取組姿勢の項目平均(A-1～A-3)



★授業評価に関わる項目平均(B-1～B-20)



【全項目平均】(A-1～B-20)

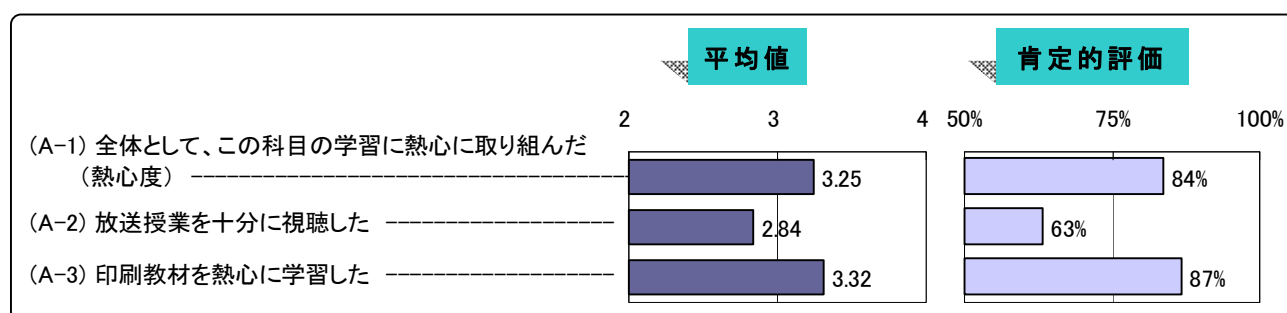


Ⅱ-2-2. 学習への取組姿勢

ここからはそれぞれ評価項目ごとに調査結果を見ていく。

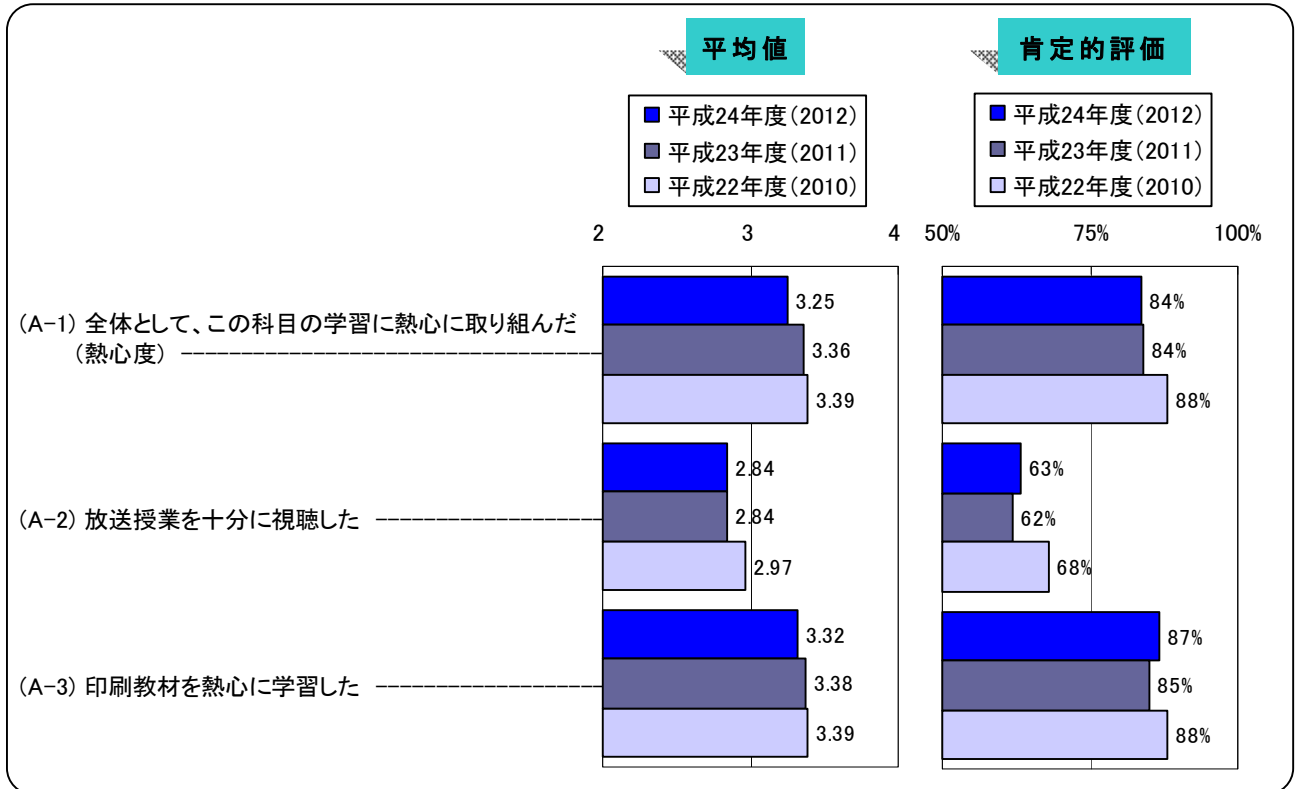
学習への取組姿勢（図2-54）では、『(A-1) 全体としてこの科目の学習に熱心に取り組んだ（熱心度）』は、平均値 3.25、肯定的評価 84%で、熱心に学習されている。同様に『(A-3) 印刷教材を熱心に学習した』も平均値 3.32、肯定的評価 87%と高い。しかしこれらに比べると、『(A-2) 放送授業を十分に視聴した』は、平均値 2.84、肯定的評価 63%と低くなっている。学部と同様、全体としては熱心に学習に取り組んでいるものの、学習は印刷教材が中心となっている。印刷教材に比べ放送授業の視聴度合いがよくないのは、時間的な制約等もあろうが、放送授業そのものの出来栄えも関係していると考えられるので、今後もより改善努力を進めるべきであろう。

図2-54 【大学院】回答者全体の取組姿勢



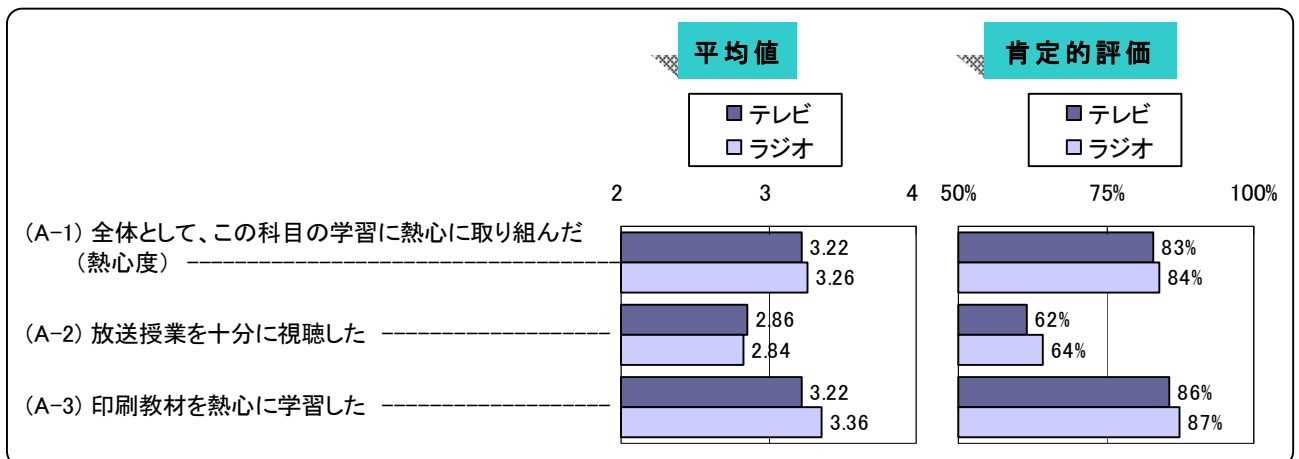
学習への取組姿勢を時系列で見ると（次頁図2-55）、『(A-1) 全体として、この科目の学習に熱心に取り組んだ（熱心度）』『印刷教材を熱心に学習した』の評価が依然高いものの、『(A-2) 放送授業を十分に視聴した』も含め全ての項目でやや減少傾向にある。

図 2 - 5 5 【大学院】回答者全体の取組姿勢（時系列）



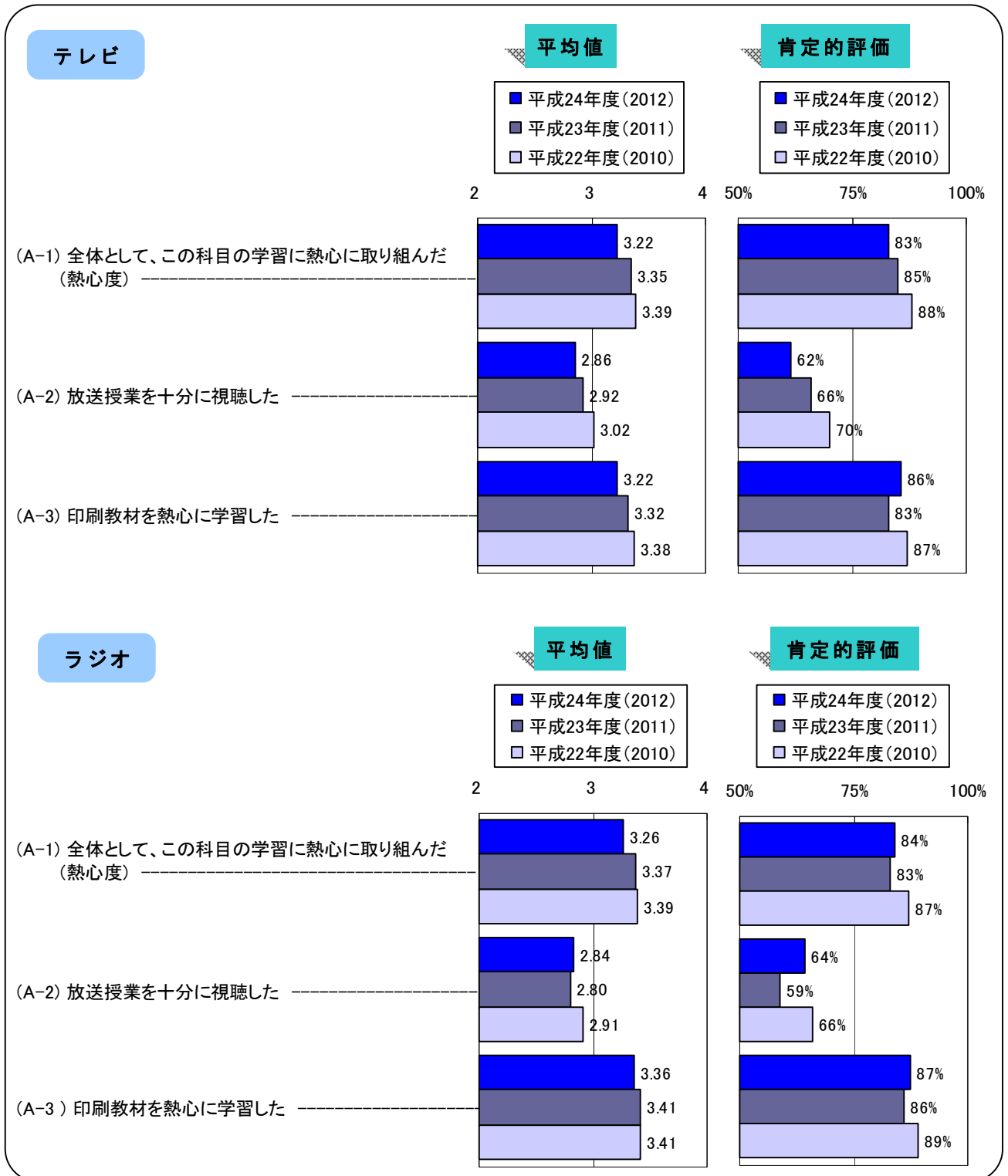
メディア別の取組姿勢を見ると（図 2 - 5 6）、『(A-1) 全体としてこの科目の学習に熱心に取り組んだ（熱心度）』は、ラジオ科目の方がテレビ科目よりやや高いが、『(A-2) 放送授業を十分に視聴した』ではラジオ科目がやや低くなっている。テレビ科目はまずまずの視聴度と言えるが、印刷教材の取組姿勢に比べるとよくない。今後もテレビ科目、ラジオ科目ともに授業の改善等によって、放送授業の視聴を上げていく必要がある。

図 2 - 5 6 【大学院】メディア別の取組姿勢



メディア別の取組姿勢を時系列で見ると（図 2 - 5 7）、全体的にテレビ科目、ラジオ科目とも年々取組姿勢が低くなる傾向にある。2012 年度新規開設科目では 2011 年度新規開設科目に比べ更に下がってしまった。テレビ科目、ラジオ科目とも『(A-1) 全体としてこの科目の学習に熱心に取り組んだ（熱心度）』と『(A-3) 印刷教材を熱心に学習した』は、高いレベルが維持されているが、『(A-2) 放送授業を十分に視聴した』は、不十分なレベルにあると言えよう。

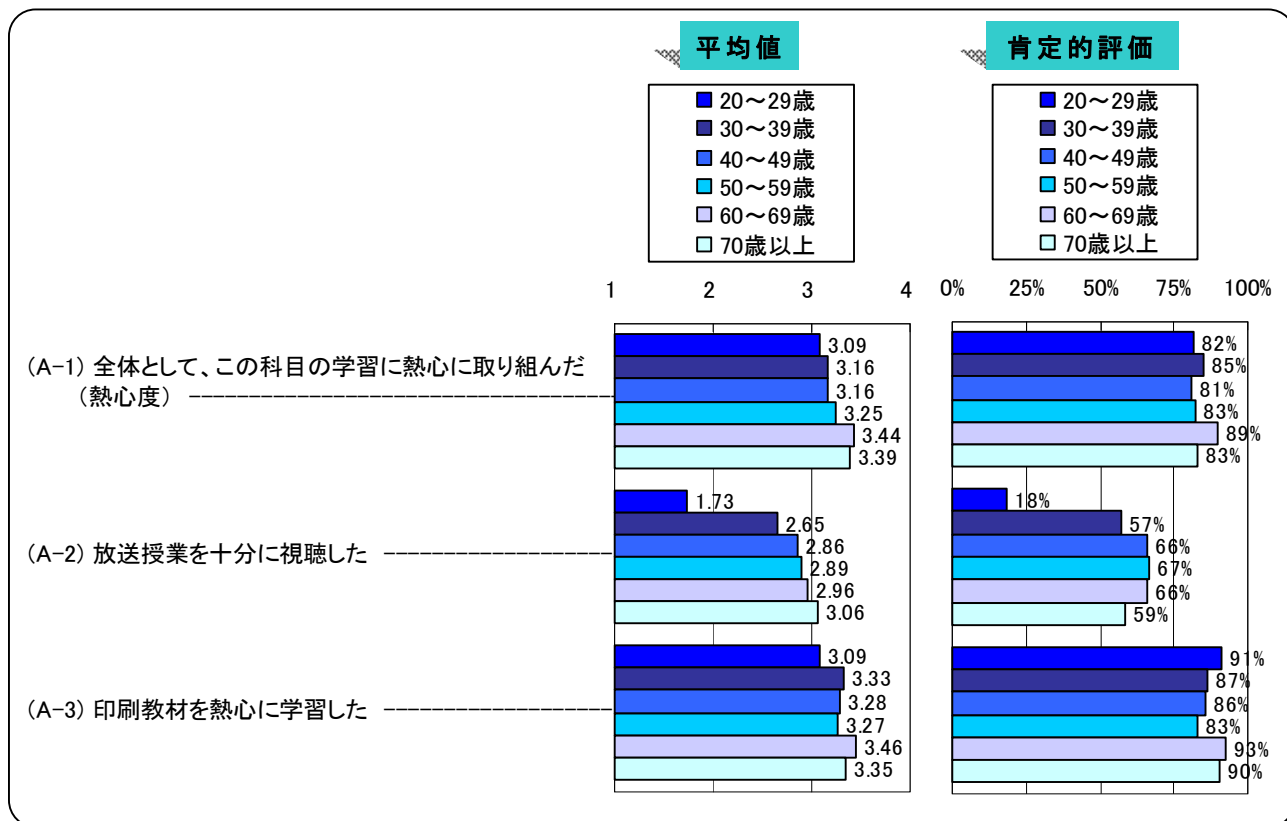
図 2-57 【大学院】メディア別の取組姿勢（時系列）



年齢階層別に取り組姿勢を見ると（図2-58）、『(A-1) 全体としてこの科目の学習に熱心に取り組んだ（熱心度）』では全ての年齢階層で評価が高い。同様に『(A-3)印刷教材を熱心に学習した』が全ての年齢階層で評価が高いが、『(A-2) 放送授業を十分に視聴した』では、20歳代の若年層で特に評価が低い。

また全ての年齢階層で放送授業と印刷教材では印刷教材で熱心に学習していることがわかる。

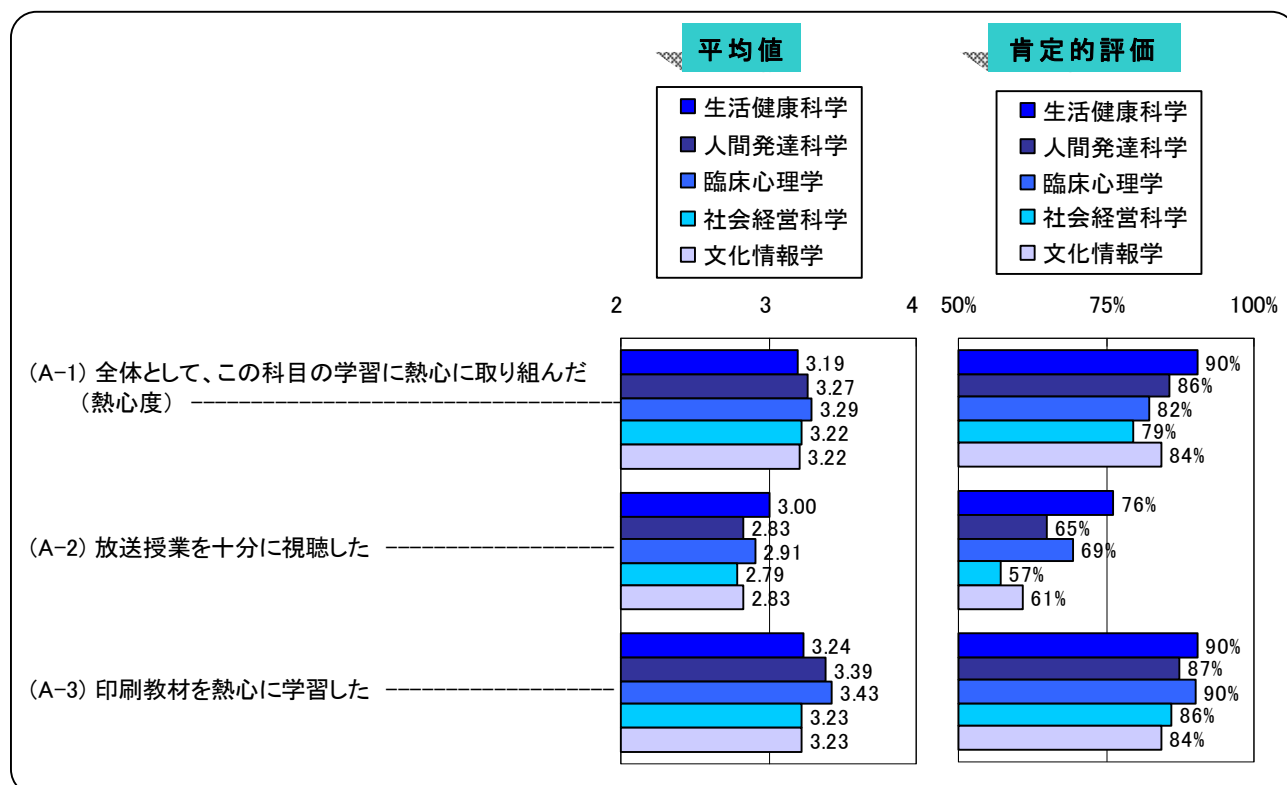
図2-58 【大学院】年齢階層別の取組姿勢



所属プログラム別に取り組姿勢を見ると（図2-59）、『(A-1) 全体としてこの科目の学習に熱心に取り組んだ（熱心度）』では「生活健康科学」「人間発達科学」で肯定的評価が高く、『(A-3) 印刷教材を熱心に学習した』では「生活健康科学」「臨床心理学」等で高い値を示している。

『(A-2) 放送授業を十分に視聴した』では、「生活健康科学」が比較的良好に視聴されているが、全体的に視聴度合いが良くない。

図2-59 【大学院】所属プログラム別の取組姿勢

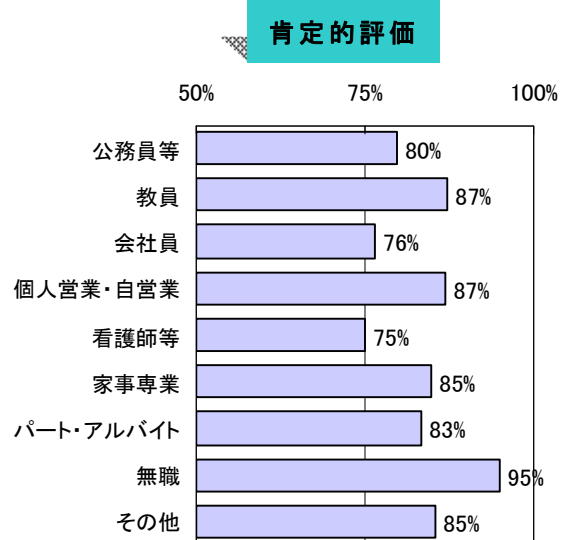
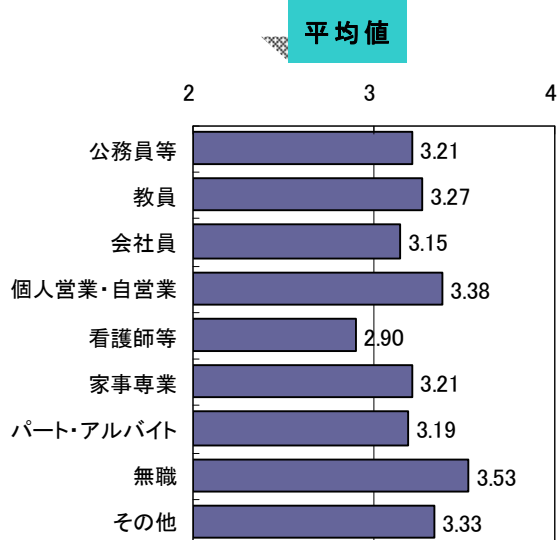


職業別に取り組姿勢を見ると（次頁図2-60）、『(A-1) 全体としてこの科目の学習に熱心に取り組んだ（熱心度）』では「看護師等」を除き全体的に評価が高く、『(A-3) 印刷教材を熱心に学習した』でも「看護師等」を除き、取組姿勢は高い値を示している。

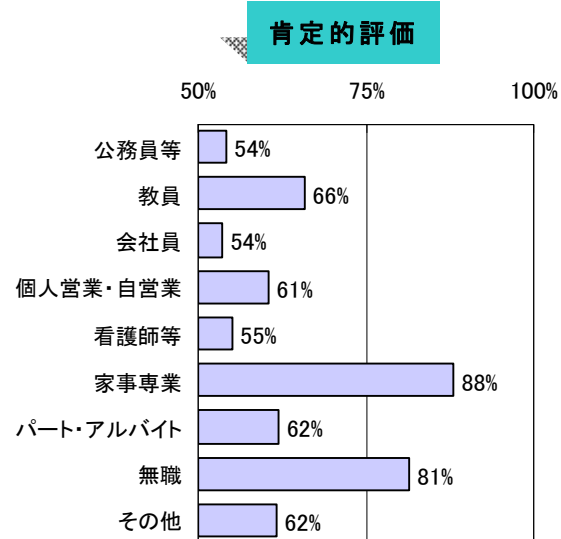
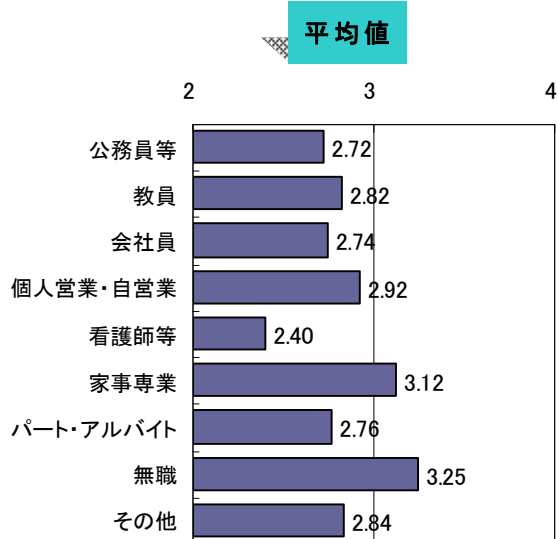
『(A-2) 放送授業を十分に視聴した』では、「無職」「家事専業」で比較的良好に視聴されているが、「看護師等」「公務員等」「会社員」はあまり視聴していない。

図 2 - 6 0 【大学院】職業別の取組姿勢

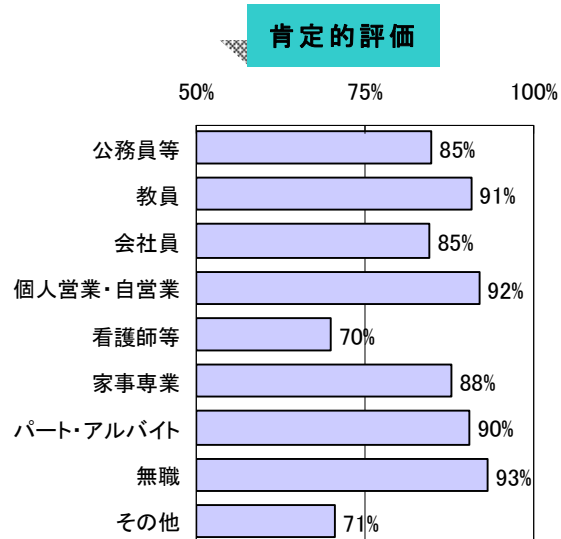
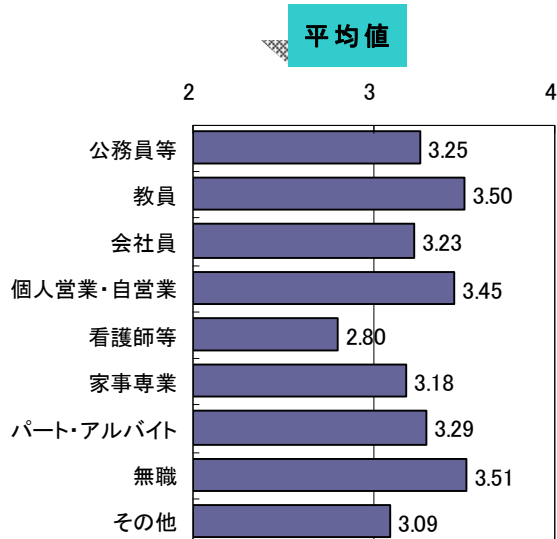
(A-1) 全体として、この科目の学習に熱心に取り組んだ



(A-2) 放送授業を十分に視聴した

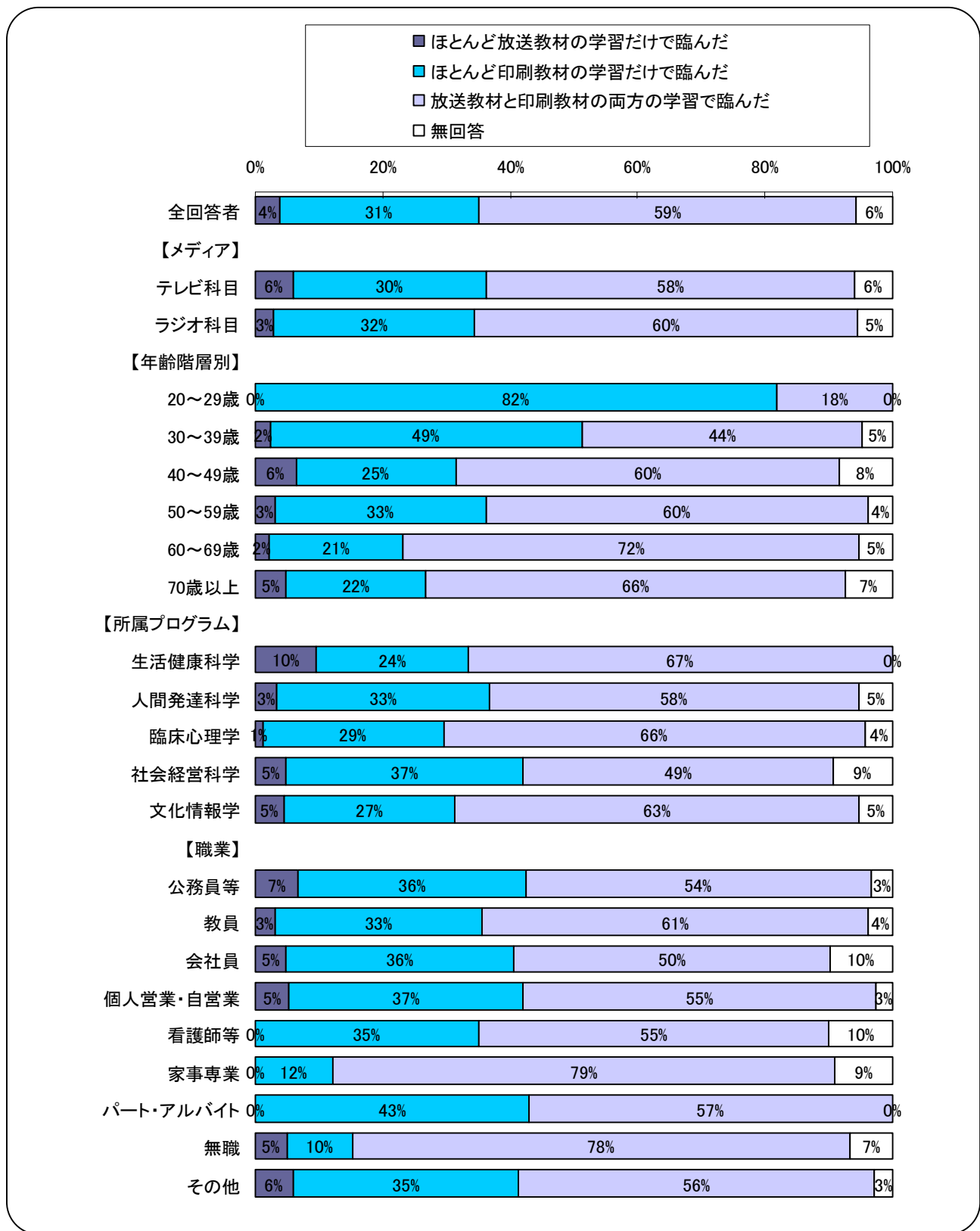


(A-3) 印刷教材を熱心に学習した



単位認定のための学習方法（図2-61）は、全体では「放送教材と印刷教材の両方の学習で臨んだ」が59%と半数以上を占め、「ほとんど印刷教材の学習だけで臨んだ」が31%となっている。「放送教材と印刷教材の両方の学習で臨んだ」が少ないのは、年齢階層別の20歳代、それに職業別では「会社員」である。

図2-61 【大学院】単位認定のための学習方法



Ⅱ－２－３．大学院の授業評価

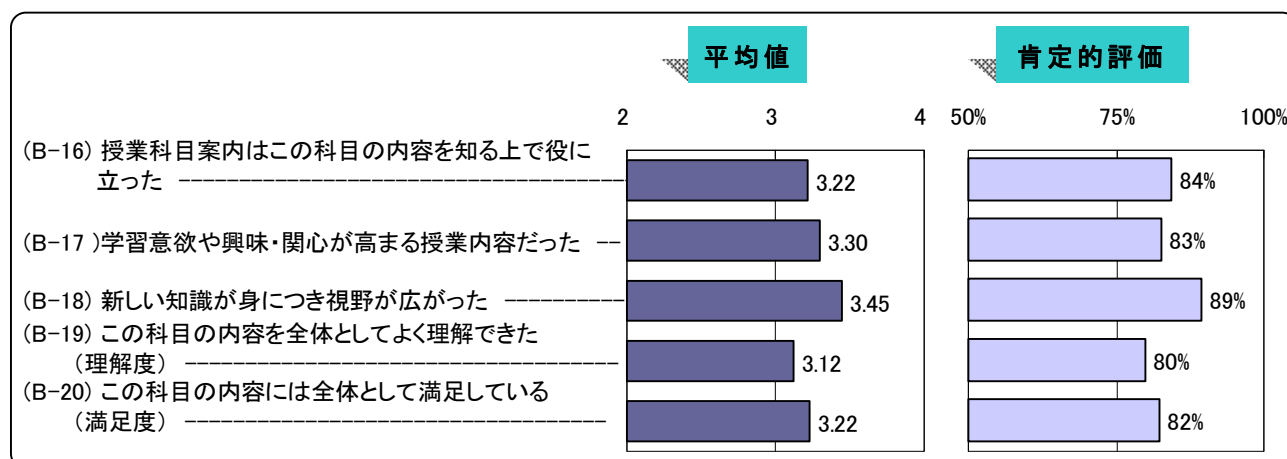
(1) 全体評価

ここからは大学院の授業評価について、評価項目ごとに見ていくこととする。

まず全体評価を見ると（図２－６２）、いずれの項目も高い評価となっている。特に『(B-18) 新しい知識が身につく視野が広がった』は、平均値 3.45、肯定的評価 89%と非常に高くなっている。

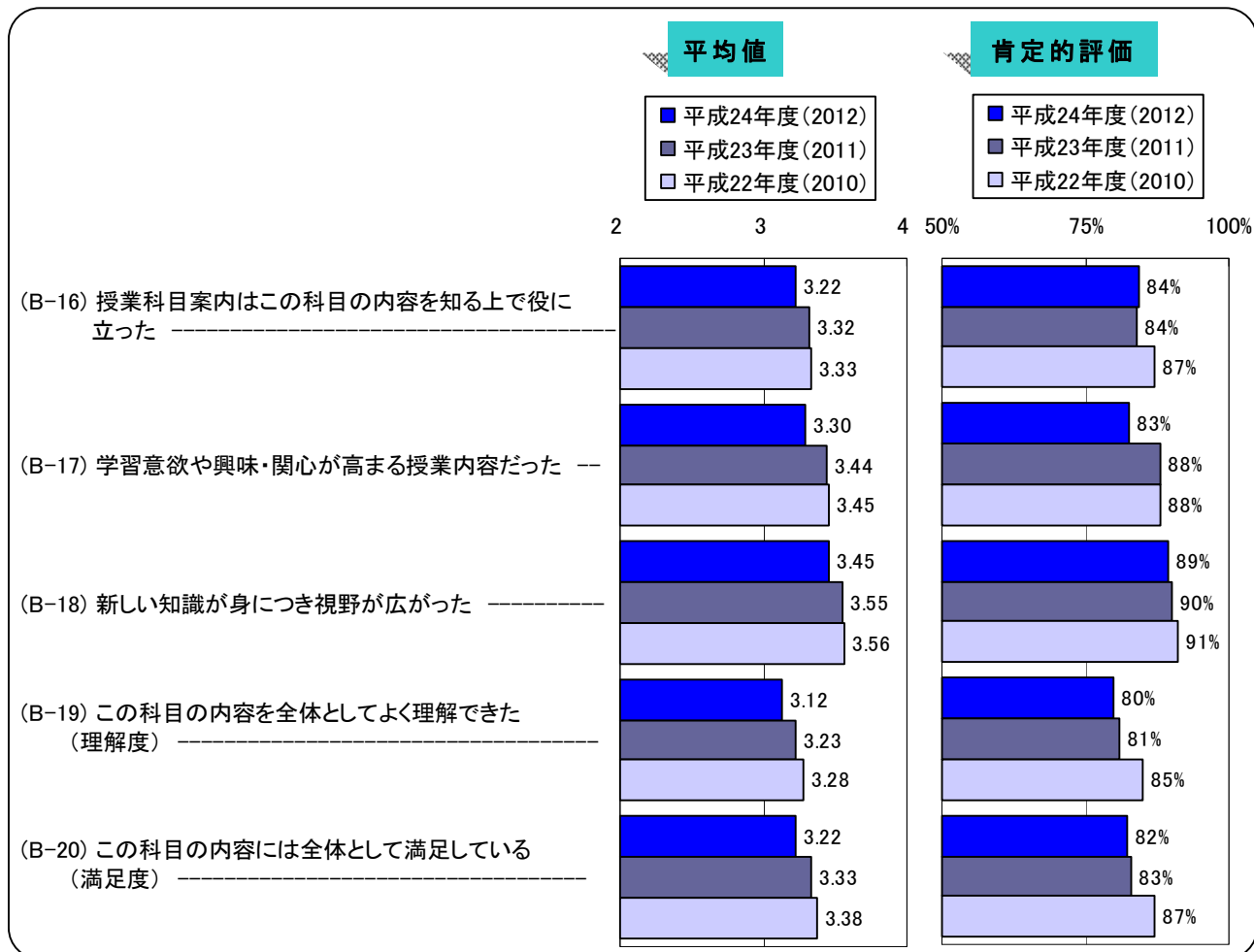
『(B-20) この科目の内容には全体として満足している（満足度）』も平均値 3.22、肯定的評価 82%と高い満足度を示している。ただ『(B-19) この科目の内容を全体としてよく理解できた（理解度）』は、平均値 3.12、肯定的評価 80%と、満足度に比べるとやや低い。

図 2－6 2 【大学院】回答者全体の全体評価



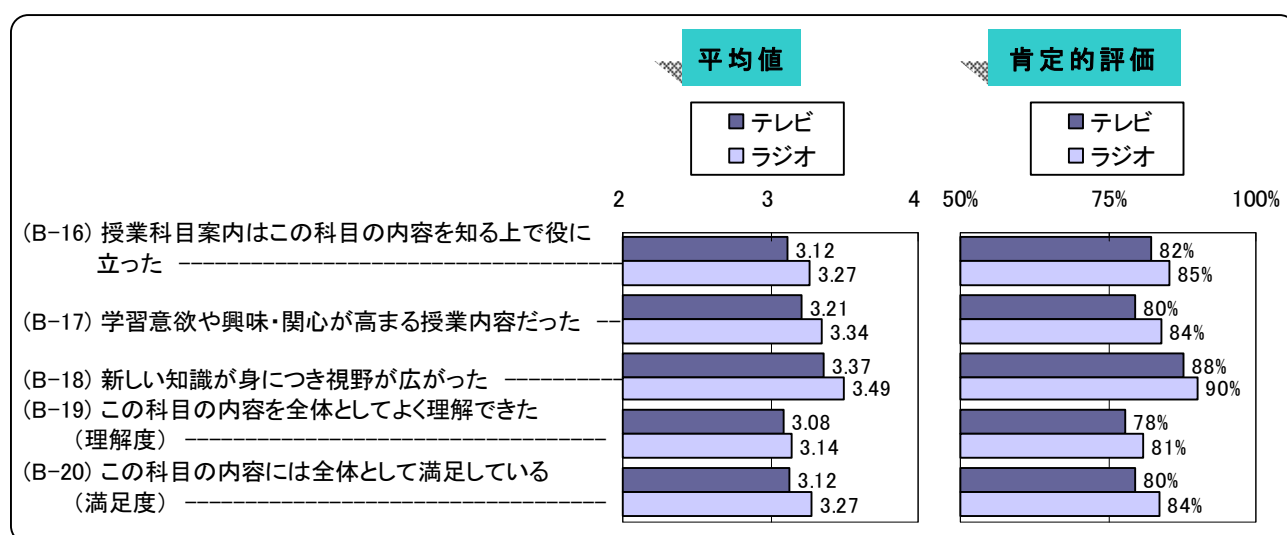
全体評価を時系列で見ると（図2-63）、いずれの項目も評価は高い値を維持しているがやや減少傾向にある。

図2-63 【大学院】回答者全体の全体評価（時系列）



メディア別に全体評価を見ると（図2-64）、『(B-19)この科目の内容を全体としてよく理解できた(理解度)』がやや低いながらも全体的に評価は高い。特に『(B-18)新しい知識が身につく視野が広がった』のラジオ科目では平均値3.49、肯定的評価90%と非常に高い。

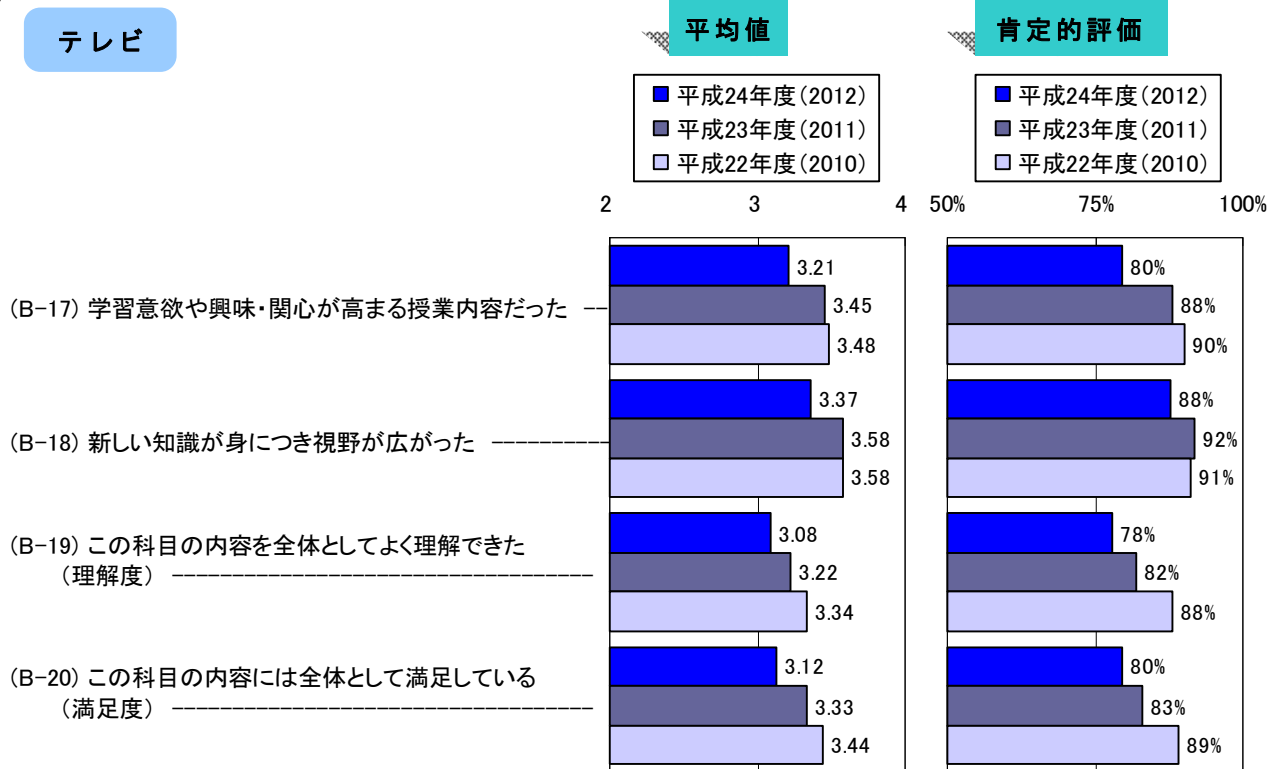
図2-64 【大学院】メディア別の全体評価



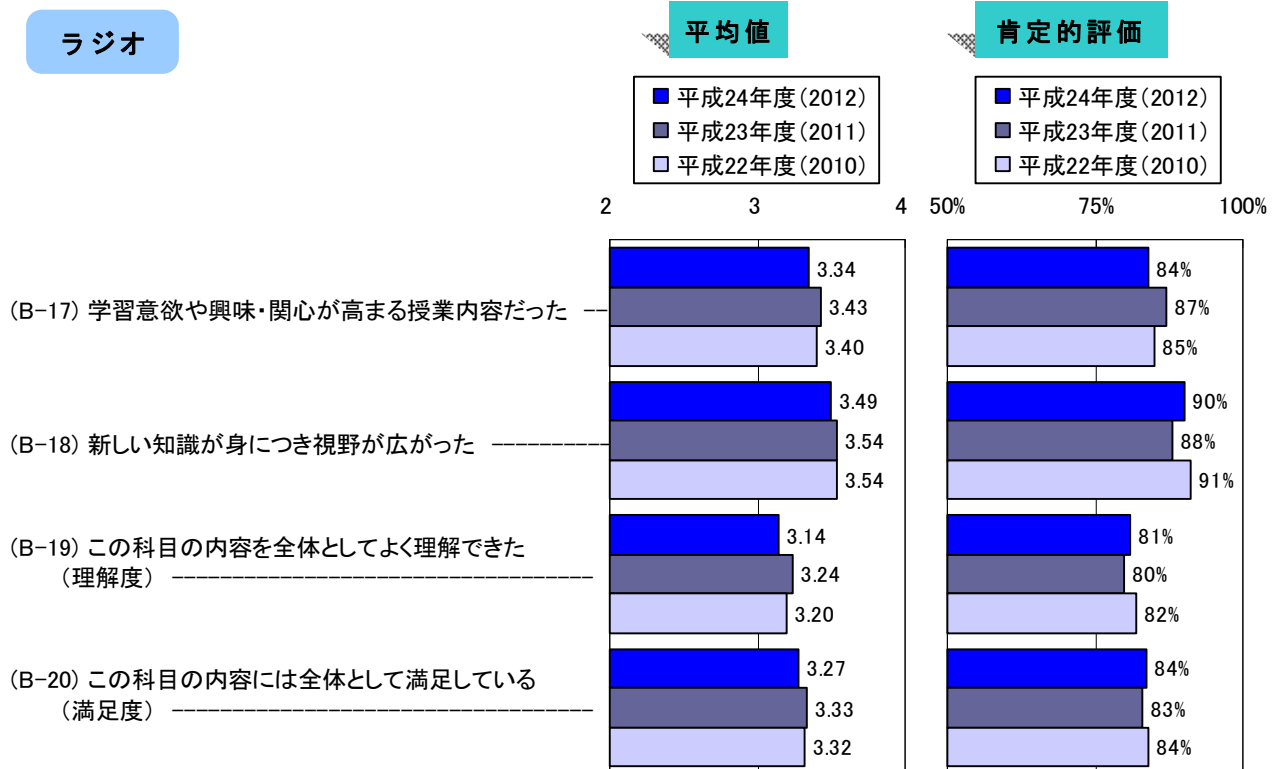
メディア別の全体評価を時系列で見ると（次頁図2-65）、テレビ科目は、いずれの項目も2011年新規開設科目に比べ2012年新規開設科目では減少しているが全体的には高い評価を維持している。ラジオ科目は、2011年新規開設科目に比べ2012年新規開設科目では肯定的評価で『(B-17)学習意欲や興味・関心が高まる授業内容だった』がやや減少したものの、全体的にはやや増加傾向にある。

図 2-65 【大学院】メディア別の全体評価（時系列）

テレビ



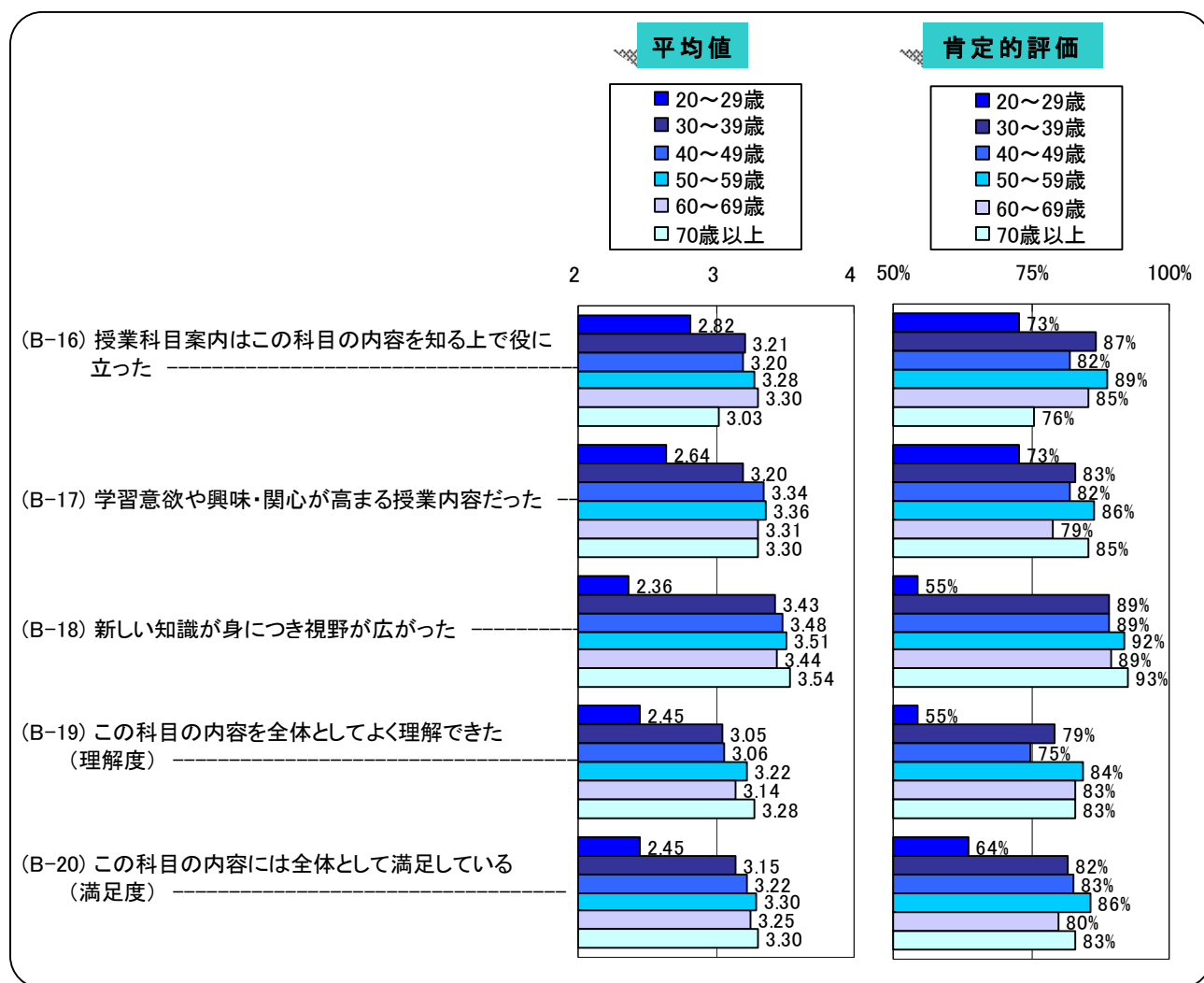
ラジオ



年齢階層別に全体評価を見ると（図2-66）、20歳代を除き評価が高いことがわかる。

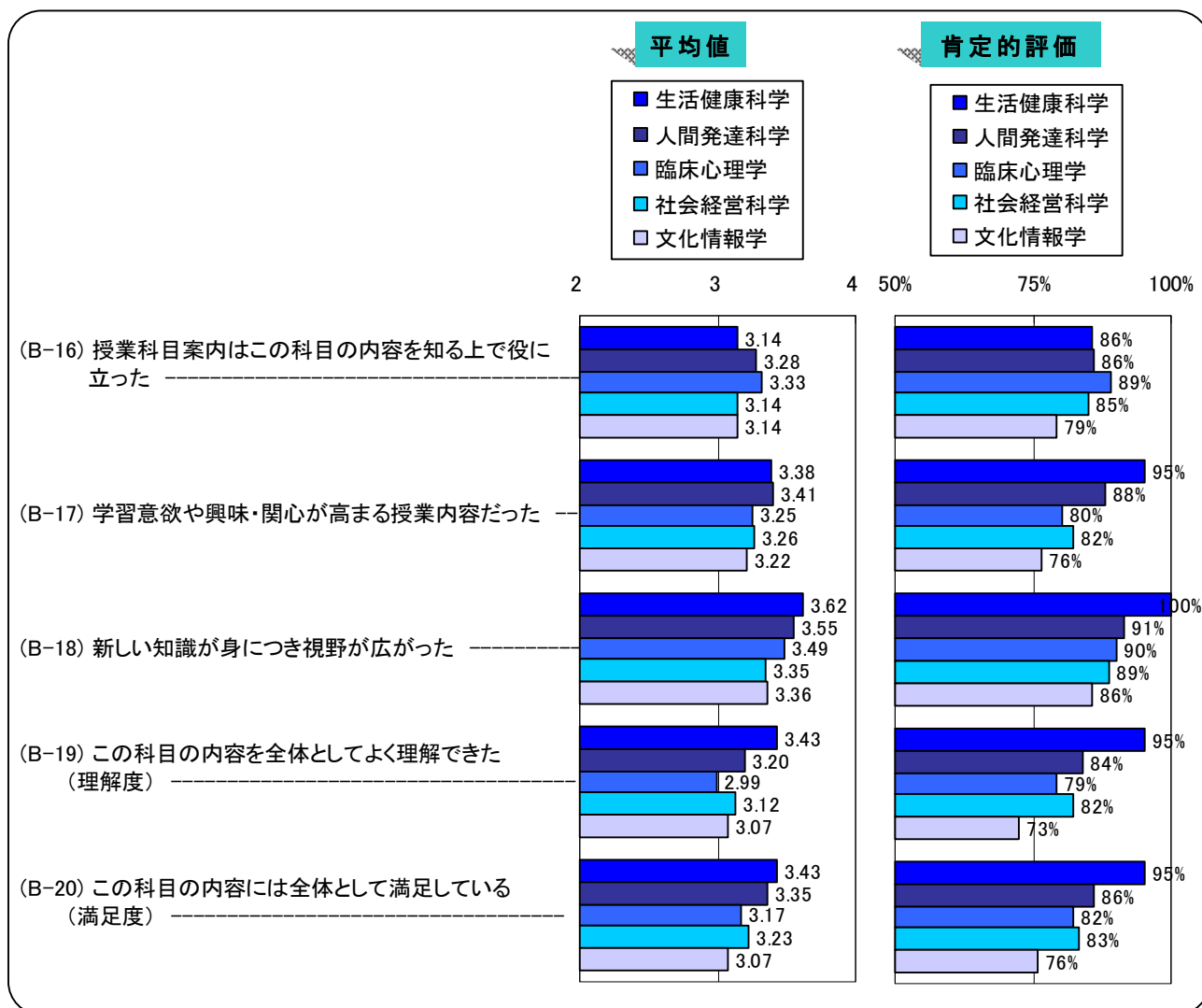
『(B-19)この科目の内容を全体としてよく理解できた(理解度)』『(B-20)この科目の内容には全体として満足している(満足度)』では50歳代から70歳代以上までの評価がやや高い。『(B-17)学習意欲や興味・関心が高まる授業内容だった』『(B-18)新しい知識が身に付き視野が広がった』では20歳代を除き、幅広い年齢階層でかなり高い評価となっている。

図2-66 【大学院】年齢階層別の全体評価



所属プログラム別に全体評価を見ると（図2-67）、『(B-17) 学習意欲や興味・関心が高まる授業内容だった』『(B-18) 新しい知識が身につき視野が広がった』は、どのプログラムでも評価が非常に高く、『(B-19) この科目の内容を全体としてよく理解できた（理解度）』『(B-20) この科目の内容には全体として満足している（満足度）』は、「生活健康科学」の評価が高く、「文化情報学」と「臨床心理学」の評価が他のプログラムより低くなっている。

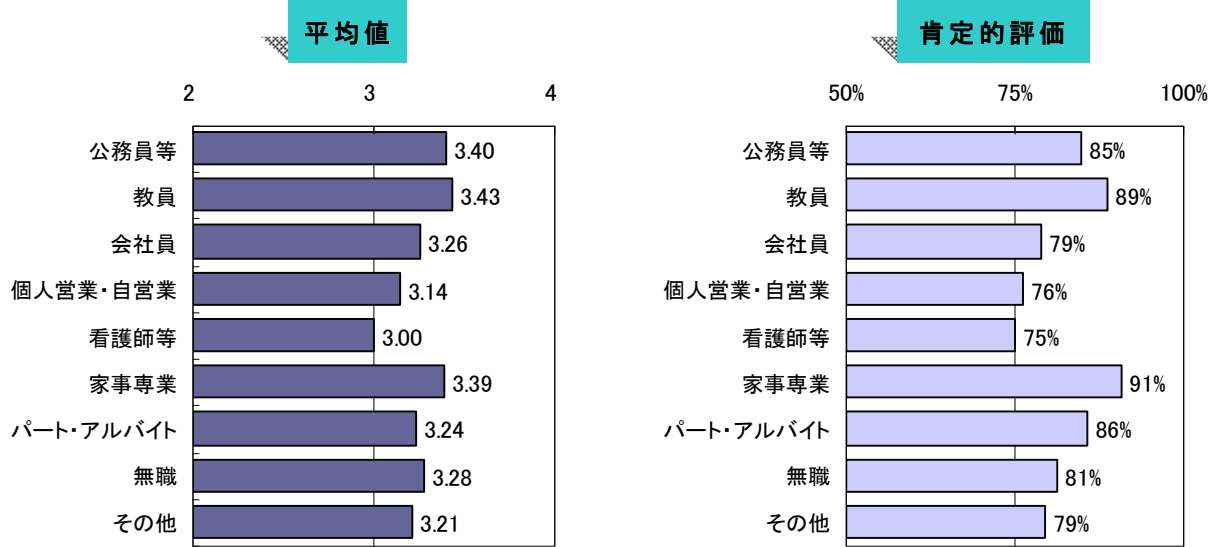
図2-67 【大学院】所属プログラム別の全体評価



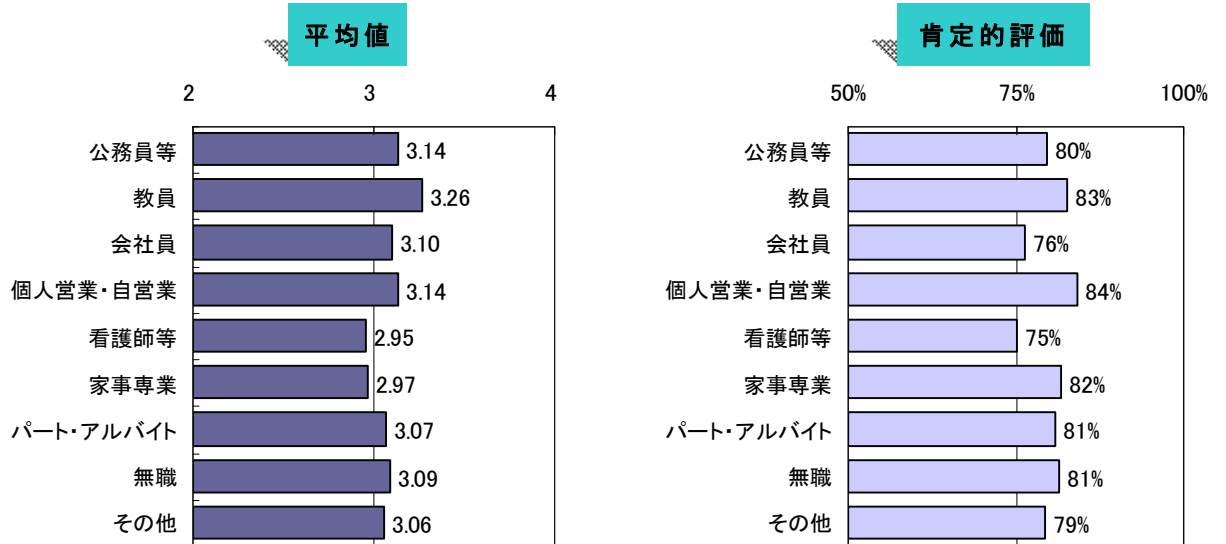
職業別に全体評価を見ると（次頁図2-68）、『(B-17) 学習意欲や興味・関心が高まる授業内容だった』は「看護師等」がやや低く、その他の職業では高い評価となっている、『(B-19) この科目の内容を全体としてよく理解できた（理解度）』では「看護師等」「家事専業」が他の職業に比べ低く、『(B-20) この科目の内容には全体として満足している（満足度）』においては「看護師等」の評価が他の職業に比べて評価が低い。

図 2 - 6 8 【大学院】職業別の全体評価

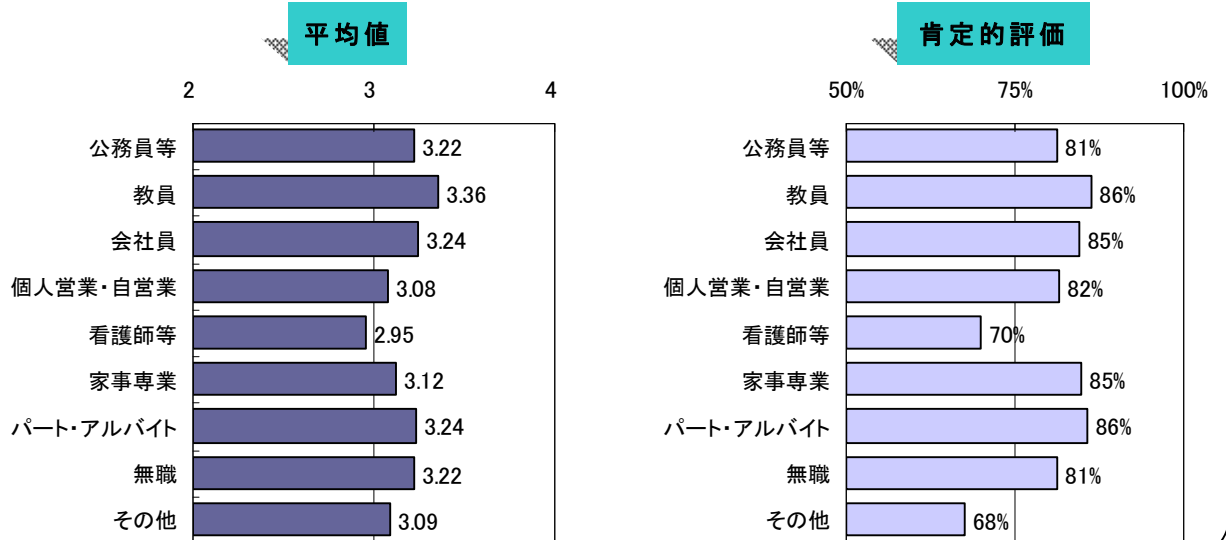
(B-17) 学習意欲や興味・関心が高まる授業内容だった



(B-19) この科目の内容を全体としてよく理解できた(理解度)



(B-20) この科目の内容には全体として満足している(満足度)

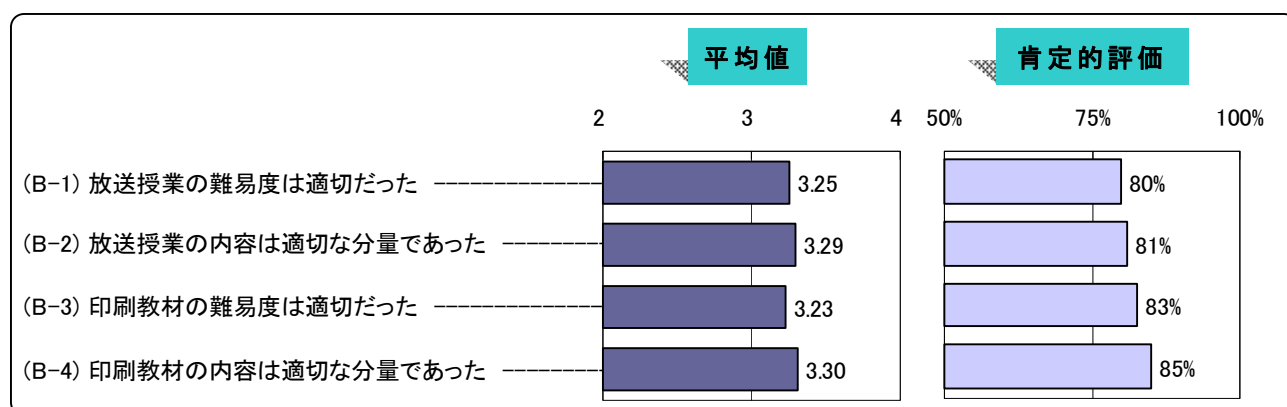


(2) 授業の難易度・分量

次に授業の難易度・分量について、評価項目ごとに見ていく。

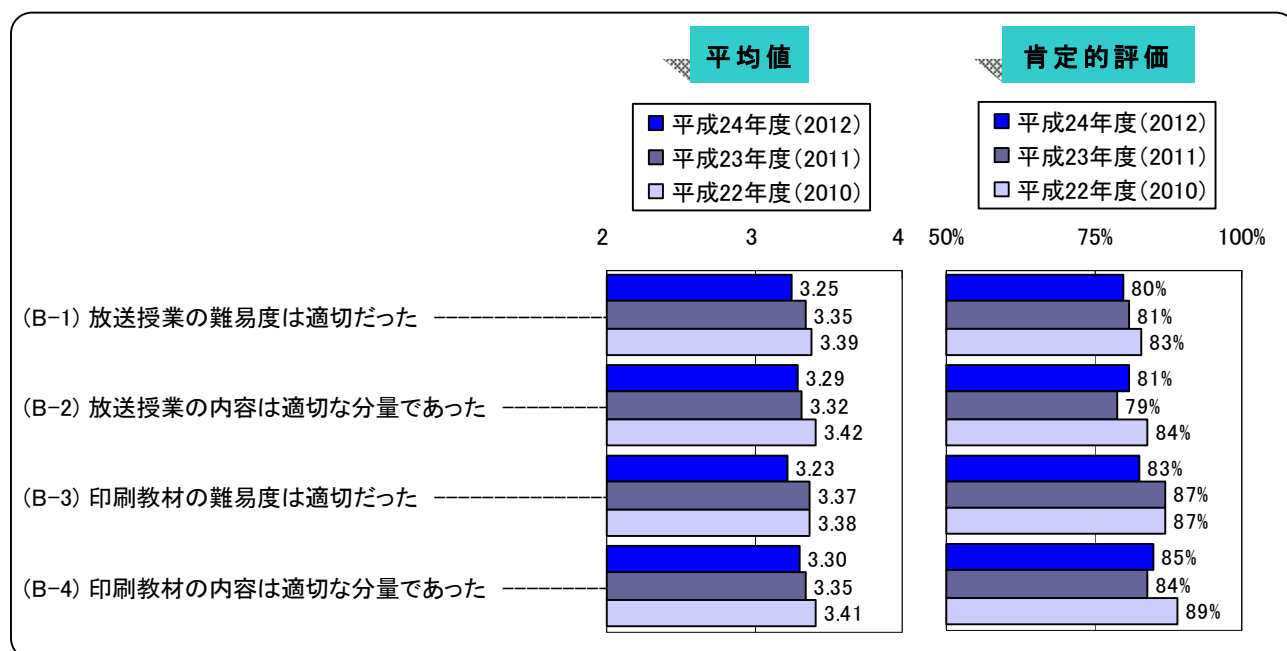
授業の難易度・分量の評価は(図2-69)、いずれも高い評価となっている。ただし、印刷教材に比べ、放送授業は肯定的評価において難易度・分量ともやや低く、改善が求められる。

図2-69 【大学院】回答者全体の授業難易度・分量の評価



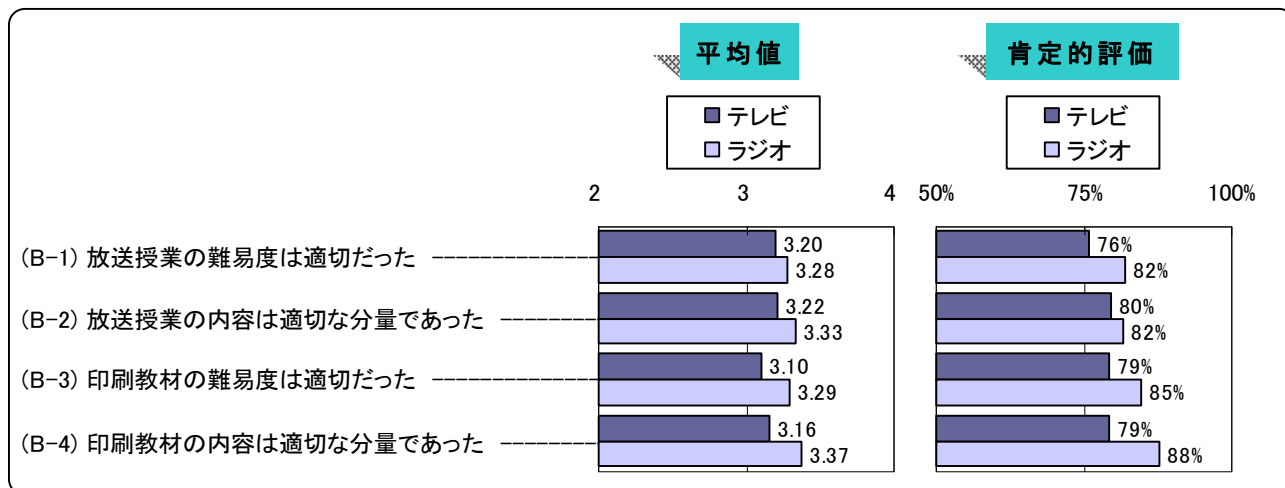
授業の難易度・分量の評価を開設年度で比較すると(図2-70)、放送授業、印刷教材とも難易度・分量に関して評価がやや減少している。

図2-70 【大学院】回答者全体の授業難易度・分量の評価(開設年度比較)



メディア別に授業の難易度・分量を見ると（図2-71）、全体的にラジオ科目に比べてテレビ科目の評価が低くなっている。

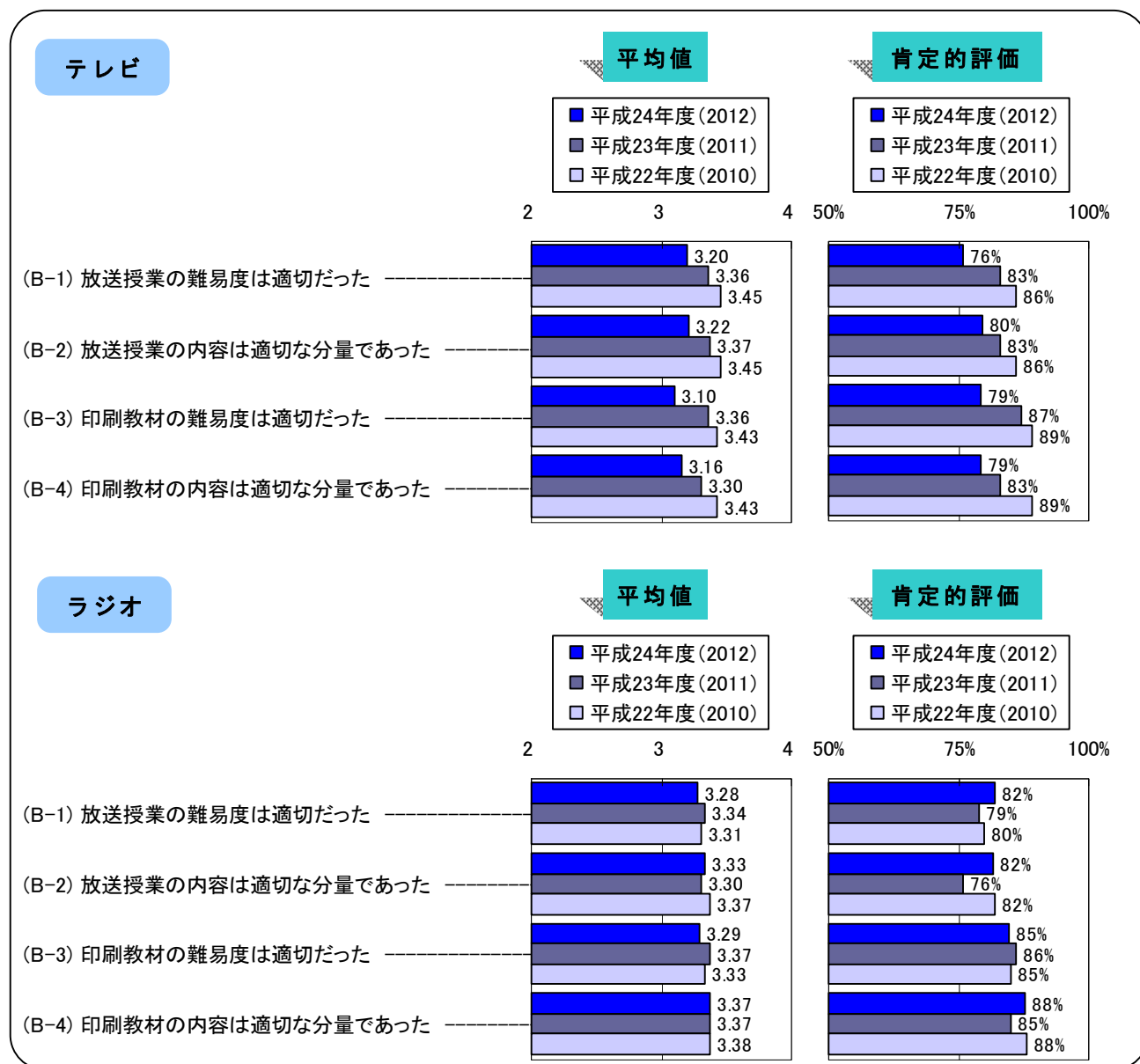
図2-71 【大学院】メディア別の授業難易度・分量の評価



メディア別の授業の難易度・分量を開設年度で比較すると（図2-72）、テレビ科目は、平均値・肯定的評価のいずれも評価が減少している。

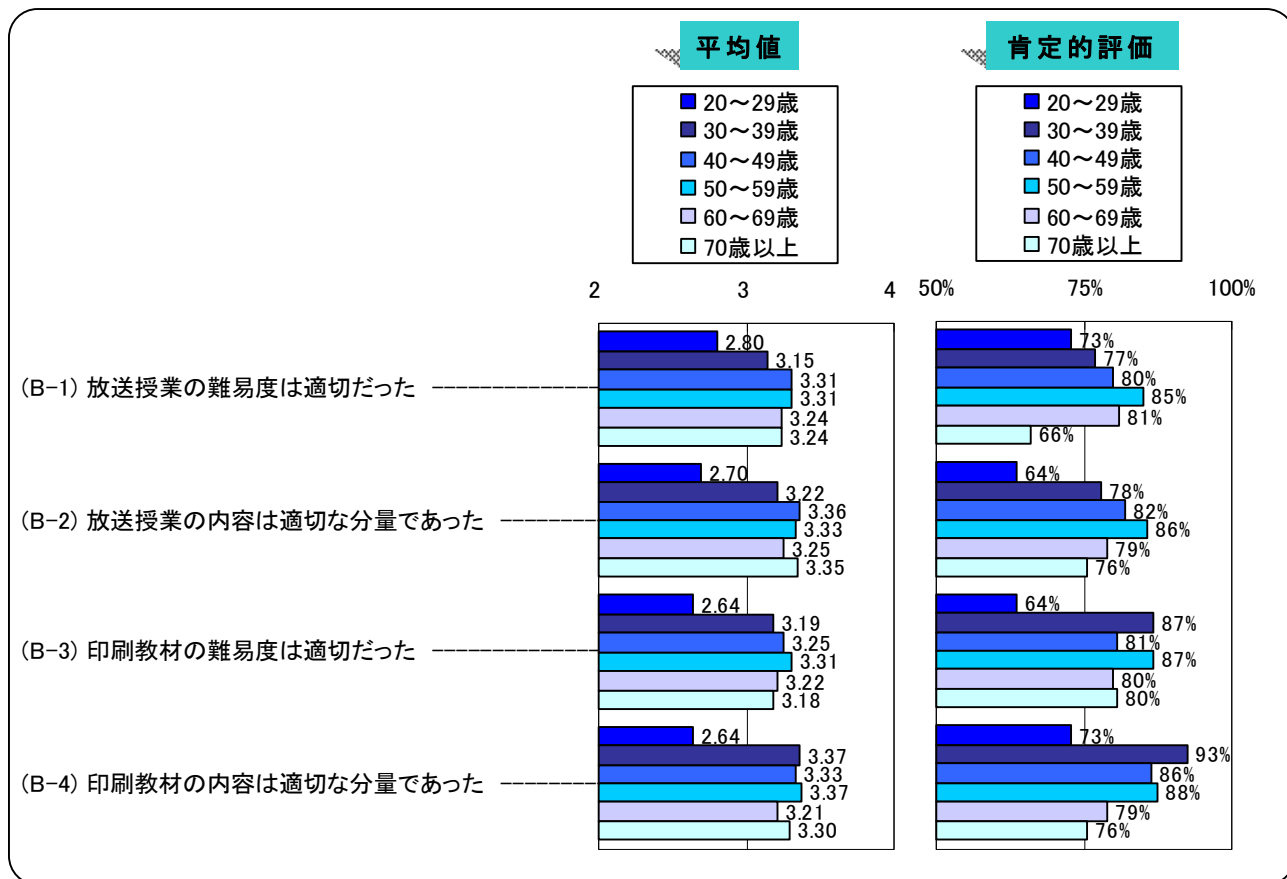
ラジオ科目は、『(B-2)放送授業の内容は適切な分量であった』でやや向上がみられるものの全体的には評価が減少している。

図2-72 【大学院】メディア別の授業難易度・分量の評価（開設年度比較）



年齢階層別に授業の難易度・分量を見ると（図2-73）、放送授業、印刷教材ともに20歳代の評価が他の年齢階層に比べて低い。

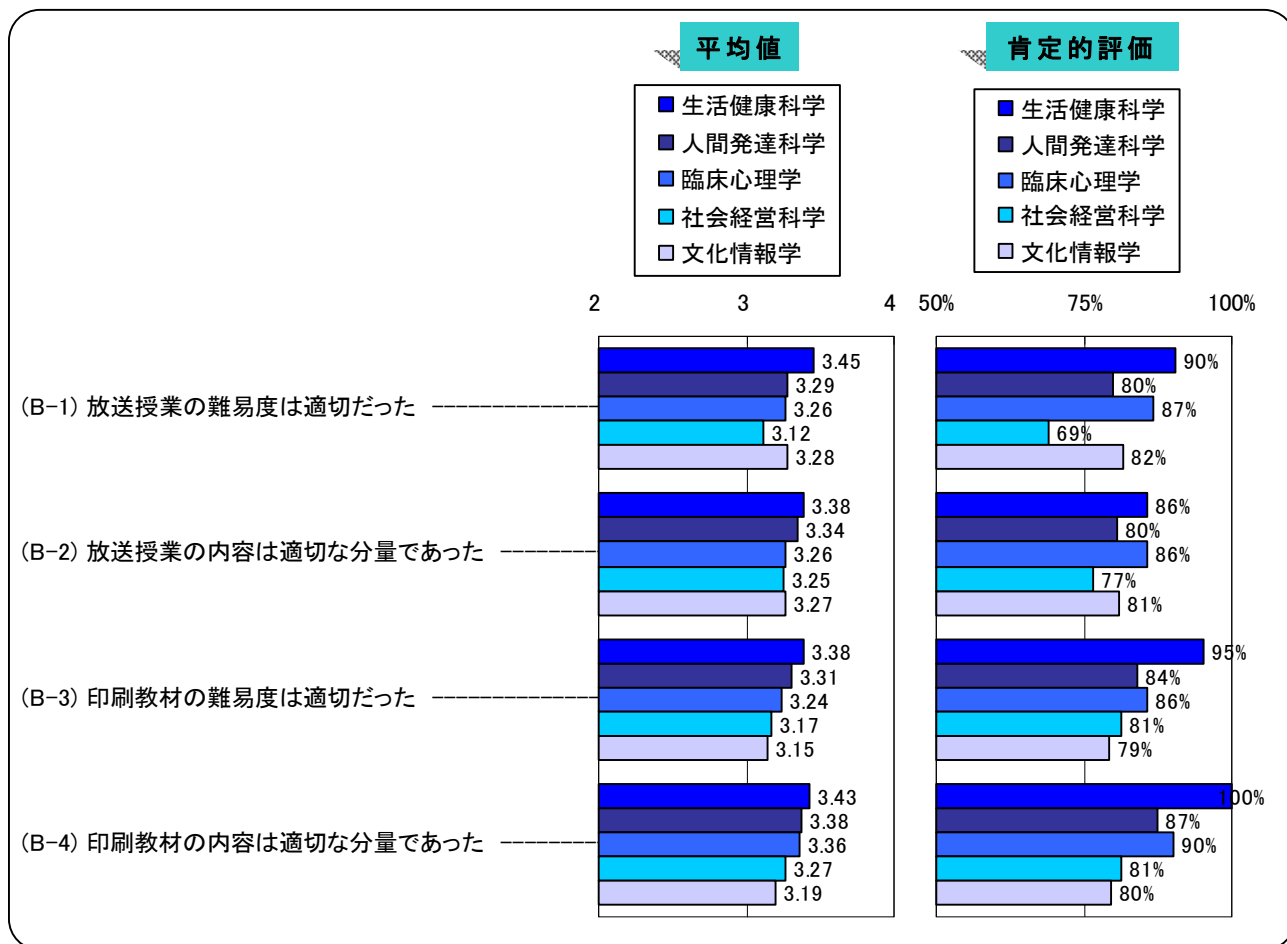
図2-73 【大学院】年齢階層別の授業難易度・分量の評価



所属プログラム別に授業の難易度・分量を見ると（図 2-74）、いずれも「生活健康科学」と「人間発達科学」の評価が高い。

放送授業では「社会経営科学」の評価が低く、印刷教材では「文化情報学」の評価が低い。

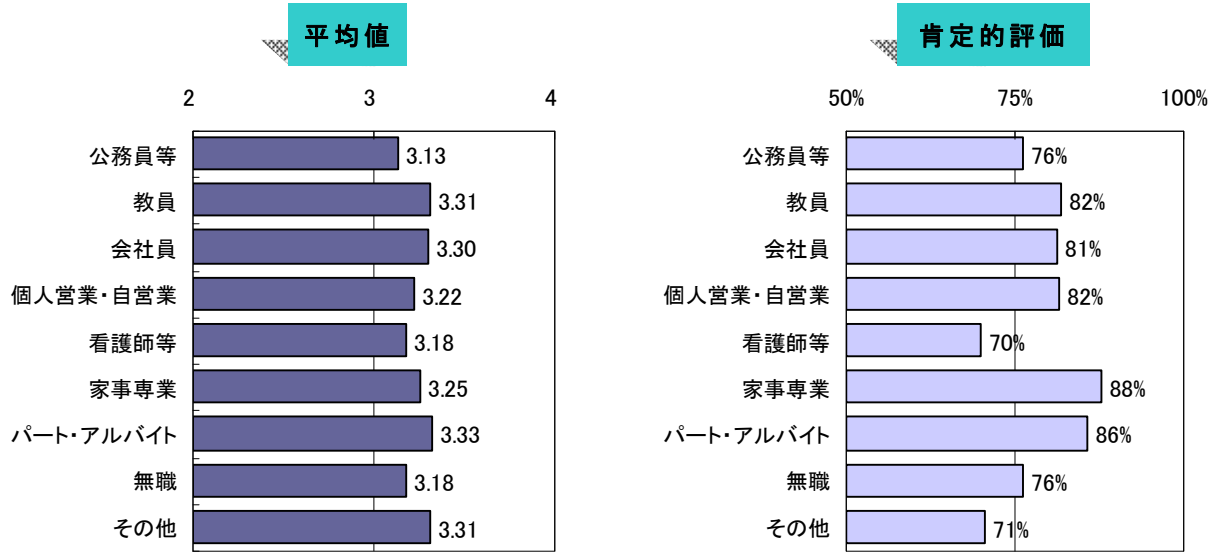
図 2-74 【大学院】所属プログラム別の授業難易度・分量の評価



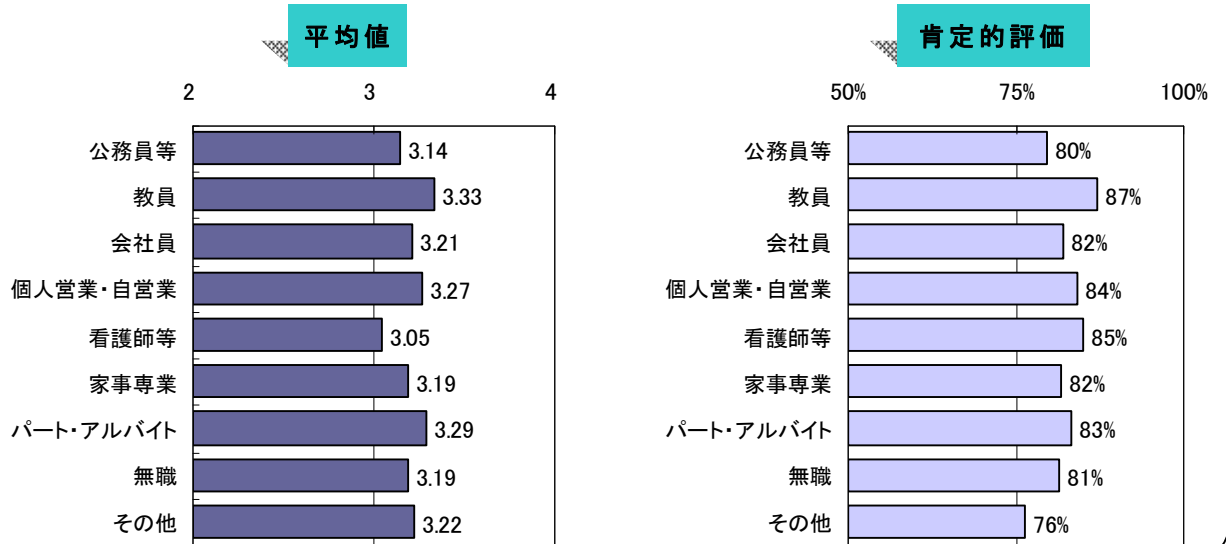
職業別に授業の難易度を見ると（次頁図 2-75）、他の職業に比べて「看護師等」「公務員等」で放送授業、印刷教材ともに難易度の評価が低くなっている。

図 2 - 7 5 【大学院】職業別の授業難易度の評価

(B-1) 放送授業の難易度は適切だった



(B-3) 印刷教材の難易度は適切だった

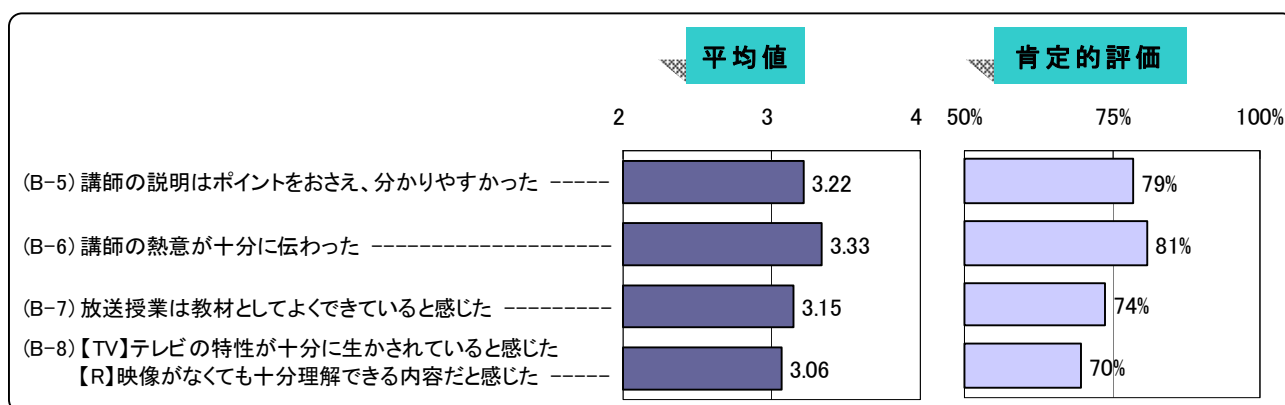


(3) 放送授業

ここからは放送授業について、評価項目ごとに見ていく。

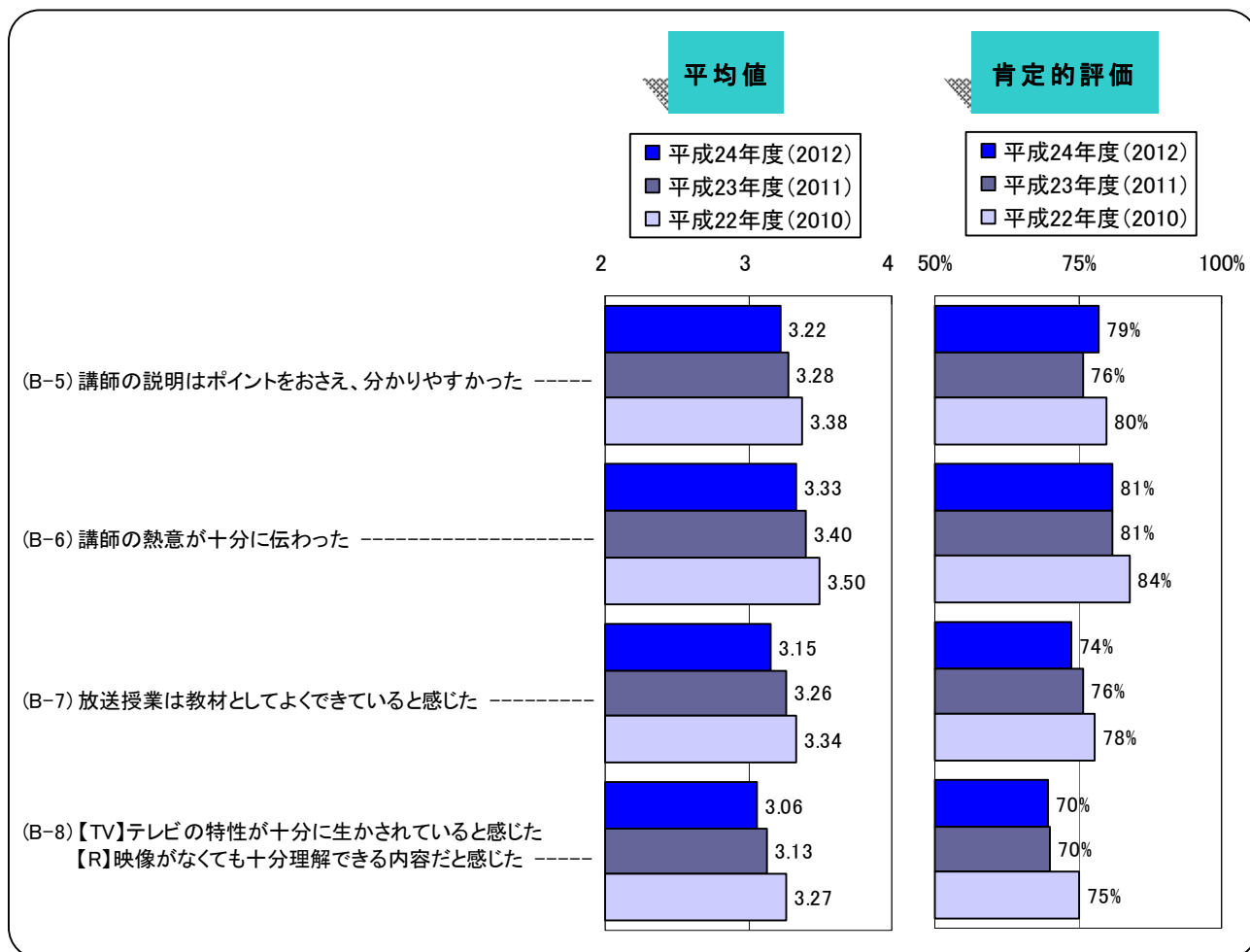
放送授業に関する評価項目を見ると（図2-76）、放送授業の総合評価でもある『(B-7) 放送授業は教材としてよくできていると感じた』は、平均値 3.15、肯定的評価 74%と比較的高くなっている。また『(B-6) 講師の熱意が十分に伝わった』が最も評価が高く、平均値 3.33、肯定的評価 81%となっており、『(B-5) 講師の説明はポイントをおさえ、分かりやすかった』も平均値 3.22、肯定的評価 79%とやや高くなっている。一方、『(B-8) 【TV】テレビの特性が十分に生かされていると感じた／【R】映像がなくても十分理解できる内容だと感じた』は、平均値 3.06、肯定的評価 70%に留まっている。

図2-76 【大学院】回答者全体の放送授業の評価



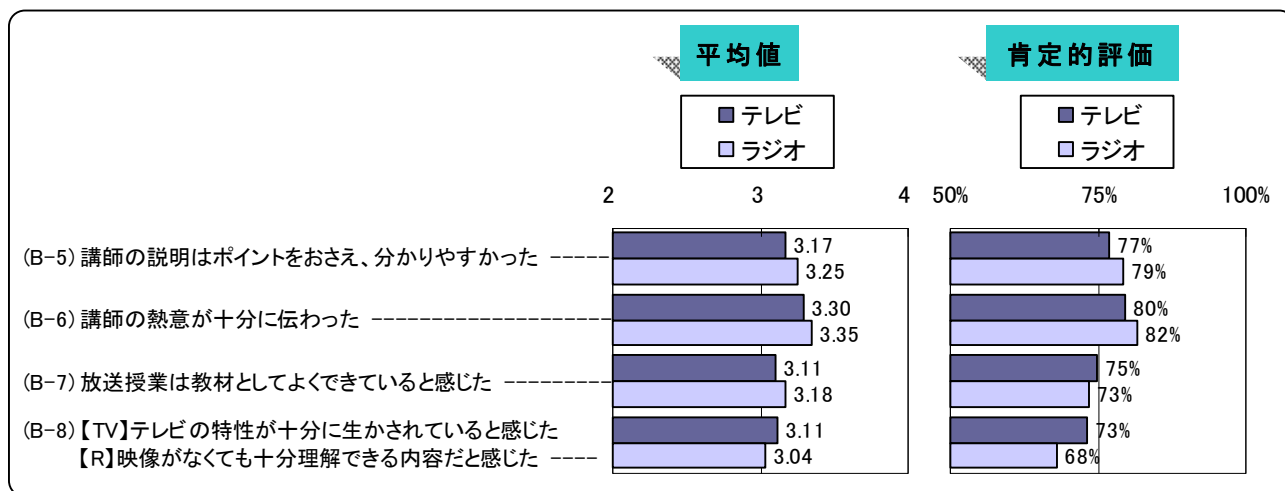
放送授業の評価を時系列で見ると（図2-77）、今年度の調査では全ての項目で評価が下がっている。また、肯定的評価も『(B-5)講師の説明はポイントをおさえ、分かりやすかった』を除き減少傾向にある。

図2-77 【大学院】回答者全体の放送授業の評価（時系列）



メディア別に放送授業の評価を見ると（図2-78）、テレビ科目、ラジオ科目ともに、『(B-5) 講師の説明はポイントをおさえ、分かりやすかった』、『(B-6) 講師の熱意が十分に伝わった』と高い評価を得ているものの、ラジオ科目はテレビ科目に比べ、『(B-8) 【R】映像がなくても十分理解できる内容だと感じた』の評価が低く、ラジオ科目の改善ポイントと言える。

図2-78 【大学院】メディア別の放送授業の評価



メディア別の放送授業の評価を時系列で見ると（次頁図2-79）、テレビ科目は全体的に減少傾向にある。

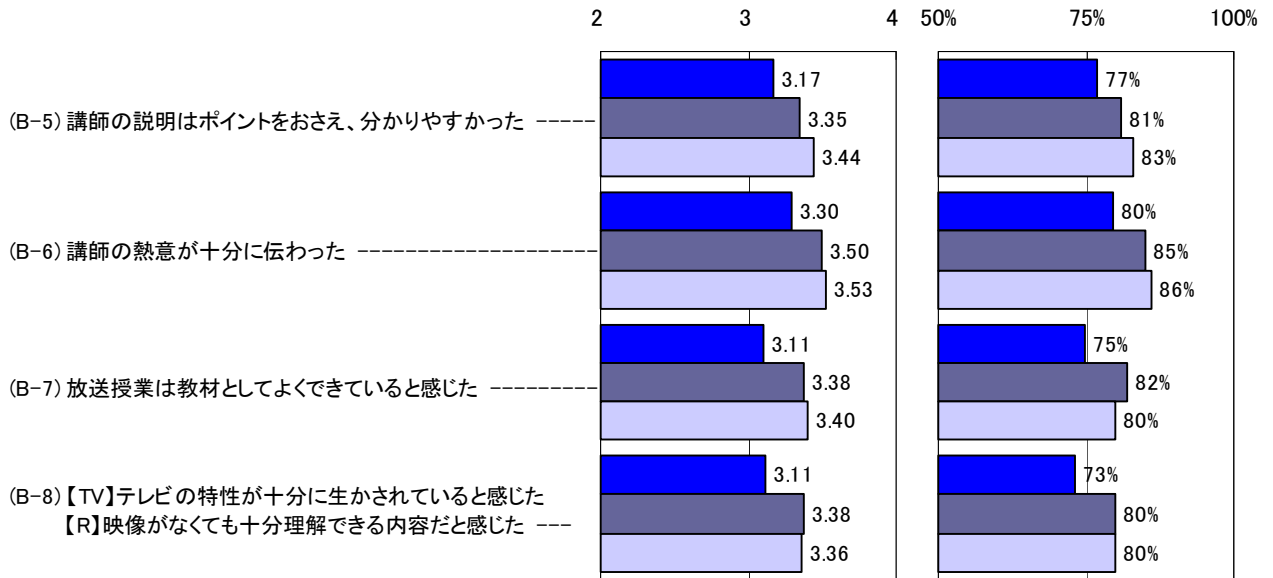
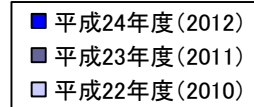
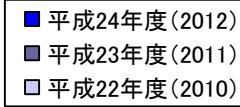
ラジオ科目については、平均値は横ばい状態にあるが、肯定的評価が全体的に増加したことがわかる。

図 2-79 【大学院】メディア別の放送授業の評価（時系列）

テレビ

平均値

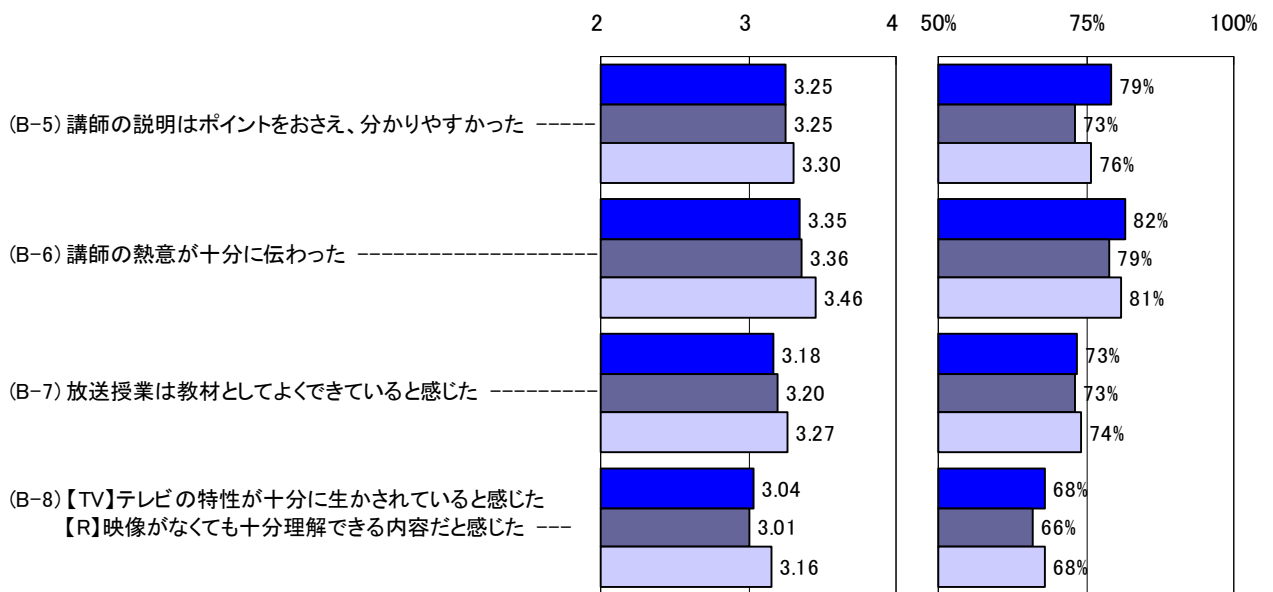
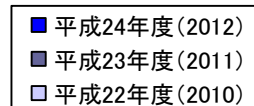
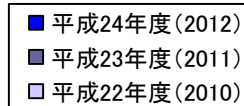
肯定的評価



ラジオ

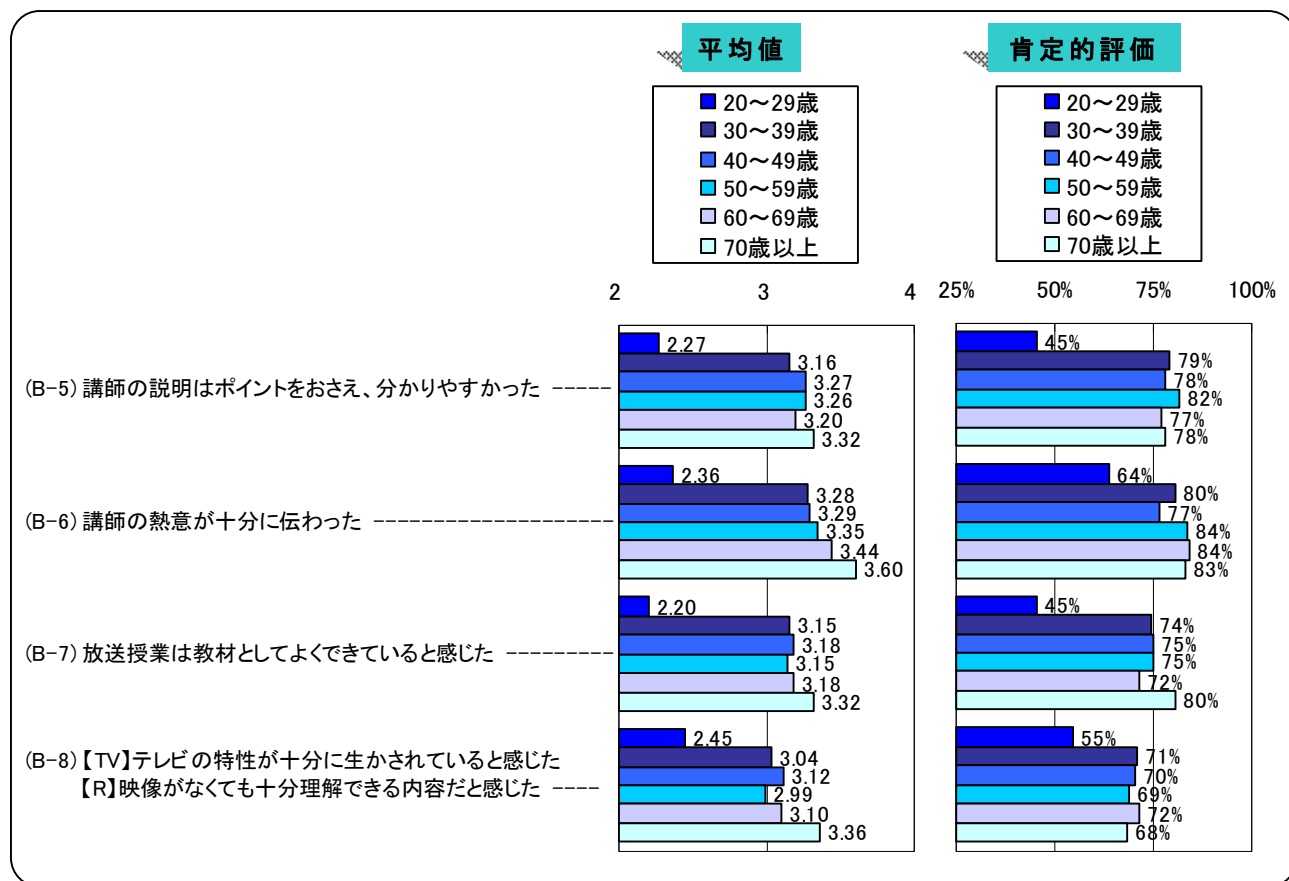
平均値

肯定的評価



年齢階層別に放送授業の評価を見ると（図2-80）、20歳代の評価が他の年齢階層に比べて低くなっているが全体的には評価が高くなっている。

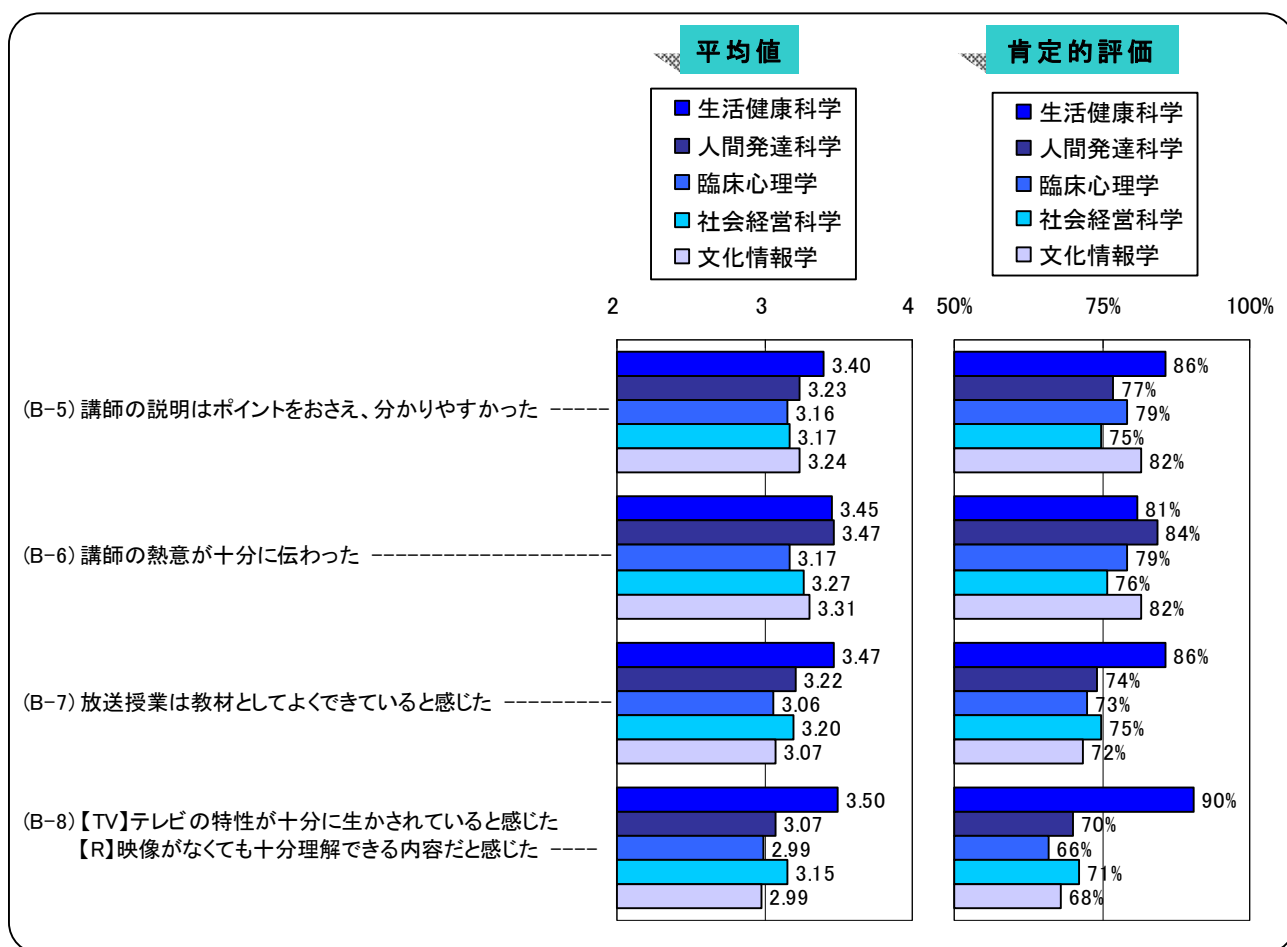
図2-80 【大学院】年齢階層別の放送授業の評価



所属プログラム別に放送授業の評価を見ると（図2-81）、総合評価の『(B-7) 放送授業は教材としてよくできていると感じた』を含め、『(B-5) 講師の説明はポイントをおさえ、分かりやすかった』、『(B-6) 講師の熱意が十分に伝わった』とともに、全体的に高評価である。

『(B-8) 【TV】テレビの特性が十分に活かされていると感じた／【R】映像がなくても十分理解できる内容だと感じた』は、「生活健康科学」の評価が高く、「臨床心理学」「文化情報学」の評価が低い。

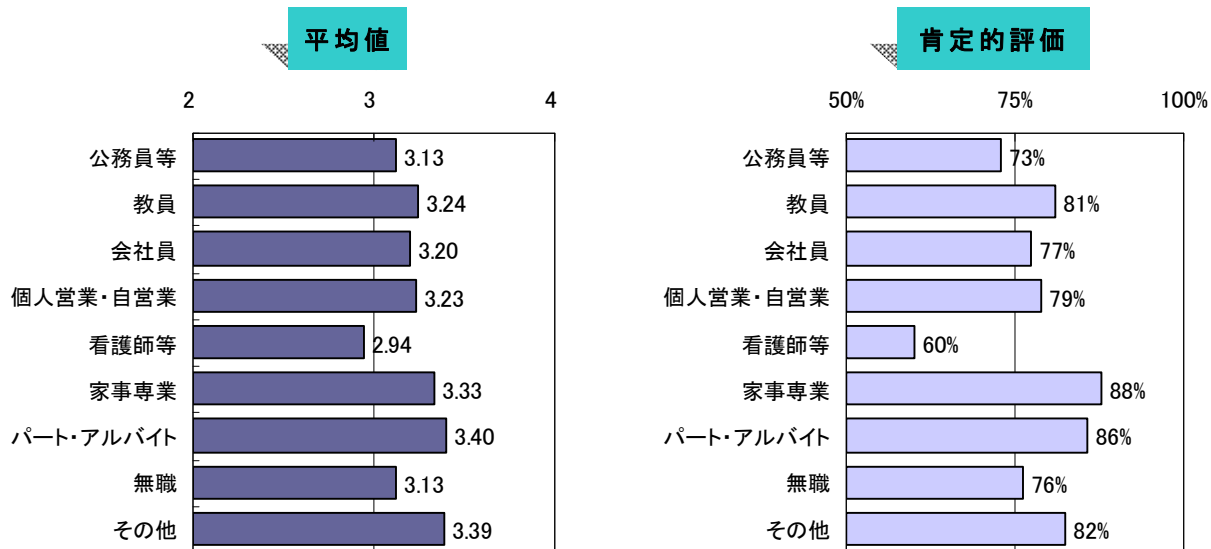
図2-81 【大学院】所属プログラム別の放送授業の評価



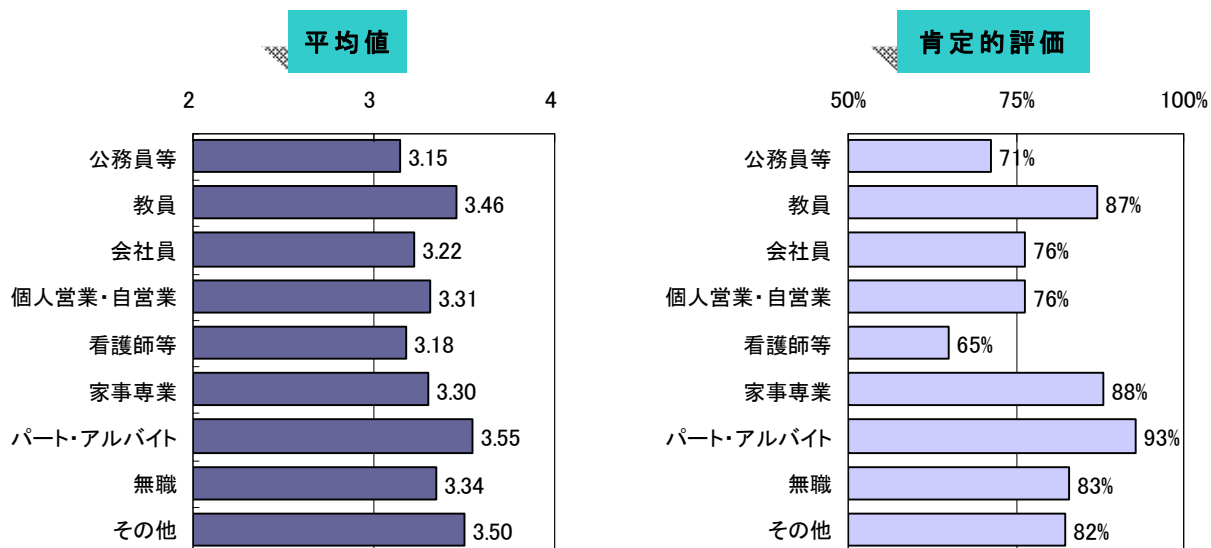
職業別に放送授業の評価を見ると（次頁図2-82）、どの項目でも「看護師等」「公務員等」の評価が低い。また『(B-7) 放送授業は教材としてよくできていると感じた』では「家事専業」の肯定的評価が高いことがわかる。

図 2 - 8 2 【大学院】職業別の放送授業の評価

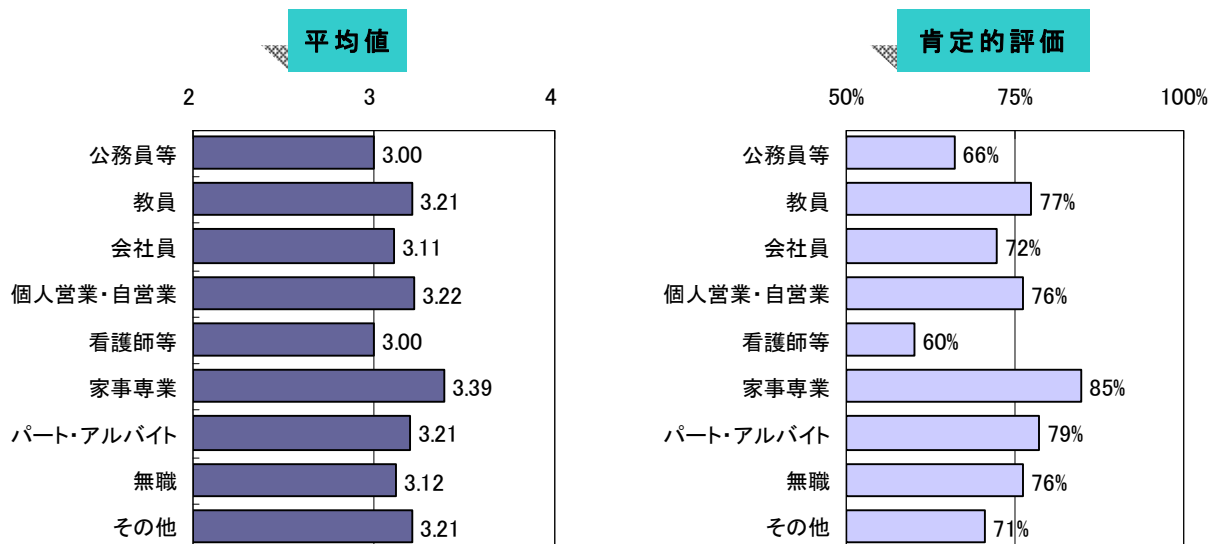
(B-5) 講師の説明はポイントをおさえ、分かりやすかった



(B-6) 講師の熱意が十分に伝わった



(B-7) 放送授業は教材としてよくできていると感じた



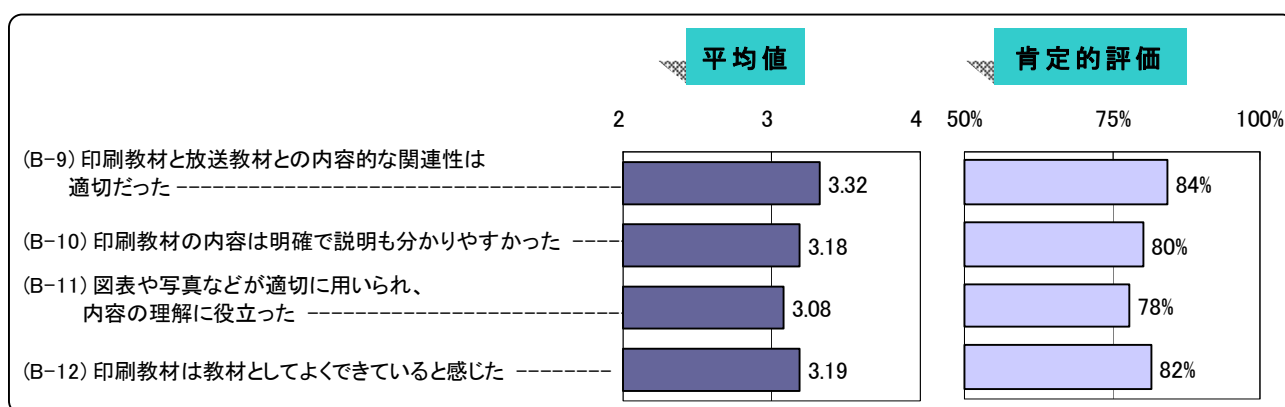
(4) 印刷教材

ここからは印刷教材について、評価項目ごとに見ていく。

印刷教材の評価項目では(図2-83)、いずれも高い評価を得ている。総合評価としての『(B-9) 印刷教材と放送教材との内容的な関連性は適切だった』は平均値 3.32、肯定的評価 84%と高くなっている。

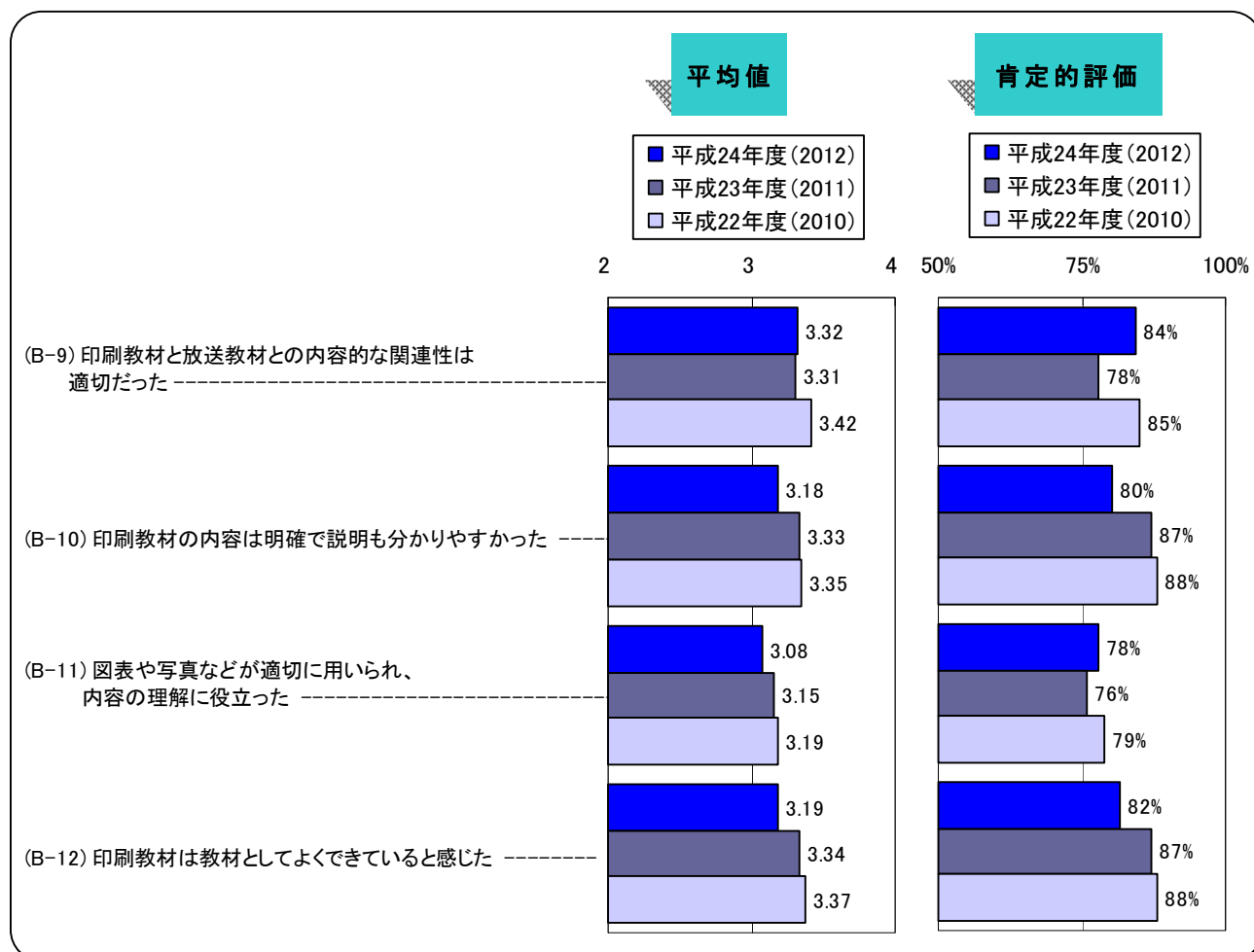
評価項目の中では、『(B-11) 図表や写真などが適切に用いられ内容の理解に役立った』の評価が他の項目より低く、さらに図表・写真の有効活用が必要であろう。

図2-83 【大学院】回答者全体の印刷教材の評価



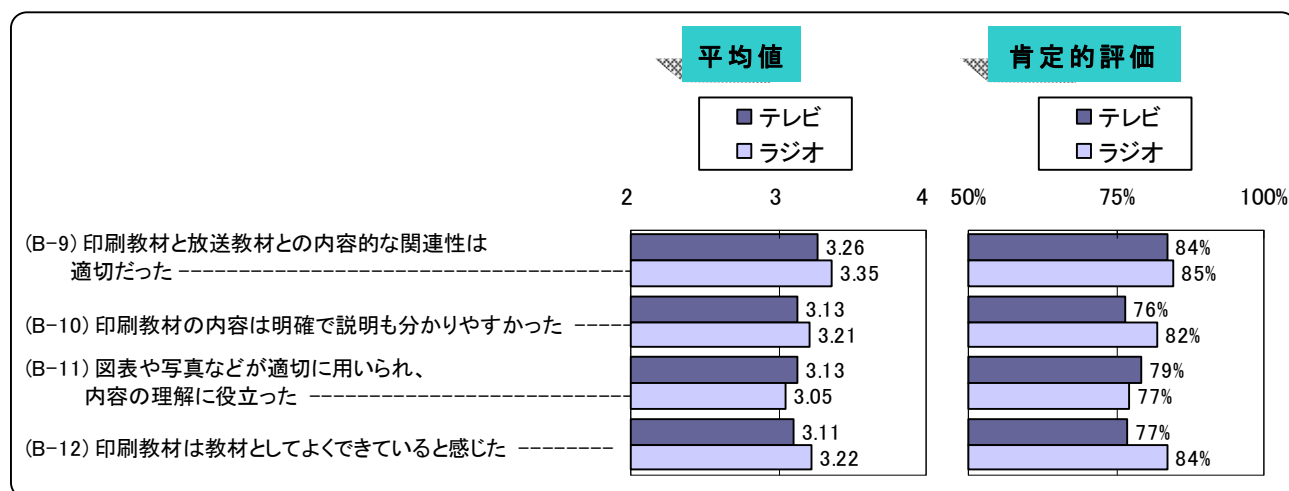
印刷教材の評価を時系列で見ると（図2-84）、『(B-9) 印刷教材と放送教材との内容的な関連性は適切だった』を除き、平均値は2012年新規開設科目は2011年新規開設科目評価に比べて減少している。

図2-84 【大学院】回答者全体の印刷教材の評価（時系列）



印刷教材の評価をメディア別に見ると（図2-85）、『(B-11) 図表や写真などが適切に用いられ内容の理解に役立った』についてはテレビ科目に比べ、ラジオ科目の評価が低くなっている。映像のないラジオの放送授業を補完するために、テレビ科目以上に図表や写真などを活用することが必要であろう。

図2-85 【大学院】メディア別の印刷教材の評価

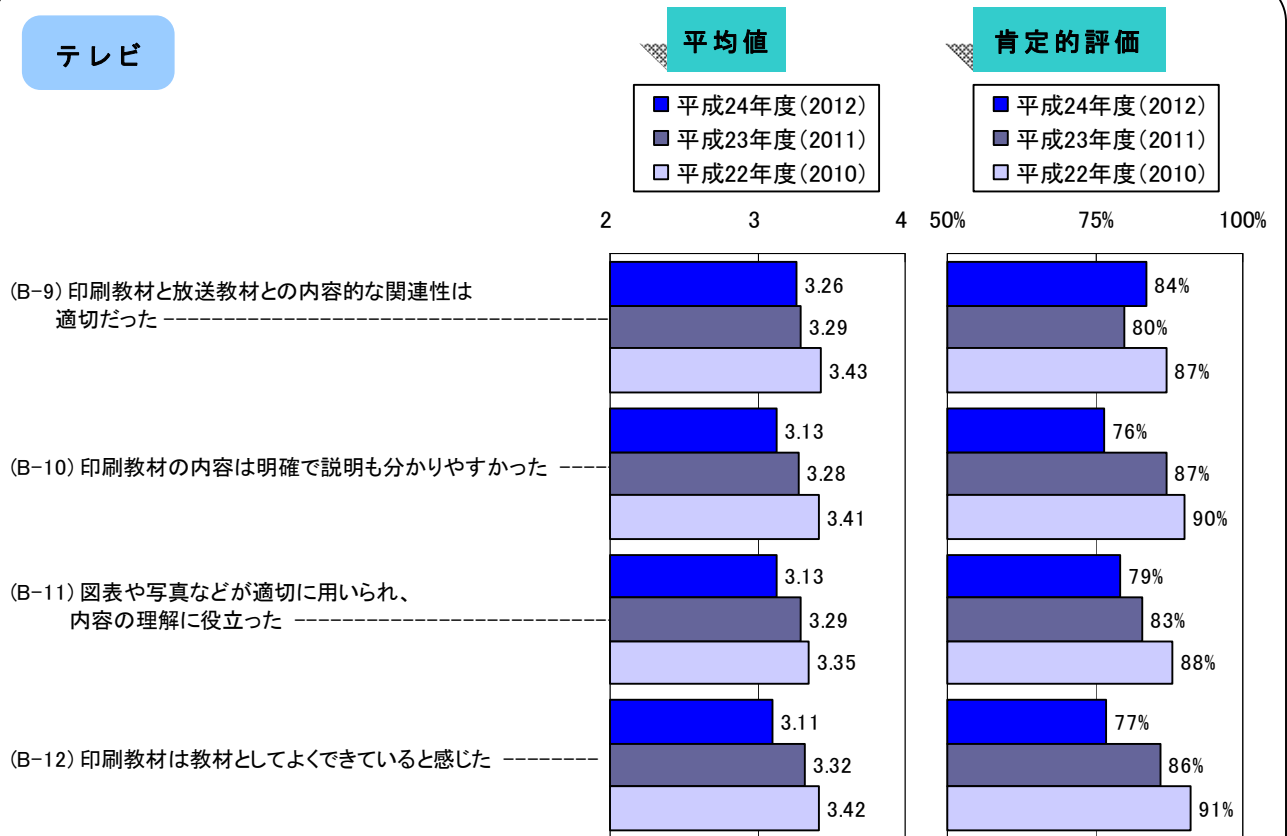


メディア別の印刷教材の評価を時系列で見ると（次頁図2-86）、テレビ科目については、2011年新規開設科目も、2012年新規開設科目も減少しており、改善が必要である。

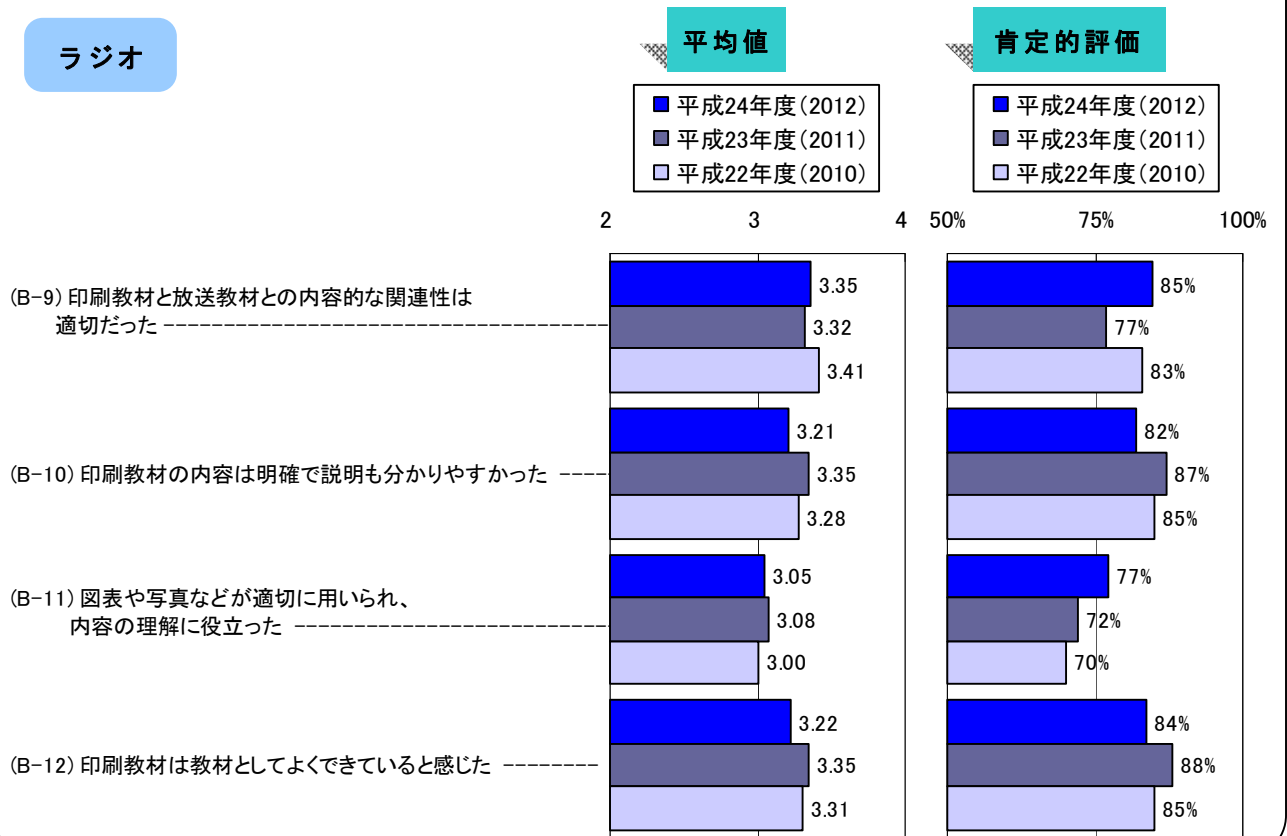
ラジオ科目についても、今年度調査（2012年新規開設科目）においては全体的に減少傾向にあり、『(B-9) 印刷教材と放送教材との内容的な関連性は適切だった』の項目で僅かながら評価が高くなっている。

図 2 - 8 6 【大学院】メディア別の印刷教材の評価（時系列）

テレビ

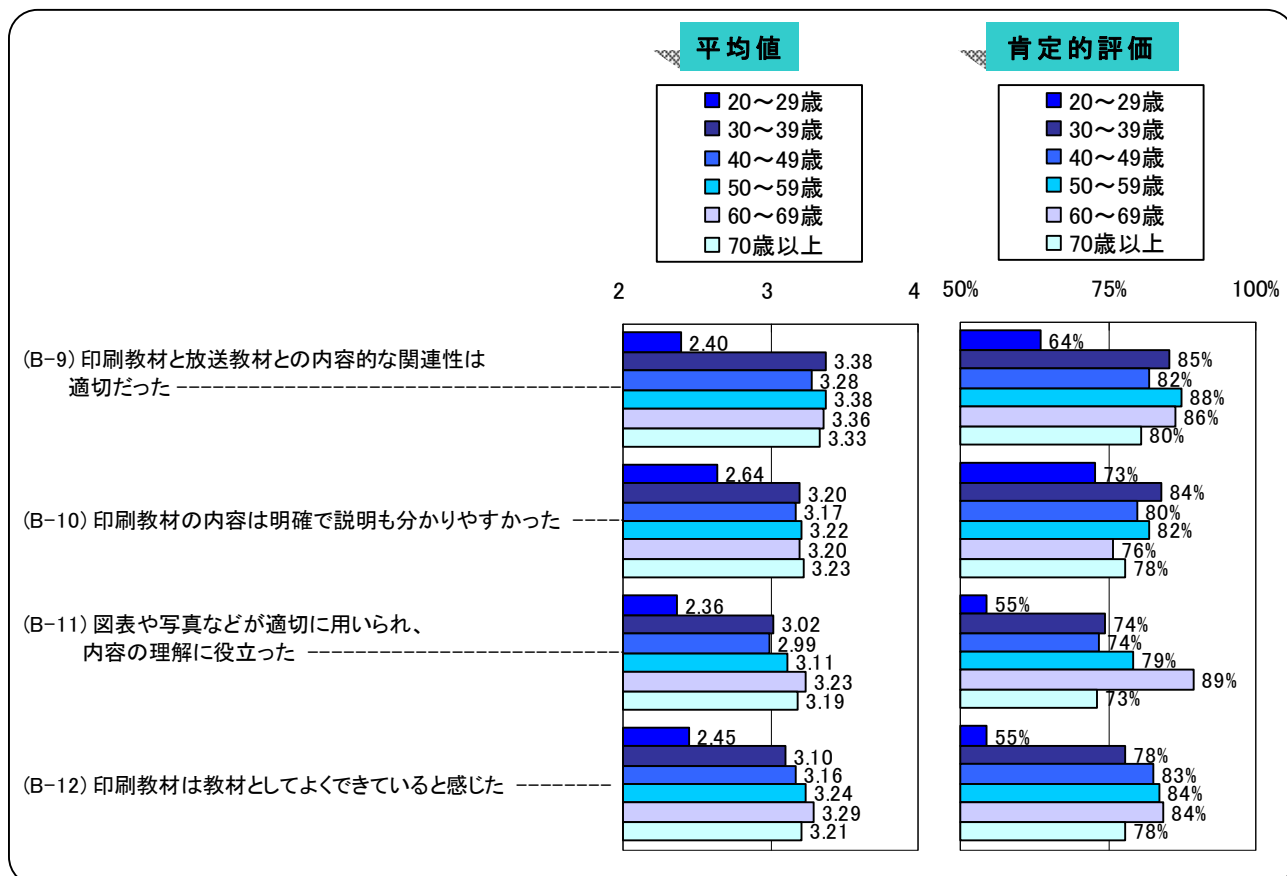


ラジオ



年齢階層別に印刷教材の評価を見ると(図2-87)、全体として高い値となっており、いずれの評価項目も、平均値、肯定的評価ともに、20歳代を除き評価が高くなっている。

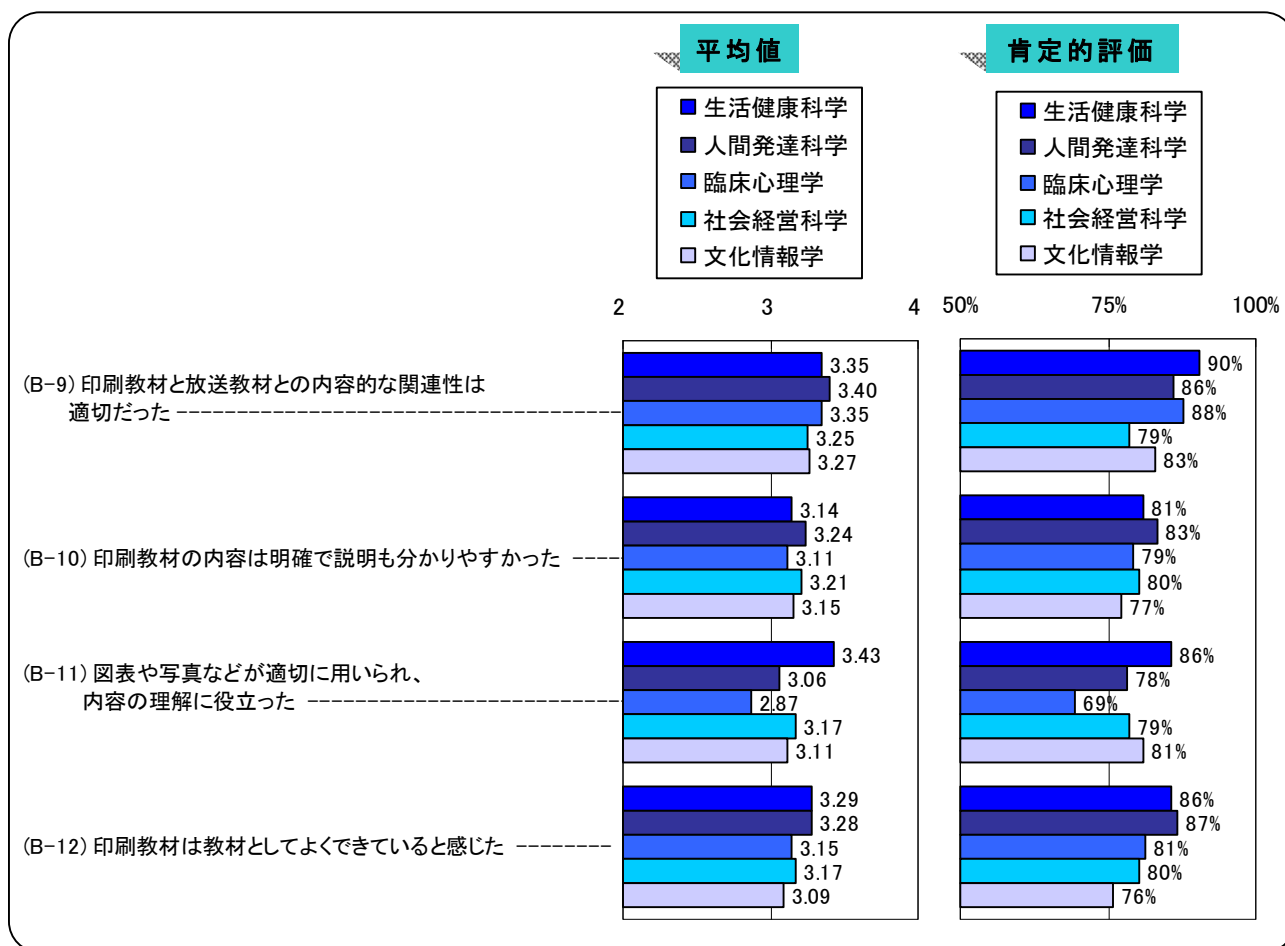
図2-87【大学院】年齢階層別の印刷教材の評価



所属プログラム別に印刷教材の評価を見ると（図2-88）、総合評価の『(B-12) 印刷教材は教材としてよくできていると感じた』は、「生活健康科学」と「人間発達科学」の評価が非常に高く、「文化情報学」の評価が他のプログラムに比べ低くなっている。

『(B-11) 図表や写真などが適切に用いられ、内容の理解に役立った』では「臨床心理学」の評価が低いため、改善が求められる。

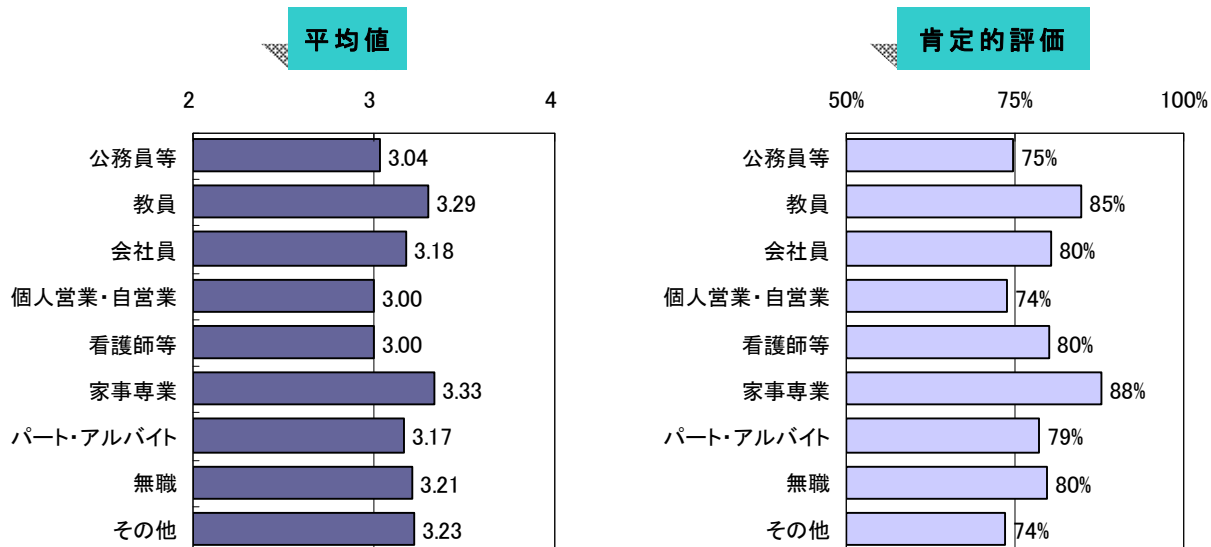
図2-88 【大学院】所属プログラム別の印刷教材の評価



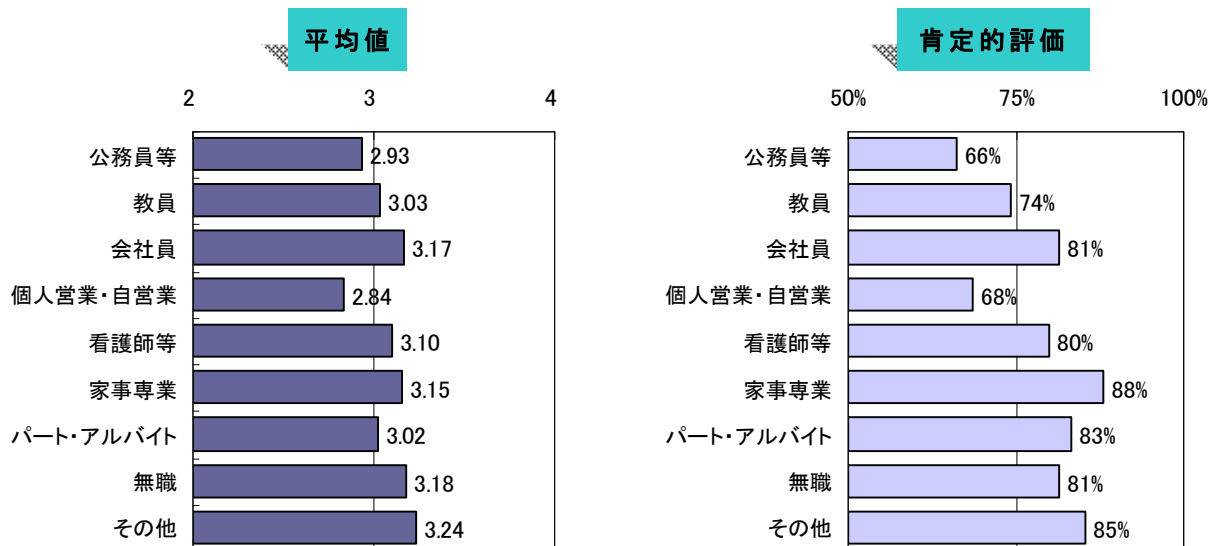
職業別に印刷教材の評価を見ると（次頁図2-89）、総合評価の『(B-12) 印刷教材は教材としてよくできていると感じた』は、全体的に評価が高い。しかし『(B-11) 図表や写真などが適切に用いられ、内容の理解に役に立った』の評価では「個人営業・自営業」「公務員」などで他の職業に比べ低い評価となっている。

図 2 - 8 9 【大学院】職業別の印刷教材の評価

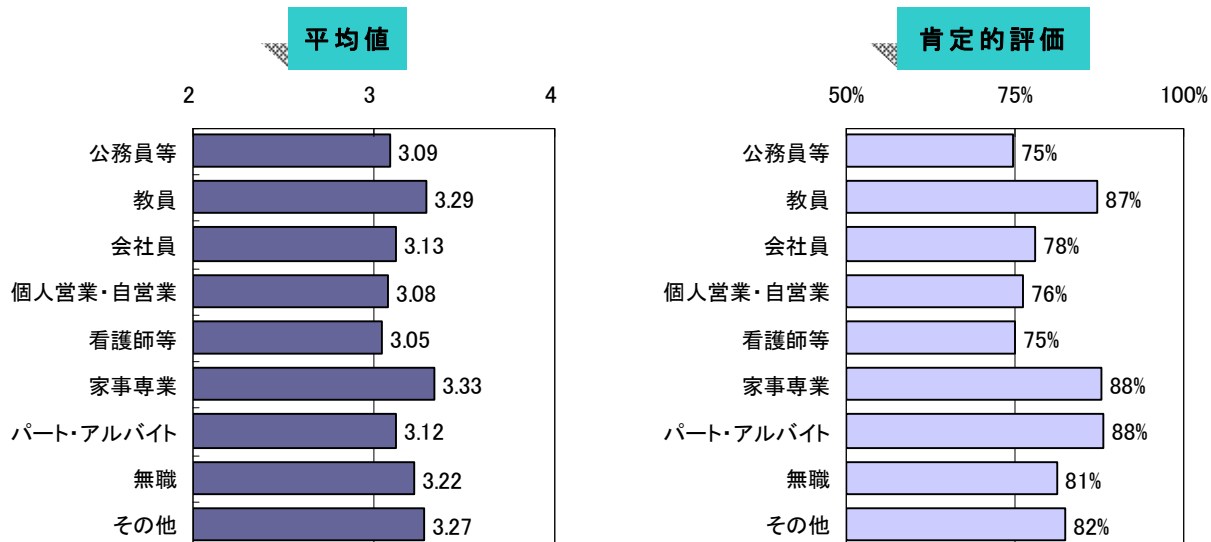
(B-10) 印刷教材の内容は明確で説明も分かりやすかった



(B-11) 図表や写真などが適切に用いられ、内容の理解に役立った



(B-12) 印刷教材は教材としてよくできていると感じた



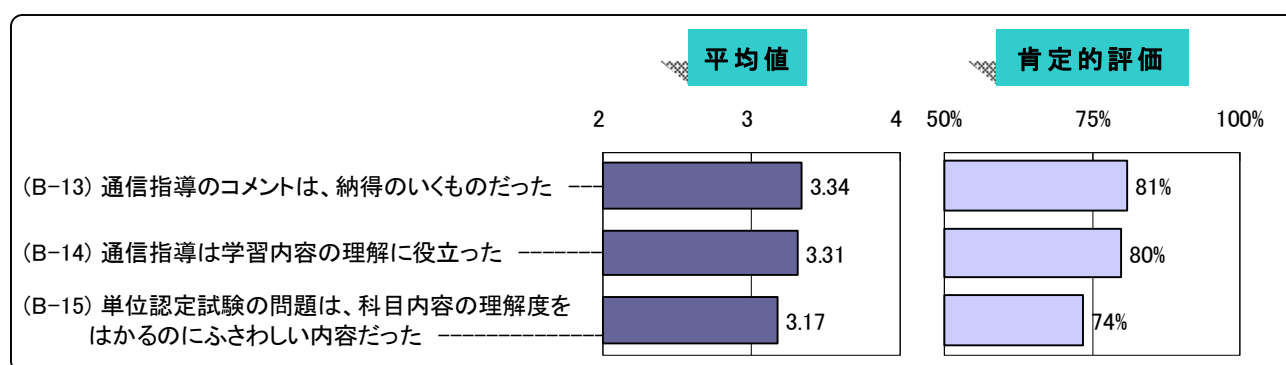
(5) 通信指導・単位認定試験

最後に通信指導・単位認定試験の評価について、項目ごとに見ていく。

通信指導については(図2-90)、『(B-13) 通信指導のコメントは、納得のいくものだった』が平均値 3.34、肯定的評価 81%、『(B-14) 通信指導は学習内容の理解に役立った』が平均値 3.31、肯定的評価 80%と、いずれも高い評価を得ている。

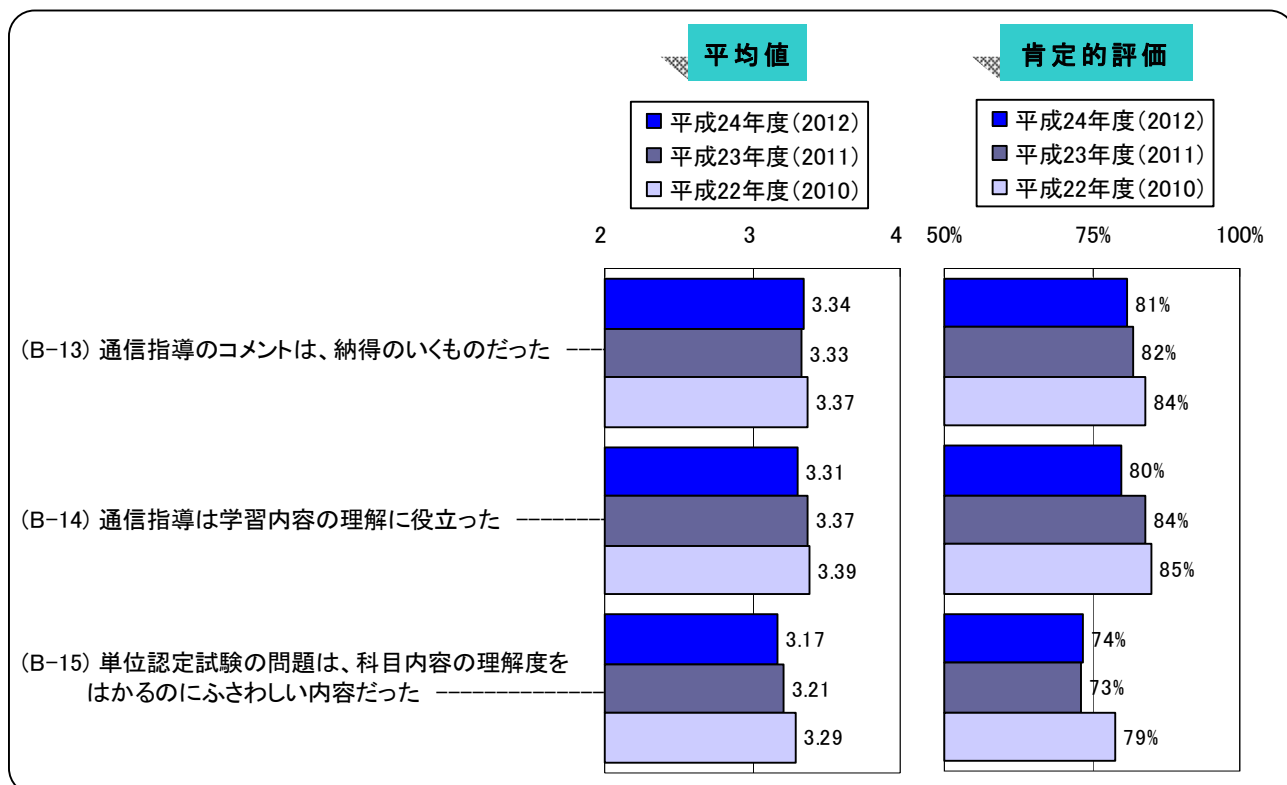
単位認定試験についても『(B-15) 単位認定試験の問題は科目内容の理解度をはかるのにふさわしい内容だった』が平均値 3.17、肯定的評価 74%と比較的评价が高くなっている。

図 2 - 9 0 【大学院】 回答者全体の通信指導・単位認定試験の評価



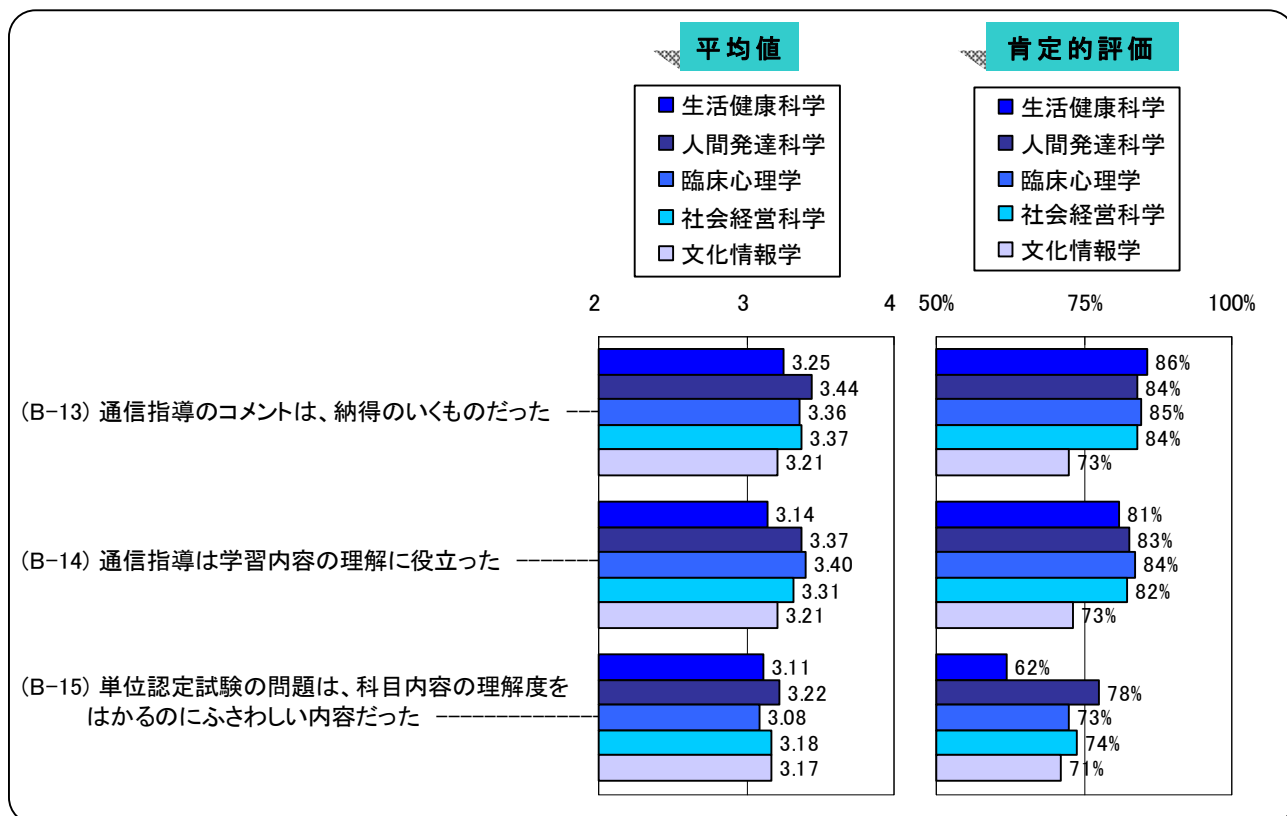
通信指導・単位認定試験の評価を時系列で見ると(次頁図2-91)、『(B-13) 通信指導のコメントは、納得のいくものだった』は、評価が若干増加したものの、『(B-14) 通信指導は学習内容の理解に役立った』、『(B-15) 単位認定試験の問題は科目内容の理解度をはかるのにふさわしい内容だった』は、2012年新規開設科目でも下がってしまった。

図 2 - 9 1 【大学院】回答者全体の通信指導・単位認定試験の評価（時系列）



所属プログラム別に通信指導・単位認定試験の評価を見ると（図 2 - 9 2）、通信指導は、他の所属プログラムに比べて「文化情報学」「生活健康科学」で評価が低い。単位認定試験は全体的に横並びであるが、「生活健康科学」の肯定的評価が低い。

図 2 - 9 2 【大学院】所属プログラム別の通信指導・単位認定試験の評価



Ⅱ－２－４．参考

ここでは、学部の場合と同様に、総合評価と各個別評価との関係を、相関係数を用いてみていく（相関係数の意味と見方については、72頁を参照されたい）。

表2－5は、放送授業の各評価項目と（A-2）「放送授業を十分に視聴した」（放送授業への取組姿勢）及び（B-7）「放送授業は教材としてよくできていると感じた」（放送授業の総合評価）の相関係数である。

表2－5 【大学院】放送授業と各項目との単相関係数

	(A-2) 放送授業を十分に視聴した	(B-7) 放送授業は教材としてよくできていると感じた
(A-2) 放送授業を十分に視聴した	1.000	0.390
(B-1) 放送授業の難易度は適切だった	0.392	0.657
(B-2) 放送授業の内容は適切な分量であった	0.413	0.630
(B-5) 講師の説明はポイントをおさえ、分かりやすかった	0.355	0.780
(B-6) 講師の熱意が十分に伝わった	0.405	0.730
(B-7) 放送授業は教材としてよくできていると感じた	0.390	1.000
(B-8) 【TV】テレビの特性が十分に生かされていると感じた 【R】映像がなくても十分理解できる内容だと感じた	0.362	0.687

これを見ると、（A-2）「放送授業を十分に視聴した」（放送授業への取組姿勢）と（B-7）「放送授業は教材としてよくできていると感じた」（放送授業の総合評価）の相関係数は0.390と、緩やかな相関が見られる。つまり放送授業の視聴度合いと放送授業の評価は、決して強くはないが、やや関連性があると言ってよい。

また（A-2）「放送授業を十分に視聴した」（放送授業への取組姿勢）と放送授業の各評価項目の間では、いずれも相関係数0.400に近く弱い相関が見られる。放送授業の取組姿勢のよい人は放送授業の評価がよく、逆に放送授業の評価がよいと取組姿勢もよくなることが推測される。

一方、（B-7）「放送授業は教材としてよくできていると感じた」（放送授業の総合評価）と放送授業の各評価項目との間では、いずれも強い相関が見られ、特に（B-5）「講師の説明はポイントをおさえ、分かりやすかった」が相関係数0.780、（B-6）「講師の熱意が十分に伝わった」が相関係数0.730と、相関が強くなっている。したがって、総合評価を高める上では、学部と同様、いずれの評価項目もよく改善することが重要であるが、

特に講師の説明の分かりやすさや講師の熱意が大切だと言える。

次に、印刷教材の各評価項目と、(A-3)「印刷教材を熱心に学習した」(印刷教材への取組姿勢)及び(B-12)「印刷教材は教材としてよくできていると感じた」(印刷教材の総合評価)の相関係数を見たのが表2-6である。

表2-6 【大学院】印刷教材と各項目との単相関係数

	(A-3)印刷教材を熱心に学習した	(B-12)印刷教材は教材としてよくできていると感じた
(A-3)印刷教材を熱心に学習した	1.000	0.371
(B-3)印刷教材の難易度は適切だった	0.382	0.581
(B-4)印刷教材の内容は適切な分量であった	0.404	0.538
(B-9)印刷教材と放送教材との内容的な関連性は適切だった	0.322	0.616
(B-10)印刷教材の内容は明確で説明も分かりやすかった	0.367	0.781
(B-11)図表や写真などが適切に用いられ、内容の理解に役立った	0.290	0.701
(B-12)印刷教材は教材としてよくできていると感じた	0.371	1.000

まず(A-3)「印刷教材を熱心に学習した」(印刷教材への取組姿勢)と、(B-12)「印刷教材は教材としてよくできていると感じた」(印刷教材の総合評価)および印刷教材の各評価項目との間には、あまり相関は見られない。

一方、(B-12)「印刷教材は教材としてよくできていると感じた」(印刷教材の総合評価)と印刷教材の各評価項目とでは相関が強く、特に(B-10)「印刷教材の内容は明確で説明も分かりやすかった」は相関係数0.781、(B-11)「図表や写真などが適切に用いられ内容の理解に役立った」が0.701と相関が強くなっている。そのため印刷教材の総合評価を高めるためには、いずれの評価項目もよく改善すると同時に、特に説明の分かりやすさと図表や写真を有効利用に注力することが重要と言える。

最後に(A-1)「全体としてこの科目の学習に熱心に取り組んだ(熱心度)」、(B-19)「この科目の内容を全体としてよく理解できた(理解度)」及び(B-20)「この科目の内容には全体として満足している(満足度)」と各評価項目の相関係数を見たのが次頁表2-7である。

表 2-7 【大学院】 取組姿勢・全体評価と各項目との単相関係数

		(A-1) 全体として、この科目の学習に熱心に取り組んだ(熱心度)	(B-19) この科目の内容を全体としてよく理解できた(理解度)	(B-20) この科目の内容には全体として満足している(満足度)
取組姿勢	(A-1) 全体として、この科目の学習に熱心に取り組んだ(熱心度)	1.000	0.444	0.434
	(A-2) 放送授業を十分に視聴した	0.561	0.261	0.270
	(A-3) 印刷教材を熱心に学習した	0.672	0.413	0.392
授業の難易度・分量	(B-1) 放送授業の難易度は適切だった	0.314	0.501	0.531
	(B-2) 放送授業の内容は適切な分量であった	0.324	0.453	0.520
	(B-3) 印刷教材の難易度は適切だった	0.338	0.562	0.581
	(B-4) 印刷教材の内容は適切な分量であった	0.353	0.521	0.544
放送授業	(B-5) 講師の説明はポイントをおさえ、分かりやすかった	0.353	0.555	0.566
	(B-6) 講師の熱意が十分に伝わった	0.335	0.434	0.506
	(B-7) 放送授業は教材としてよくできていると感じた	0.293	0.513	0.579
	(B-8) 【TV】 テレビの特性が十分に活かされていると感じた 【R】 映像がなくても十分理解できる内容だと感じた	0.341	0.446	0.489
印刷教材	(B-9) 印刷教材と放送教材との内容的な関連性は適切だった	0.297	0.499	0.514
	(B-10) 印刷教材の内容は明確で説明も分かりやすかった	0.368	0.618	0.636
	(B-11) 図表や写真などが適切に用いられ、内容の理解に役立った	0.315	0.525	0.564
	(B-12) 印刷教材は教材としてよくできていると感じた	0.345	0.573	0.650
単位認定試験・単	(B-13) 通信指導のコメントは、納得のいくものだった	0.317	0.372	0.467
	(B-14) 通信指導は学習内容の理解に役立った	0.329	0.480	0.576
	(B-15) 単位認定試験の問題は、科目内容の理解度をはかるのにふさわしい内容だった	0.254	0.403	0.481
全体評価	(B-16) 授業科目案内はこの科目の内容を知る上で役に立った	0.350	0.519	0.600
	(B-17) 学習意欲や興味・関心が高まる授業内容だった	0.415	0.632	0.755
	(B-18) 新しい知識が身につく視野が広がった	0.387	0.588	0.726
	(B-19) この科目の内容を全体としてよく理解できた(理解度)	0.444	1.000	0.754
	(B-20) この科目の内容には全体として満足している(満足度)	0.434	0.754	1.000

まず、全体的な熱心度（取組姿勢）と科目の理解度、満足度との関係を見ると、熱心度は理解度と 0.444、満足度と 0.434 の相関係数であり、熱心度と理解度・満足度との間には緩やかな相関が見て取れる。また理解度と満足度の相関係数は 0.754 と強い相関が見られ、理解度が高いと満足度も高いと言える。

(A-1)「全体としてこの科目の学習に熱心に取り組んだ（熱心度）」と各評価項目の相関を見ると、(A-3)「印刷教材を熱心に学習した」が相関係数 0.672 と強い相関が見られるが、(A-2)「放送授業を十分に視聴した」は相関係数 0.561 となっており、印刷教材中心の学習実態が反映されている。さらに全体評価の各評価項目とも緩やかな相関が見られる。

(B-19)「この科目の内容を全体としてよく理解できた（理解度）」は、(A-2)「放送授業を十分に視聴した」(B-13)「通信指導のコメントは納得のいくものだった」以外の各評価項目と相関が見られる。理解度は、放送授業や印刷教材の難易度・分かりやすさ、授業内容が興味や関心の高まるものであったかどうか、新しい知識が身につく視野が広がるものであったかどうかなど、さまざまな項目が要因となっている状況が窺える。

さらに、(B-20)「この科目の内容には全体として満足している（満足度）」は、取組姿勢以外の各評価項目と相関が見られ、満足度を高める上でいずれの評価項目も影響していることが分かる。なかでも特に相関が強いのは、(B-17)「学習意欲や興味・関心が高まる授業内容だった」、(B-19)「この科目の内容を全体としてよく理解できた（理解度）」、(B-18)「新しい知識が身につく視野が広がった」である。科目の満足度を高める上で、印刷教材の分かりやすさ、興味・関心のもてる授業内容、視野が広がるような知識の習得などが特に重要なポイントと言える。